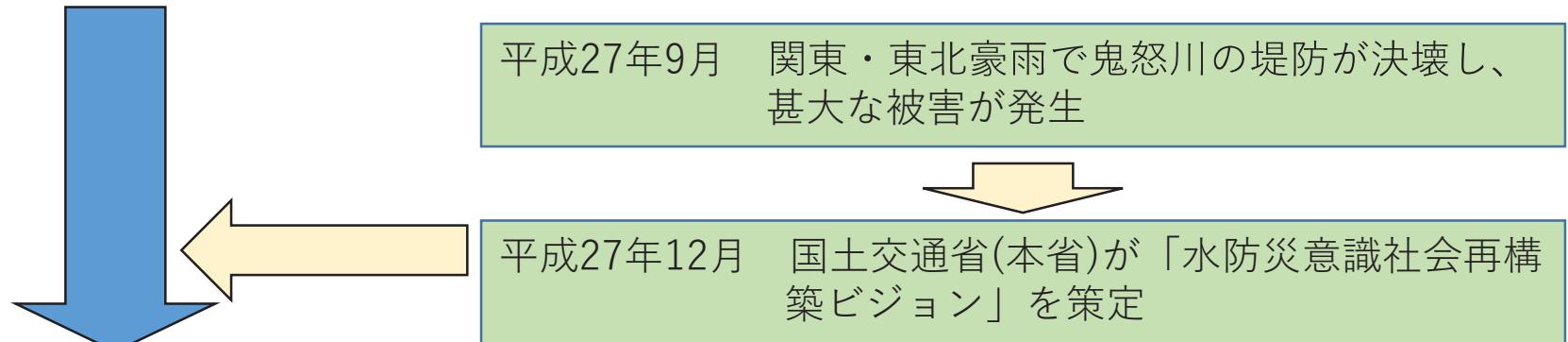


庄内川流域の減災に係る取組状況

本協議会の経緯（概要①）

平成25年 庄内川の水害から命を守るための合同会議を発足



平成28年5月 庄内川の水害から命を守るための合同会議で
ビジョンに基づく取組方針(案)について議論

平成28年8月 「庄内川流域の減災に係る取組方針」策定
ビジョンを踏まえた今後5カ年(R2年まで)の取組の目標、取組内容、取組の実施体制等を明文化
(取組方針の構成)

- 減災のための目標
「人名被害ゼロ」、「社会経済被害の最小化」
- 概ね5年で実施する取組(ハード対策・ソフト対策)
- 取組の実施体制
- 取組のフォローアップ

以降、合同会議を法定会議として実施

平成29年6月 水防法が改正
直轄管理河川において減災協議会が義務化

本協議会の経緯（概要②）

- 平成29年5月26日 土岐川・庄内川の水害から命を守るための合同会議
取組状況について情報共有



平成29年6月 関係者が緊急的に実施すべき「緊急行動計画」を策定



- 平成30年6月 7日 土岐川・庄内川の水害から命を守るための合同会議
取組状況について情報共有、水防法に基づく「大規模氾濫
減災協議会」として改組
- 平成30年9月21日 土岐川・庄内川の水害から命を守るための合同会議
平成30年7月豪雨について 取組状況について情報共有



平成31年1月 関係者が緊急的に実施すべき「緊急行動計画」を改訂



- 令和元年5月30日 土岐川・庄内川の水害から命を守るための会議
協議会構成員（福祉部局）の拡充、取組状況について情報共有
- 令和元年9月27日 土岐川・庄内川の水害から命を守るための会議
幹事会（福祉部局と水防災部局の合同会議）
取組状況について情報共有

取組方針におけるフォローアップに関する記載

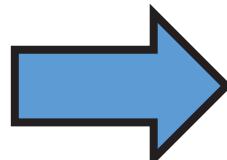
1. はじめに

・・・庄内川では、「人名被害ゼロ」、「社会経済被害の最小化」を目標として、平成32年度までの主な取組については以下のとおりとした。

- ハード対策として、下流部の河道掘削や堤防整備などの「洪水を河川内で安全に流す対策」を重点的に実施するとともに、一部、堤防天端の保護や堤防の裏法尻の補強といった「危機管理型ハード対策」を実施する。
- ソフト対策として、人名被害ゼロに向け迅速かつ的確な避難行動を促すための取組として、タイムライン（事前防災行動計画）の作成・実践、水防災フォーラムの開催、小学生等を対象とした防災教育の実施、プッシュ型の洪水予報等の情報発信等を実施するとともに、万が一氾濫が発生した場合でも、一刻も早い社会経済活動の回復を可能とするため、滞留した氾濫流の排水計画案について検討を実施する。

7. フォローアップ

・・・毎年出水期の前に開催する合同会議の中で、進捗状況を確認するとともに、各市町の検討会や勉強会等の中で新たに抽出された課題や取組については、その際に追加を行うなど、継続的なフォローアップを行う。

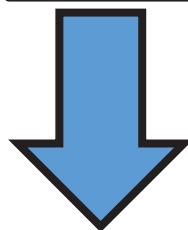


- ・**毎年、出水期前にフォローアップ**
- ・**今年度が、現在の取組方針の最終年度**

今後のスケジュール（案）

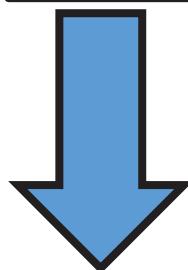
令和2年4月28日 メールにて各機関にこの5年間の取組を依頼

令和2年5月末 土岐川・庄内川の水害からいのちを守る会議
(出水期前) **この5年間の取組の現状を確認**
この出水期で取り組むことを確認



※梅雨明け後に幹事会を開催し、この5年間取組の目玉及び課題を整理

令和2年11月 土岐川・庄内川の水害からいのちを守る会議
(出水期後) **この5年間の取組フォローアップ**
(成果・課題のとりまとめ)



年内 **この5年間の取組結果等の公表**

※第4四半期に幹事会を開催し、新たな取り組み方針を整理

令和3年5月 土岐川・庄内川の水害からいのちを守る会議
R7までの新たな取組方針を策定

取組方針に基づく取組総括表

「庄内川流域の減災に係る取組方針」概ね5年で実施する取組進捗状況(ソフト対策)

【機関名】 土地交通省 庄内川河川事務所

様式-1

| 実施計画別見出し 事項 | 実施期間 | 項目 番号 | H26～R1までの仕事的取組 | | | | | H28～R1までの取組状況 | R2の取組予定 | これまでの課題等 | | | | | |
|--|-------------|-----------|-------------------|------------------------|-------------|------------------------------|---|--|---|--|--|--|--|--|--|
| | | | 実施年月日 | 実施場所 | 参加人数 | 参加機関 | 実施主体 | | | | | | | | |
| ●ソフト対策の主な取組 山火事警報ゼロに向けた住民の自主的な避難行動を促す取組 ■庄内川からの避難行動につながるリスク情報、避難場所や避難に関する情報の周知、住民の防災意識向上のための取組 | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>想定最大規模も含めた浸水想定区域図、浸水シミュレーション、豪雨側面等氾濫想定区域の公表</p> <p>想定最大規模路面の浸水想定区域におけるハザードマップ作成及び利用徹底</p> <p>小学生にも理解できる教材を用いた、防災教育の実施</p> <p>住民の水害リスクの認識向上を目的としたみずから守るプログラムによる支援や水防災フォーラムの開催</p> <p>災害・避難カードによる避難行動の認証の徹底</p> | | | | | | | | | | | | | | | |
| 想定最大規模も含めた浸水想定区域図、浸水シミュレーション、豪雨側面等氾濫想定区域の公表 | 平成29年度出水期まで | 1 | 平成29年12月15日 告示 | | | | | 庄内川河川事務所 | -想定最大規模も含めた浸水想定区域図、浸水シミュレーション、豪雨側面等氾濫想定区域の公表 | -市町における想定最大規模路面の浸水想定区域におけるハザードマップ作成支援 | -事務所HPに掲載しているが、深水深等についての問い合わせが多く、回答方法に課題 | | | | |
| 想定最大規模路面の浸水想定区域におけるハザードマップ作成及び利用徹底 | 平成29年度～ | 2 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | | | | |
| 小学生にも理解できる教材を用いた、防災教育の実施 | 毎年実施 | 3 | 平成30年11月18日 | 多治見市轟華小学校 多治見市町和小学校 | 123名 54名 | 多治見市轟華小学校6年生 多治見市町和小学校6年生 | 庄内川河川事務所 | -多治見市内の小学校生を対象に災害対策車両の操作体験を実施 -防災への懸念心をより高めてもらいたため、平成29年8月台風15号による浸水被害を受けた多治見市において実施。 | -東海豪雨20年を踏まえた防災教育及び小学校への災害対策操作体験 | -教育委員会等へのPR | | | | | |
| 住民の水害リスクの認識向上を目的としたみずから守るプログラムによる支援や水防災フォーラムの開催 | 毎年実施 | 4 | 平成29年11月29日 | 多治見市震災文化センター | 約180名 | 多治見市民、企業、行政の防災担当者など | 庄内川河川事務所 | -住民の水害リスクの認識向上を目的としたみずから守るプログラムによる支援や水防災フォーラムの開催 -パネルディスカッションでは、三重県紀宝町を例にした地域のタイムラインについて映像を交えて紹介され、行政主導のタイムラインだけではなく、地域住民も計画するコミュニケーションタイムラインも大切であることが確認された | -TG20フォーラム予定(9/11) -TG20バキル展示 | -コロナ対応により開催時期不確定 | | | | | |
| 災害・避難カードによる避難行動の認証の徹底 | 引き続き実施 | 5 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | | | | |
| ■庄内川の水位毎に備する避難行動につながるリスク情報の周知 | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>洪水予報文の改良</p> <p>リアルタイムの情報提供やブッシュ型の洪水予報等の情報発信</p> <p>CCTVカメラの情報の高度化、水位やかみめ因縁等の情報の入手、活用方法の周知</p> <p>県と共同で行う市町村防災担当者向け「防災気象情報に関する講習会」等の実施</p> | | | | | | | | | | | | | | | |
| 洪水予報文の改良 | 平成29年度 | 6 | 令和元年5月28日 | | | | 木曽川上流河川事務所、木曾川下流河川事務所、庄内川河川事務所、庄内川河川事務所、菅原川河川事務所、安知郡、名古屋地方気象台 | -洪水予報文の改良 -定期的の宣伝レーベルにより発信することで、住民が情報を意味的に理解可能となることが期待される | -今年度、洪水予報文を庄内川と矢張川と分別してそれぞれ発表に分けて発表できるよう改定予定 | -職員のシステム操作の習熟(短時間で発表のため) | | | | | |
| リアルタイムの情報提供やブッシュ型の洪水予報等の情報発信 | 平成29年度から | 7 | 平成30年4月3日 | | | | 庄内川河川事務所 | -リアルタイムの情報提供やブッシュ型の洪水予報等の情報発信 -メール配信は、西濃電話事業者が提供する「緊急連絡メール」のサービスを活用して洪水情報を西濃電話ユーザーへ配信することで、住民の主体的な避難を促進することが可能となる | -今年度は、R2.6.14に多治見市水防訓練の中での「緊急連絡メール」(ブッシュ型)にて訓練を実施予定 | -訓練を実施するのにあたり、関係者への事前周知が相当大変 | | | | | |
| CCTVカメラの情報の高度化、水位やかみめ因縁等の情報の入手、活用方法の周知 | 平成29年度から | 8 | | 庄内川沿川 | | | 庄内川河川事務所 | -CCTVカメラの機能の高度化、水位やかみめ因縁等の情報の入手、活用方法の周知 -危機管理型水位計は、洪水時のみの水位観測に特化した低コストな機器で、結果は説明することが困難であった「洪水に対するリスクが高い低い」というよりも確実に可能となるなど、水位観測網を充実させることができ、避難行動につながるリスク情報をきめ細かに提供することが可能となる | -今年度は、危機管理水位計を1箇所(高橋、瀬戸市)にて設置予定 | -危機管理水位計について、各自の施設と運用水位等について確認する(合意協議等で規地確認) | | | | | |
| 県と共同で行う市町村防災担当者向け「防災気象情報に関する講習会」等の実施 | 引き続き実施 | 9 | — | — | — | — | 庄内川河川事務所 | — | — | — | — | | | | |
| ■庄内川の水位毎に備する避難行動 | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>ハザードマップの周知徹底(再掲)</p> <p>小学生にも理解できる教材を用いた、防災教育の実施(再掲)</p> | | | | | | | | | | | | | | | |
| ハザードマップの周知徹底(再掲) | 引き続き実施 | 10 | — | — | — | — | 庄内川河川事務所 | — | — | — | — | | | | |
| 小学生にも理解できる教材を用いた、防災教育の実施(再掲) | 毎年実施 | 11 (3) | 平成30年11月18日 | 多治見市轟華小学校 多治見市町和小学校 | 123名 54名 | 多治見市轟華小学校6年生 多治見市町和小学校6年生 | 庄内川河川事務所 | -多治見市内の小学校生を対象に災害対策車両の操作体験を実施 -防災への懸念心をより高めてもらいたため、平成29年8月台風15号による浸水被害を受けた多治見市において実施。 | -東海豪雨20年を踏まえた防災教育及び小学校への災害対策操作体験 | -教育委員会等へのPR | | | | | |

別紙1で各機関における取組状況を紹介

危機管理型ハード対策の進捗状況

洪水氾濫を未然に防ぐ対策 概要図 <庄内川>



洪水を河川内で安全に流すためのハード対策の進捗状況

危機管理型ハード対策 概要図 <庄内川>



庄内川枇杷島地区（左岸）



庄内川枇杷島地区（右岸）



平常時からの避難行動につながるリスク情報、避難場所や経路に関する情報の周知①

庄内川河川事務所

重ねるハザードマップとは？

01

防災に役立つ災害リスク情報を地図や写真に
自由に重ねて表示することができます



必要な情報を自由に
重ねあわせる

防災に役立つ情報を一元的に閲覧できます

閲覧できる情報

洪水・浸水想定区域

河川氾濫により浸水が想定される区域と浸水深が何段階かで想定される区域があります。



緊急輸送道路

災害直後から、救援・救助・物資供給等の応急活動のために、緊急車両の通行を確保すべき重要な道路。



道路冠水想定箇所

大雨の際に冠水し、車両が水没するなどの重大な事故が起きる可能性がある箇所。



事前通行規制区间

大雨などで土砂崩れや落石の恐れのある箇所について、規制の基準を定めて、災害が発生する前に通行止めなどの規制を実施する区间。



【その他に閲覧できる情報】

- ため池浸水想定区域
- 津波浸水想定
- 土砂災害警戒区域等
- 土砂災害危険箇所
- 予防的通行規制区域
- 過去から現在までの空中写真
- 土地条件図
- 沿岸海域土地条件図
- 治水地形分類図
- 明治期の低湿地
- 活断層図
- 火山基本図
- 火山土地条件図
- 色別標高図
- 自由な色別標高図
- 大規模修土造成地

わがまちハザードマップとは？

02

全国の市町村が作成したハザードマップを
地図や災害種別から簡単に検索することができます



ハザードマップポータルサイト

全国の防災に役立つ情報を閲覧できます

URL:<https://disaportal.gsi.go.jp/>

ハザードマップ

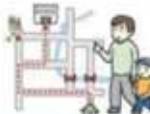
検索



ハザードマップポータルサイトの活用例

住民

- ・避難ルート、避難方法の検討
- ・自宅付近の災害リスク確認
- ・浸水対策の検討
- ・地震対策の検討



行政

- ・防災計画、避難計画等の策定
- ・周辺市町村の災害リスクの確認
- ・公共施設の立地検討、安全度評価
- ・住民への注意喚起



平常時からの避難行動につながるリスク情報、 避難場所や経路に関する情報の周知②

庄内川河川事務所

令和元年10月20日、「ぼうさいこくたい2019」において、名古屋駅地区庄内川タイムラインを事例として、名古屋市・内閣府・庄内川河川事務所の主催により、名古屋駅地区街づくり協議会の協力を得て、「水害から命を守るためにやるべきことは何か」を議論しました。



コーディネーター
松尾一郎氏 (東京大学
大学院客員教授)

パネリスト
西田将人
(庄内川河川事務所長)

パネリスト
坂野正典氏 (名古屋市
防災危機管理局次長)

パネリスト
岸田晃彦氏 (名古屋駅
地区街づくり協議会事
務局長)

パネリスト
佐藤和輝氏 (中京テレビ
アナウンサー)

会場の様子



トークセッションの様子

- 松尾氏:「それぞれの立場でワンフレーズ。命を守るためにやるべきことは何？」
- 西田:『水防災意識社会』施設の能力を上回る洪水は発生するということを皆さんに認識して頂き、社会全体で水防災の意識を高めることが重要。河川管理者としても、ただ情報を出すだけでなく、メディアとも連携してわかりやすく情報を発信していきたい。
- 佐藤氏:『あなたの番です!!』会場に集まっている防災意識の高い皆さんに、より高い防災意識を持ってもらい、横に広めていただきたい。
- 坂野氏:『当事者』当事者意識を持っている消防職員から市民へ当事者意識を広めたい。また、名古屋市職員全員に当事者意識を持ってもらいたい。そのために尽くしていくことを誓います。
- 岸田氏:『まさかの壁』自分は大丈夫だと思った瞬間に防災に関する思考がとまってしまう。まさかの壁の向こうにあるリスクを知り、命を守るために事前に考えることが必要。「まさかの壁」をぶち壊して日頃から防災意識を高めていただきたい。

洪水時の河川の水位等に関する避難行動に繋がる リスク情報の周知①

庄内川河川事務所

水害リスクの高い箇所を周知するための取組

代表的なもの：～危機管理型水位計の増設～

庄内川及び土岐川の洪水に対するリスクが高い箇所の内、近傍に水位計が設置されていない9箇所に、危機管理型水位計を増設

H30危機管理型水位計設置状況



JR関西本線庄内川橋梁下流
(庄内川右岸6.6k)



新庄内川橋下流
(庄内川左岸17.4k)

【危機管理型水位計設置】

- : R1危機管理型水位計設置予定箇所(1箇所)
- : H30危機管理型水位計設置済箇所(8箇所)
- : 既設水位計設置箇所



※危機管理型水位計は、洪水時ののみの水位観測に特化した低コストな機器で、従来は設置することが困難であった「洪水に対するリスクが高い箇所」などにも増設が可能となるなど、水位観測網を充実させることができ、避難行動につながるリスク情報をきめ細かく提供することができる。

洪水時の河川の水位等に関する避難行動に繋がる リスク情報の周知①

庄内川河川事務所

■危機管理型水位計とは

革新的河川技術(管理)プロジェクトにより開発した、洪水時の観測に特化した水位計です。
洪水時の観測に特化すること、携帯通信網を利用すること、汎用部品を活用することにより、大幅にコストダウン・サイズダウンを図ったものです。
5年間無給電（電池等で稼働）、メンテナンスフリーが標準仕様となっています。



現場実証実験第一弾（鶴見川水系 鳥山川）



現場実証実験第二弾※寒冷地仕様（最上川水系）



洪水時の河川の水位等に関する避難行動に繋がる リスク情報の周知②

庄内川河川事務所

緊急速報メールを活用した洪水情報の配信プッシュ型配信イメージ



<メール配信の文案>

| 氾濫危険情報【警戒レベル4】 河川氾濫のおそれがあるとき | 氾濫危険情報【警戒レベル5】 河川氾濫が発生したとき | |
|---|---|--|
| <p>【件名】氾濫のおそれ 警戒レベル4相当 庄内川で氾濫のおそれ 枇杷島（清須市）付近で河川の水位が上昇、 氾濫が発生する危険があります 自治体からの情報を確認し、安全確保を図る など速やかに適切な防災行動をとってください。今後、氾濫が発生すると、避難が困難になります</p> | <p>【件名】氾濫発生 警戒レベル5相当 庄内川で氾濫が発生 〇〇市〇〇地先（〇〇側）で堤防が壊れ、河川 の水が住宅地などに押し寄せています 命を守るために適切な防災行動をとってください</p> | <p>【件名】氾濫発生 ※破堤の場合 警戒レベル5相当 庄内川で氾濫が発生 〇〇市〇〇地先（〇〇側）付近で河川の水 が堤防を越えて住宅地などに押し寄せています 命を守るために適切な防災行動をとってください</p> |

洪水時の河川の水位等に関する避難行動に繋がるリスク情報の周知②

庄内川河川事務所

離れた場所に暮らす高齢者等の家族に危険が差し迫った場合、家族が直接電話をかけて避難行動を呼びかける「逃げなきゃコール」の取組を令和元年5月28日より開始しました。



住民自らの行動に結びつく
水害・土砂災害ハザード・リスク
情報共有プロジェクト

NHK（NHK防災アプリ）、ヤフー（株）（Yahoo!防災速報アプリ）、KDDI（株）（登録エリア災害・避難情報メール）の協力



洪水時の河川の水位等に関する避難行動に繋がる リスク情報の周知②

庄内川河川事務所

- 「逃げなきやコール」は以下のアプリを活用し、地域登録することで利用可能になります。

NHKニュース・防災

[https://www3.nhk.or.jp/news/
news_bousai_app/index.html](https://www3.nhk.or.jp/news/news_bousai_app/index.html)



Yahoo! 防災速報

<https://emg.yahoo.co.jp>



au登録エリア災害・避難情報メール

[https://www.au.com/mobile/
anti-disaster/area-saigai-hinan/](https://www.au.com/mobile/anti-disaster/area-saigai-hinan/)



※令和元年7月4日よりサービス開始

洪水時の河川の水位等に関する避難行動に繋がる リスク情報の周知②

庄内川河川事務所

「氾濫が発生したもよう」情報の発信について

R2.5

- 令和元年東日本台風(台風19号)において、堤防決壊等の現地確認ができないこと等による氾濫発生情報の出し遅れや出し忘れが発生



- 地域住民に迅速に氾濫情報を伝えるため
 - ①住民からの連絡やSNS等により決壊・越水の発生情報を入手
 - ②監視カメラ・水位計を設置しておらず(故障も含む)現地確認ができない
 - ③更に水防団等による直接的な現地確認もできない
 - ④近傍の監視カメラ・水位計等による流況(急激な水位低下等)から、決壊・越水の可能性を認めた場合



「氾濫が発生したもよう」情報を発出

【留意点】

1. 「もよう情報」は、水防法(10条第2項)に基づく「氾濫発生情報」ではなく、事務所からの**「任意情報」として発信**（中部地整独自の取り組み）
2. 「もよう情報」は、洪水予警報の連絡先へのFAX等、SNS、ホームページを活用して地域住民へも発信

『●●川で氾濫が発生したもよう(○○市○○地区付近において(堤防決壊による)氾濫が発生したもよう)。 現在、状況を確認中。
各自安全確保を図るなど、命を守る行動をとってください。』
3. 洪水予警報の連絡先をあらかじめメールやFAXをグループ登録。一度に発信。
4. なお、**氾濫等の事実確認ができたら、すみやかに水防法に基づく「氾濫発生情報」を発信**

■「氾濫発生もよう」情報の発信文案



○○川で、(堤防決壊による)氾濫が発生したもよう

1. 内容

○○水系○○川の●●市●●地区(△△岸)付近において(堤防決壊による)氾濫が発生したとの情報が○○路線寄せられ、また、測定の水位計等においても、川口水位の異常な変動(急激な水位低下等)が確認されたため、氾濫が発生した可能性があります。現在、事実確認中です。
根本情報は、水防法(10条第2項)に基づく「氾濫発生情報」ではありません。

堤防決壊等の事実確認ができましたら、水防法に基づく氾濫発生情報の発信、及びプッシュ配信を実施します。

2. 問い合わせ先

国土交通省中部地方整備局 ○○河川事務所
副所長(河川) △△ △△
○○課 ▲▲ ▲▲
TEL: 052-○○○○-○○○○

名古屋駅地区地下空間タイムライン

- 庄内川の決壊により浸水する人的被害、施設被害等を軽減するため、「平成29年度名古屋駅地区地下空間タイムライン（共通行動版（案））」を平成30年2月にとりまとめ。
- 策定後も、毎年度の出水期の取組の振り返り、ワークショップ等を行い、より実効性を高めるために議論。

想定ハザード



名古屋駅における浸水イメージ

検討会

平成26年度

庄内川タイムライン
検討会

平成30年2月

平成29年度名古屋駅地区
地下空間タイムライン(共通行動版(案))

平成27年度

地下空間ワーキング
グループ

平成30年度～

名古屋駅地区庄内川タイムライン検討会
(取組の振り返り、ワークショップ等)

平成29年度名古屋駅地区

地下空間タイムライン(共通行動版(案))

3つポイント

①4つの共通行動項目

1浸水防止対策

→河川氾濫の前に想定される内水氾濫に備え、地下街等の入口に止水板や土のうを設置。

2早期退出の促進

→館内アナウンス等を活用し、来街者の地下空間からの早期退出を促進。

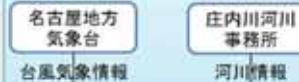
3営業に係わる判断

→営業の継続について検討・判断。営業停止後には地下通路の閉鎖も実施。

4地下街等管理者の完全退避

→営業停止後、最終的に地下街等管理者(テナント含む)が地下空間から完全退避。

②情報共有による関係者間の連携



名古屋市

③早目の判断

台風気象情報

翌日以降に愛知県西部で東海豪雨を超える降雨が予測された場合

地下街等管理者

・翌日営業中止の検討開始

→これ以後、庄内川河川事務所、名古屋市から提供される情報を踏まえ、地下街等管理者の完全退避まで実施

参加機関

行政機関

庄内川河川事務所、名古屋地方気象台、中部運輸局、愛知県、愛知県警察、名古屋市民間事業者等

名古屋駅地区街づくり協議会、名古屋駅地区防火・防災管理協議会、(株)エスカ、(株)近鉄百貨店、ジェイアールセントラルビル(株)、東和不動産(株)、(株)名古屋交通開発機構、名古屋建物管理(株)、名古屋地下街(株)、名古屋ビルディング(株)、三井不動産ビルマネジメント、三井不動産ファシリティーズ・ウエスト(株)、三菱地所(株)名古屋支店、三菱地所プロパティマネジメント(株)、ディ総合管理(株)、名鉄産業(株)、(株)名鉄百貨店、(株)ユニモール、近畿日本鉄道(株)、東海旅客鉄道(株)、名古屋鉄道(株)

第13回多治見市タイムライン検討会の開催

- 台風に伴う大雨により発生する内水氾濫や、土岐川からの外水氾濫に備えたタイムラインを作成するため、平成27年度に国(事務所、気象台)、県、市、消防団、住民代表から構成される検討会を設置し、平成28年3月に「多治見市浸水タイムライン(H27年度版)」を公表した。
- 令和元年10月18日に開催された第13回多治見市タイムライン検討会において、これまでの運用状況と今後の展望等について、事務局から説明された。

【令和元年度の運用状況】

| 年月日 | 事象 | 到達TLステージ |
|---------------|--------|----------|
| 令和元年7月26～28日 | 台風第6号 | ステージⅠ |
| 令和元年8月14～16日 | 台風第10号 | ステージⅠ |
| 令和元年9月6日 | 台風第15号 | ステージⅠ |
| 令和元年10月12～13日 | 台風第19号 | ステージⅠ |



【タイムラインの運用を通してわかった効果】

- ・災害対応の明確化による職員の防災意識の向上
- ・(空振りを恐れない)早めの避難情報等の発令
- ・タイムライン検討会やタイムラインの運用による災害対応実績を通じて、庄内川河川事務所及び気象台などと、顔の見える関係性を構築



【タイムラインに関する今後の展望】

- ・浸水を想定したタイムラインに、「土砂災害」を加えることを検討
- ・府内及び関係機関のタイムラインに、引き続きより実効性を高めるため、**地区(コミュニティ)タイムラインの策定**を支援
- ・土岐川支川(一級河川)のタイムライン策定
- ・これまで同様、関係機関との良好な関係性を維持

平常時からの自治体や消防団等関係者による 重要水防箇所等の把握、水防訓練の実施

庄内川河川事務所

土岐川の重要水防箇所の合同巡視を行いました

令和元年6月13日(木)に、水防活動に携わるメンバーで情報を共有するため、土岐川の多治見市区間の重要水防箇所の巡視を行いました。

当日は、多治見市長に臨場いただき、多治見市、多治見土木事務所、庄内川河川事務所の計22名が参加し、情報を共有しました。



多治見市長による挨拶



参加者による合同巡視状況



築堤後の状況を確認



多治見市長に計画堤防高を説明する庄内川河川事務所長 20

平常時からの自治体や消防団等関係者による 重要水防箇所等の把握、水防訓練の実施

庄内川河川事務所

土岐川・庄内川の水害から命を守る会議の水防連絡会メンバーにより巡回を行い、過去の被災履歴や整備状況、また要配慮者利用施設との位置関係などについて現地で情報共有をしました。



保育園や福祉施設と土岐川との位置関係を確認



河口の高潮堤防及び海岸保全施設等(港湾)の確認



堤防前面洗掘(H23)の履歴・位置の確認

令和元年6月19日(水) 土岐川 土岐市
多治見土木事務所、土岐市、庄内川河川事務所:計9名

令和元年6月20日(木) 庄内川 下流部
尾張建設事務所、海部建設事務所、名古屋市、清須市
海部地区水防事務組合、庄内川河川事務所:計24名

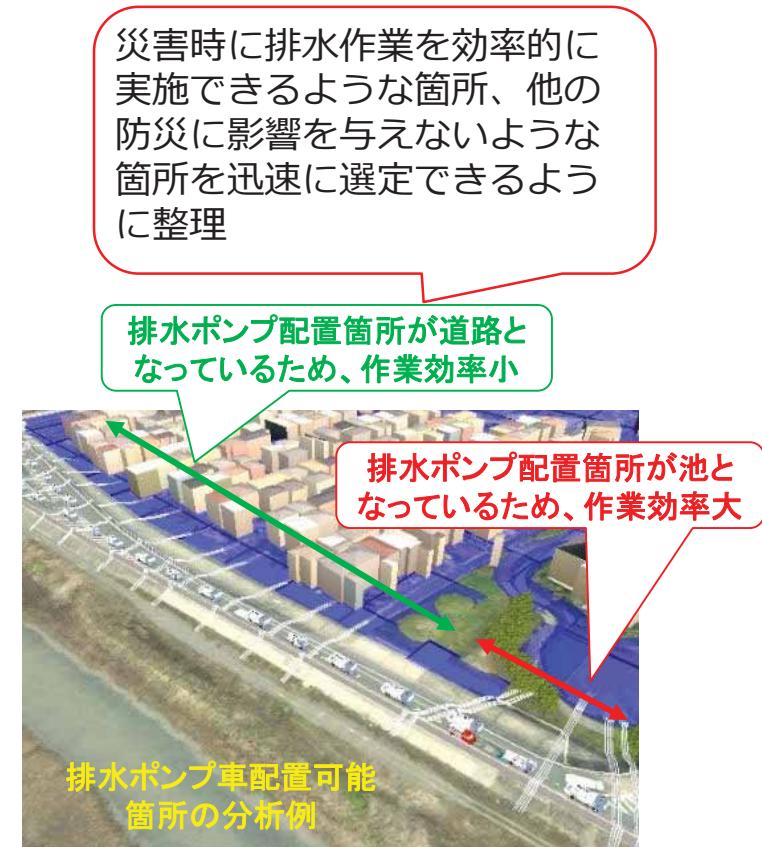
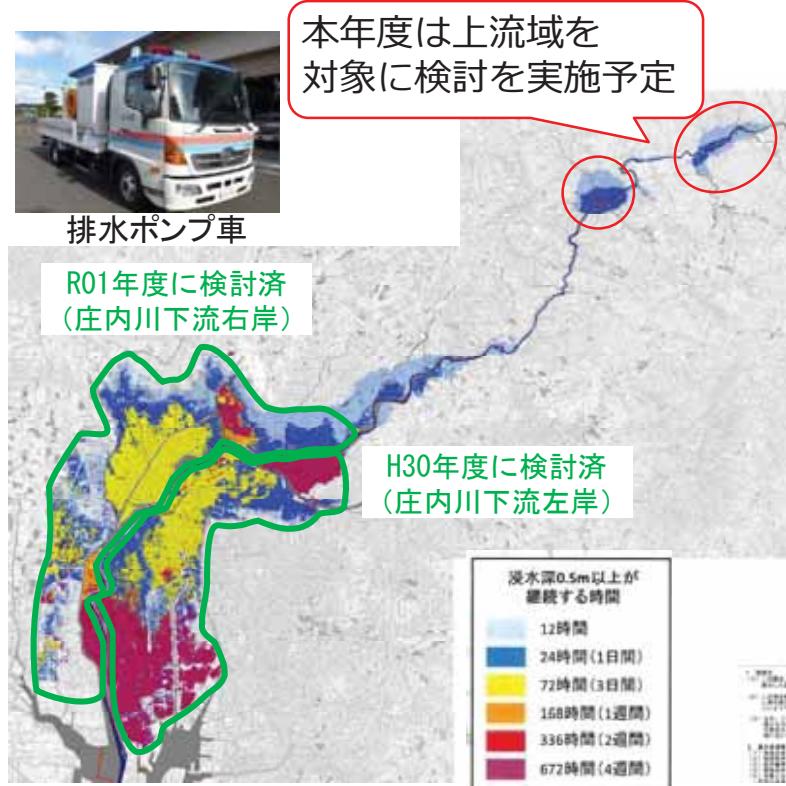
令和元年6月21日(金) 庄内川 中流部
熊野桜佐土地区画整理組合、春日井市、瀬戸市、尾張
建設事務所、庄内川河川事務所:計22名

氾濫流の排除計画の立案

庄内川河川事務所

平成30年度、令和元年度に、庄内川下流域における大規模出水による浸水被害を想定し、浸水継続時間や範囲を速やかに低減させるために、既存排水施設の機能確保や排水ポンプ車の効率的な配置計画による浸水被害最小化のための検討を行いました。

令和2年度は庄内川上流域を対象に検討を実施予定です。



「庄内川流域の減災に係る取組方針」概ね5年で実施する取組の実施状況一覧

| 具体的な取組の件 事項 | 取組内容 | 実施期間 | 実施する機関 | | | | | | | | | | | | | | | 項目番号 | | | |
|--|------|--|------------------|-------------|-------------|-------------|------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|---------------------------------|---|
| | | | 多 市 治 見 | 瑞 浪 市 | 恵 那 市 | 土 岐 市 | 名 古 屋 市 | 瀬 戸 市 | 春 日 井 | 小 牧 市 | 福 島 市 | 清 須 市 | 北 名 古 屋 | あ ま 市 | 豊 山 町 | 大 治 町 | 蟹 江 町 | 岐 阜 県 | 愛 知 県 | 岐 阜 県 管 轄 地 方 | 方 名 古 屋 県 管 轄 地 方 |
| ◎今後のフォローアップなど | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ■協議会開催 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 庄内川の水害から命を守るために会議開催 | | 毎年出水期前 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| (1)ハート型の手作り取り組み | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ■洪水を河川内で安全に渡すためのハード対策 | | 平成28年度から順次実施 | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | | | |
| 河道掘削(名古屋市中川区打出地区) | | 平成28年度から順次実施 | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | | | |
| 堤防整備(名古屋市西区桃山地区) | | 平成28年度から順次実施 | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | | | |
| 堤防整備(名古屋市西区山田地区) | | 平成28年度から順次実施 | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | | | |
| 洗掘対策(名古屋市中川区万場地区) | | 平成28年度から順次実施 | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | | | |
| 堤防整備(多治見市平和町地区) | | 平成28年度から順次実施 | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | | | |
| ■危機管理・ハード対策 | | 天端の保護、裏法尻の補強 | 平成28年度から順次実施 | | | | | | | | | | | | | | | ○ | | | |
| (2)ソフト対策の主な取組 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ■平常時の河川の水位等に対する避難行動につながるリスク情報の周知 | | 庄内川大規模氾濫も含めた浸水想定区域、浸水ミラーチャート、家屋の防災意識向上による避難行動の周知、住民の防災意識向上による避難行動の周知 | 平成28年度まで | | | | | | | | | | | | | | | ○ | | | |
| 庄内川大規模氾濫等氾濫想定区域の公表 | | 平成29年度~ | △ | △ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | △ | ○ | △ | △ | ○ | ○ | | | 1 | | | |
| 庄内川大規模降雨の浸水想定区域におけるハザードマップ作成及び周知徹底 | | 毎年実施 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | △ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| 小学生にも理解できる教材を用いて、防災教育の実施 | | 毎年実施 | (O) | () | () | (O) | (O) | (Δ) | (O) | () | () | (O) | () | (O) | (O) | ○ | ○ | 3 | | | |
| 住民の水害リスクの認識向上を目的としたみずから守るプログラムによる支援や水防災フォーラムの開催 | | 毎年実施 | (O) | () | () | (O) | (O) | (Δ) | (O) | () | () | (O) | () | (O) | (O) | ○ | ○ | 4 | | | |
| 災害・避難カードによる避難行動の認識の徹底 | | 引き続き実施 | ○ | ○ | ○ | ○ | △ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | | | | | 5 | | | |
| ■洪水時の河川の水位等に対する避難行動につながるリスク情報の周知 | | 洪水予報文の改良 | 平成28年度 | | | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| リアルタイムの情報提供やプッシュ型の洪水予報等の情報発信 | | 平成29年度から | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 7 | | | |
| CCTVカメラの情報収集の高度化、水位やカット画面等の情報の発信 | | 平成28年度から | ○ | | | | | | | | | | | | | | | 8 | | | |
| 河川警報等を行う消防防災担当者向け防災気象情報を用いた共同作業を行う消防防災担当者向けの講習会の実施 | | 引き続き実施 | | | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | 9 | | | |
| ■避難勧告等の実施 | | ハザードマップの周知徹底(周報) | 引き続き実施 | △ | △ | ○ | ○ | ○ | ○ | △ | △ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | 10 | | | |
| 小学生にも理解できる教材を用いて、防災教育の実施(再掲) | | 毎年実施 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | △ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 11 | | | |
| 住民の水害リスクの認識向上を目的としたみずから守るプログラムによる支援や水防災フォーラムの開催(周報) | | 毎年実施 | ○ | ○ | ○ | △ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 12 | | | |
| ■タイムラインの作成・実施 | | 避難に着目したタイムラインの作成(未策定の市町) | 令和2年度まで | ○ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | △ | 13 | | | |
| タイムラインを踏まえた訓練、試行運用の実施 | | 平成28年度から策定済みの市町から認証 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | △ | △ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 14 | | | |
| 内水、支川氾濫による浸水下地帯への浸水、台風以外の豪雨による浸水等に対する避難行動に対するタイムラインの作成 | | 平成28年度から | ○ | ○ | ○ | ○ | △ | △ | △ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | 15 | | | |
| ■ソフト対策の主な取組 | | 庄内川大規模氾濫による浸水活動に対する避難行動に対するタイムラインの作成 | 平成28年度まで | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | 16 | | | |
| 庄内川大規模氾濫等の理屈や構造が高まる重要な水防箇所の把握 | | 毎年実施 | ○ | ○ | ○ | ○ | △ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | 17 | | | |
| 水防活動の知識習得と技術向上のため、水防訓練の実施 | | 毎年実施 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | 18 | | | |
| 庄内川大規模氾濫による浸水下地帯を踏まえた水防活動の検討 | | 平成28年度から | ○ | ○ | ○ | △ | ○ | | ○ | ○ | △ | | | | | | | 19 | | | |
| ■水防活動や応急復旧活動の実施体制等の整備 | | 庄内川の地域で一定の権利を得ている大学生等の人団を促進する取組を行なう消防団(兼任消防団)の人員確保による実施 | 引き続き実施 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | 20 | | | |
| 庄内川の監視標の表示などを水防活動時に必要な情報提供の実化 | | 平成28年度から | ○ | | | | | | | | | | | | | | | 21 | | | |
| 庄内川に水防活動、河川巡視、心怠被り活動に支障が出るかそれらのための規制の実施 | | 令和2年度まで | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | | | | | | | 22 | | | |
| 庄内川の水防活動の実施箇所を踏まえた水防活動の実施 | | 令和2年度まで | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | 23 | | | |
| (2)ソフト対策の主な取組 | | 庄内川の排水路の開拓と河川保全の実施 | 平成28年度から | △ | △ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | 24 | | | |
| 河川の立派な排水路の開拓 | | 平成28年度から検討実施 | | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | | | ○ | 25 | | | |

※ 愛知県は、建設局河川課と防災安全局防災部災害対策課を統合
 ※ 岐阜県は、県土整備部河川課と危機管理部防災課を統合
 ※ 名古屋市は、総務工務局と防災危機管理局を統合

凡例
 ■各機関取扱対象箇所
 ○: R1まで取扱がある場合
 △: R2の取扱がある場合(R1までは取扱無し)
 空欄:未実施または未定

取組状況確認結果より

リアルタイムの情報提供やプッシュ型の洪水予報等の情報発信、また毎年実施する各種防災教育に関しては各機関において着実に取組が進んでいる。地域の方々への周知も進んでいると考えられるため、今後も継続して取組を実施していく。

内水や支川氾濫による浸水を想定したタイムラインや水防活動の検討、水防倉庫や資材保管場所等の関係者間での情報共有及び滞留する氾濫流の排水計画の立案等については取組が進んでいないと考えられる。

今後も幹事会等で取組における課題等を整理し、対応策を検討し取組を進めていく必要がある。

「庄内川流域の減災に係る取組方針」概ね5年で実施する取組進捗状況(ソフト対策)

【機関名】 多治見市

様式-1

| 具体的な取組の柱 事項 | 実施期間 | 項目番号 | H28～R1までの代表的取組 | | | | | H28～R1までの取組状況 | R2の取組予定 | これまでの課題等 |
|--|---|-----------------------|----------------|-------------|-------------------------|-------|--|---|----------------------------|----------------------|
| | | | 実施年月日 | 実施場所 | 参加人数 | 参加機関 | 実施主体 | | | |
| ●ソフト対策の主な取組 ①入浴被着ゼロに対する住民の自主的な意識行動を促す取組 ■平成28年から実施している避難行動につながるリスク情報、避難場所や避難前にする行動の周知、住民の防災意識向上へのための取組 | | | | | | | | | | |
| 想定大規模も含めた浸水想定区域図、浸水シミュレーション、家庭倒壊等氾濫想定区域の公表 | 平成28年度出水期まで | 1 | | | | | | | | |
| | 想定量大規模降雨の浸水想定区域におけるハザードマップ作成及び周知徹底 | 平成29年度～ | 2 | | | | | | 土砂災害・洪水ハザードマップ作製 | |
| | 小学生にも理解できる教材を用いた、防災教育の実施 | 毎年実施 | 3 | 令和1年11月20日 | 小泉小学校 | 約150名 | | 毎年実施 | 引き続き実施 | |
| | 住民の水害リスクの認識向上を目的としたみずから守るプログラムによる支援や水防災フォーラムの開催 | 毎年実施 | 4 | 平成28年11月29日 | 多治見市産業文化センター | 約180名 | 多治見市民、企業、行政の防災担当者など | 住民の水害リスクの認識向上を目的としたみずから守るプログラムによる支援や水防災フォーラムの開催 | 引き続き実施 | コミュニティタイムラインの策定支援の実施 |
| | 災害・避難カードによる避難行動の認識の徹底 | 引き続き実施 | 5 | 令和1年6月10日 | ホワイトタウン | 約40名 | | 災害・避難カード等を活用したDIGやHUGの実施 | 引き続き実施 | |
| ■洪水時の河川の水位等に関する避難行動につながるリスク情報の周知 | | | | | | | | | | |
| 洪水予報文の改良 | 平成28年度 | 6 | | | | | | | | |
| | リアルタイムの情報提供やブッシュ型の洪水予報等の情報発信 | 平成29年度から | 7 | | | | | 緊急メールを活用した住民への周知 | 引き続き実施 | |
| | CCTVカメラの情報の高度化、水位やカメラ画像等の情報の入り、活用方法の周知 | 平成28年度から | 8 | | | | | 重点リモートセンシングシステムを活用したHP上におけるカメラ画像、水位情報の提供 | 引き続き実施 | |
| | 県と共同で庄内市町村消防担当者向け「防災気象情報に関する講習会」等の実施 | 引き続き実施 | 9 | | | | | | | |
| ■消防活動等の新規が避難行動につながる取組 | | | | | | | | | | |
| ハザードマップの周知徹底(再掲) | 引き続き実施 | 10 | | | | | | 土砂災害・洪水ハザードマップ作製 | | |
| | 小学生にも理解できる教材を用いた、防災教育の実施（再掲） | 毎年実施 | 11 (3) | 令和1年11月20日 | 小泉小学校 | 約150名 | | 毎年実施 | 引き続き実施 | |
| | 住民の水害リスクの認識向上を目的としたみずから守るプログラムによる支援や水防災フォーラムの開催(再掲) | 毎年実施 | 12 (4) | 平成28年11月29日 | 多治見市産業文化センター | 約180名 | 多治見市民、企業、行政の防災担当者など | 住民の水害リスクの認識向上を目的としたみずから守るプログラムによる支援や水防災フォーラムの開催 | 引き続き実施 | コミュニティタイムラインの策定支援の実施 |
| ■タイムラインの作成・実践 | | | | | | | | | | |
| 避難に着目したタイムラインの作成(未策定の市町) | 平成32年度まで | 13 | | | | | | 策定済み | | |
| | タイムラインを踏まえた訓練、試行運用の実施 | 平成28年度から(策定済みの市町から順次) | 14 | | | | | タイムライントライアルに達した場合、自動的にステージの立て上げを実施 | | |
| | 内水、支川氾濫による浸水や地下空間への浸水、台風以外の暴雨による豪雨等に対応したタイムラインの検討 | 平成28年度から | 15 | | | | | 未策定 | 策定の検討を行う | |
| ●ソフト対策の主な取組 ②河川氾濫による浸水の発生、浸水時間の推移のための水防護活動や応急復旧活動に関する取組 ■非常時かのまちの自立体制や消防機関等の体制、水防護活動の実施 | | | | | | | | | | |
| 住民や関係者の理解・認証が高まる重要な水防護所の巡回の実施 | 毎年実施 | 16 | | | | | | 毎年参加 | 引き続き参加 | |
| | 水防護活動の知識習得と技術力向上のため、水防護訓練の実施や水防専門家を講師とした講習会を実施 | 毎年実施 | 17 | 毎年6月第2週の日曜日 | 庄内川河川事務所土岐川出張所前の土岐川右岸左岸 | 約500人 | 国土交通省 庄内川河川事務所岐阜県防災航空隊 多治見市消防団 多治見市鍛冶工業会 | -ドクターブイ -木防工法実習 -排水ポンプ操作訓練 -救助・救助訓練 | 水防訓練を令和2年6月14日に規模を縮小して実施予定 | |
| | 内水や支川氾濫による浸水も想定した水防護活動の検討 | 平成28年度から | 18 | 令和1年10月18日 | 多治見市本庁舎 | 約30名 | 岐阜県庄内川河川事務所 岐阜県庄内川河川事務所 岐阜県庄内川河川事務所 岐阜県庄内川河川事務所 岐阜県庄内川河川事務所 岐阜県庄内川河川事務所 | 毎年実施 | タイムライン検討会等を通じて検討を実施 | |
| ■水防護活動や応急復旧活動の実際体験等の検討 | | | | | | | | | | |
| 一部の地域で一定の成果を得ている大学生等の入団を促進する取組を行うなどの消防団(兼任水防団)の人員確保に努める。 | 引き続き実施 | 19 | | | | | | | | |
| | 標準への量水標の表示など水防活動時に必要な情報提供の強化 | 平成28年度から | 20 | | | | | 重点リモートセンシングシステムを活用したHP上におけるカメラ画像、水位情報の提供 | 引き続き実施 | |
| | 出水時に水防活動、河川巡視、応急復旧活動に支障が出るおそれのある堤防活動の通常規制の検討 | 平成32年度まで | 21 | | | | | | | |
| | 土のう擁壁などの水防活動に必要となる資材の保管や作業場所、及び災害復旧活動の箇所となる防災拠点の整備(ハード整備) | 平成32年度まで | 22 | | | | | | | |
| | 重要水防箇所に対応する最寄りの水防倉庫や資材保管場所、アクセス道路の関係者間での情報共有 | 平成29年度から | 23 | | | | | | | |
| ●ソフト対策の主な取組 ③「最も早い生活再建及び社会経済活動の回復を可能とするための浸水措置に関する取組 ■氾濫の検討計画の立案 | | | | | | | | | | |
| 氾濫発生時でも稼働可能な雨水ポンプ場の確認 | 平成28年度 | 24 | | | | | | | | |
| | 排水ポンプ車、雨水ポンプ場による滞留する氾濫流の排水計画の立案 | 平成28年度から検討実施 | 25 | | | | | | | |

「庄内川流域の減災に係る取組方針」概ね5年で実施する取組進捗状況(ソフト対策)

【機関名】 瑞浪市

様式-1

| 具体的な取組の柱 事項 | 実施期間 | 項目番号 | H28~R1までの代表的取組 | | | | | H28~R1までの取組状況 | R2の取組予定 | これまでの課題等 |
|--|------------------------|-----------|---|---|----------------------------|----------------------------------|------------------|---|--|-------------------------------|
| | | | 実施年月日 | 実施場所 | 参加人数 | 参加機関 | 実施主体 | | | |
| ①ソフト対策の主要取組 ②庄内川流域に係る被災者の情報、避難者の情報のための水防活動や応急復旧活動に関する取組 | | | | | | | | | | |
| ■常時からの避難行動につながるリスク情報、避難行動や救援に関する情報の周知、住民の防災意識向上への取組 | | | | | | | | | | |
| 緊急大規模も含めた洪水被害区域図、浸水シミュレーション、家屋倒壊等氾濫警戒区域の公表 | 平成28年度出水期まで | 1 | | | | | | | | |
| 想定最大規模降雨の浸水想定区域におけるハザードマップ作成及び周知徹底 | 平成29年度~ | 2 | — | — | — | — | — | ・H24に作成したハザードマップの更新を行う ・ハザードマップ更新にあたり、市内13の会場にてワークショップを開催予定。 | — | |
| 小学生にも理解できる教材を用いた、防災教育の実施 | 毎年実施 | 3 | ①令和元年8月17日 ②令和元年10月19日 ③令和2年1月21日 | ①瑞浪市総合消防防災センター ②瑞浪市立畜舎小学校 ③瑞浪市立畜舎小学校 | ①10 ②25 ③24 | ①小学5年生～中学2年生 ②小学5年生 ③小学5年生 | みずなみ防災会、瑞浪市 | ①小学5年生から中学3年生を対象に、各種講習・防災教育の場を開いた。 ②講習参観にあわせ防災講話を実施3回 | ①小学5年生から中学3年生を対象としたジュニア防災リーダー養成講座を実施予定 | ・教育委員会へのPR ・夏休み期間等日程の確保 |
| 住民の水害リスクの認識向上を目的としたかずから守るプログラムによる支援や水防災フォーラムの開催 | 毎年実施 | 4 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 災害・避難カーデによる避難行動の認識の徹底 | 引き続き実施 | 5 | ①令和2年1月18日 ②令和2年1月30日 ③令和2年2月5日～ 20日 ④令和2年2月23日 | ①瑞浪市福地町猪爪 猪爪外組集会所 猪爪内組集会所 猪爪内組大牧会 大牧公民館 ②タカラヒルズ ③瑞浪市立益見町 ④瑞浪市立畜舎小学校 ⑤瑞浪市畜舎町中・西大島公民館 | ①190 ②40 ③237 ④21 | 市民 | みずなみ防災会、瑞浪市 | 令和元年度から実施 | 各地区からの要望を受け実施予定 | ・自主防災組織へのPR ・コロナ対策により時期不確定 |
| ■洪水時の河川の水位等に関する避難行動につながるリスク情報の周知 | | | | | | | | | | |
| 洪水予報文の改良 | 平成28年度 | 6 | | | | | | | | |
| リアルタイムの情報提供やブッシュ型の洪水予報等の情報発信 | 平成29年度から | 7 | — | | | | | | | 同左 |
| CCTVからの情報の高度化、水位やカメラ画像等の情報の入手、活用方法の周知 | 平成28年度から | 8 | | | | | | | | |
| 県と共同で行う市町村防災担当者向け防災気象情報に関する講習会等の実施 | 引き続き実施 | 9 | | | | | | | | |
| ■避難誘導会の発達が避難行動につながる取組 | | | | | | | | | | |
| ハザードマップの周知徹底(再掲) | 引き続き実施 | 10 | — | — | — | — | — | ・ハザードマップ更新にあたり、市内13の会場にてワークショップを開催予定。 | — | |
| 小学生にも理解できる教材を用いた、防災教育の実施（再掲） | 毎年実施 | 11 (3) | ①令和元年8月17日 ②令和元年10月19日 ③令和2年1月21日 | ①瑞浪市総合消防防災センター ②瑞浪市立畜舎小学校 ③瑞浪市立畜舎小学校 | ①10 ②25 ③24 | ①小学5年生～中学2年生 ②小学5年生 ③小学5年生 | みずなみ防災会、瑞浪市 | ①小学5年生から中学3年生を対象に、各種講習・防災教育の場を開いた。 ②講習参観にあわせ防災講話を実施3回 | ①小学5年生から中学3年生を対象としたジュニア防災リーダー養成講座を実施 | ・教育委員会へのPR ・夏休み期間等日程の確保 |
| 住民の水害リスクの認識向上を目的としたかずから守るプログラムによる支援や水防災フォーラムの開催(再掲) | 毎年実施 | 12 (4) | — | — | — | — | — | — | — | — |
| ■タイムラインの作成・実践 | | | | | | | | | | |
| 避難に着目したタイムラインの作成(未策定期の市町) | 平成32年度まで | 13 | — | | | | | | | |
| タイムラインを踏まえた訓練、試行運用の実施 | 平成28年度から(策定期のみの市町から順次) | 14 | 令和元年6月7日 | 県、市町村 | | 県、県内市町村、防災機関 | 同左 | タイムラインを活用した豪雨灾害対応訓練 | 令和2年6月8日実施予定 | |
| 内水、支川氾濫による浸水や台風以外の削除による浸水に対する防災対応のタイムラインの改訂 | 平成28年度から | 15 | 豪雨版タイムライン 策定期のみ | | | | | | | |
| ②ソフト対策の主要取組 ③庄内川流域に係る被災者の情報、避難者の情報のための水防活動や応急復旧活動に関する取組 | | | | | | | | | | |
| ■常時からの避難行動の実施体制整備の整備 | | | | | | | | | | |
| 住民の隣接住民の理解、認証が底まる重要な水防箇所の実施 | 毎年実施 | 16 | 令和元年5月24日 | 土岐川沿川 | | 多治見土木事務所、市、自治会議長 | 多治見土木事務所、市、自治会議長 | 多治見土木事務所の合同設置を実施 | 令和2年5月25日実施予定 | |
| 水防活動の認証取得と技術向上のため、水防訓練の実施や水防事務官を採択しと講習会を実施 | 毎年実施 | 17 | — | | | | | | | |
| 内水や支川氾濫による浸水も想定した水防活動の検討 | 平成28年度から | 18 | — | | | | | | | |
| ■水防活動の実施体制整備の整備 | | | | | | | | | | |
| 一部の地域で二つの流域を有する大学生等の入団を促進する取組を行なう(兼任水防団)の人員確保に努める。 | 引き続き実施 | 19 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 標準への認水権の表示など水防活動時に必要な情報提供の強化 | 平成28年度から | 20 | | | | | | | | |
| 出水時に水防活動、河川巡視、応急復旧活動に支障が出るおそれのある認水道路の通行規制の検討 | 平成32年度まで | 21 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 土のう防災などの水防活動に必要な貯水池や作業場所、及び災害対応活動の施設となる防災拠点の整備(一括整備) | 平成32年度まで | 22 | 平成28年度以前から | 市内28箇所防災倉庫 | | | 瑞浪市 | 防災倉庫の整備・土資材の配備 | 瑞浪北中学校に防災倉庫を新設予定 | |
| 重複水防活動に対応する最も必要な水防食庫や資材保管場所、アカセスルの整備空間での情報共有 | 平成29年度から | 23 | — | | | | | | 令和2年5月25日実施予定 | 日程調整が困難 |
| ③新しい生活再建及び社会経済活動の回復を可能とするための水防活動に関する取組 | | | | | | | | | | |
| ■氾濫時の堆積計画の立案 | | | | | | | | | | |
| 氾濫が生じても移動可能な雨水ポンプの確認 | 平成28年度 | 24 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 排水ポンプ車、雨水ポンプによる滞留する氾濫流の排水計画の立案 | 平成28年度から検討実施 | 25 | — | — | — | — | — | — | — | — |

「庄内川流域の減災に係る取組方針」概ね5年で実施する取組進捗状況(ソフト対策)

【機関名】 恵那市

様式-1

| 具体的な取組の柱 事項 | 実施期間 | 項目番号 | H28～R1までの代表的取組 | | | | | H28～R1までの取組状況 | R2の取組予定 | これまでの課題等 |
|---|---|-----------------------|----------------|------------------|------|------|------|---------------|-------------------------|----------|
| | | | 実施年月日 | 実施場所 | 参加人数 | 参加機関 | 実施主体 | | | |
| ●ソフト対策の主な取組 ①入浴被着ゼロに関する住民の自覚的行動による避難取組 ■庄内川流域からの避難行動によるリスク情報、避難場所や避難前に備える情報の周知、住民の防災意識向上へのための取組 | | | | | | | | | | |
| 想定最大規模を含めた浸水想定区域図、浸水シミュレーション、家庭倒壊等氾濫想定区域の公表 | 平成28年度出水期まで | 1 | | | | | | | | |
| | 想定最大規模降雨によるハザードマップ作成及び周知徹底 | 平成29年度～ | 2 | 令和2年3月 恵那市山岡町 | 各世帯 | | | 恵那市 | 小里川地域ハザードマップの作成と各世帯への配布 | 待になし |
| | 小学生にも理解できる教材を用いた、防災教育の実施 | 毎年実施 | 3 | | | | | | | |
| | 住民の水害リスクの認識向上を目的としたみずから守るプログラムによる支援や水防災フォーラムの開催 | 毎年実施 | 4 | | | | | | | |
| | 災害・避難カードによる避難行動の認識の徹底 | 引き続き実施 | 5 | | | | | | | |
| ■洪水時における河川の水位等に関する避難行動につながるリスク情報の周知 | | | | | | | | | | |
| 洪水予報文の改良 | 平成28年度 | 6 | | | | | | | | |
| | リアルタイムの情報提供やブッシュ型の洪水予報等の情報発信 | 平成29年度から | 7 | | | | | | | |
| | CCTVカメラの情報の高度化、水位やカメラ画像等の情報の入手、活用方法の周知 | 平成28年度から | 8 | | | | | | | |
| | 県と共同で行う市町村防災担当者向け「防災気象情報に関する講習会」等の実施 | 引き続き実施 | 9 | | | | | | | |
| ■訓練活動等の発芽が避難行動につながる取組 | | | | | | | | | | |
| ハザードマップの周知徹底(再掲) | 引き続き実施 | 10 | | | | | | | | |
| | 小学生にも理解できる教材を用いた、防災教育の実施（再掲） | 毎年実施 | 11 (3) | | | | | | | |
| | 住民の水害リスクの認識向上を目的としたみずから守るプログラムによる支援や水防災フォーラムの開催(再掲) | 毎年実施 | 12 (4) | | | | | | | |
| ■タイムラインの作成・実践 | | | | | | | | | | |
| 避難に着目したタイムラインの作成(未策定の市町) | 平成32年度まで | 13 | | | | | | | | |
| | タイムラインを踏まえた訓練、試行運用の実施 | 平成28年度から(東京済みの市町から順次) | 14 | | | | | | | |
| | 内水、支川氾濫による浸水や地下空間への浸水、台風以外の前兆による豪雨等に対するタイムラインへの改訂 | 平成28年度から | 15 | | | | | | | |
| ●ソフト対策の主な取組 ②漏水対策による被災の軽減、避難時間の短縮のための水防活動や水害復旧活動に関する取組 ■庄内川流域からの避難行動によるリスク情報、被災者による蓄留水貯留所等の把握、水防訓練の実施 | | | | | | | | | | |
| 住民や関係者等の理解・認識が高まる重要な水防箇所の巡回の実施 | 毎年実施 | 16 | | | | | | | | |
| | 水防活動の知識習得と技術力向上のため、水防訓練の実施や水防専門家を講師とした講習会を実施 | 毎年実施 | 17 | | | | | | | |
| | 内水や支川氾濫による浸水を想定した水防活動の検討 | 平成28年度から | 18 | | | | | | | |
| ■水防活動や応急復旧活動の実施体制等の整備 | | | | | | | | | | |
| 一部の地域で一定の成果を得ている大学生等の入浴を促進する取組を行うなどの消防団(兼任水防団)の人員確保に努める。 構造への量水標の表示など水防活動時に必要な情報提供の強化 | 引き続き実施 | 19 | | | | | | | | |
| | 出水時に水防活動、河川巡査、応急復旧活動に支障が出るおそれのある堤防沿線の避行規制の検討 | 平成32年度まで | 21 | | | | | | | |
| | 土のう桿立てなどの水防活動に必要な資材の保管や作業場所、及び災害復旧活動の拠点となる防災拠点の整備(ハーダ盤構造) | 平成32年度まで | 22 | | | | | | | |
| | 重委水防箇所に対応する農地の水防施設や資材保管場所、アセス道路の関係者間での情報共有 | 平成29年度から | 23 | | | | | | | |
| | 河川流域の排水計画の立案 | | | | | | | | | |
| 氾濫発生時でも稼働可能な雨水ポンプ場の確認 排水ポンプ車、雨水ポンプ場による滞留する氾濫流の排水計画の立案 | 平成28年度 | 24 | | | | | | | | |
| | 平成28年度から検討実施 | 25 | | | | | | | | |

「庄内川流域の減災に係る取組方針」概ね5年で実施する取組進捗状況(ソフト対策)

【機関名】土岐市

様式-1

| 具体的な取組の柱 事 項 | 実施期間 | 項目番号 | H28~R1までの代表的取組 | | | | H28~R1までの取組状況 | R2の取組予定 | これまでの課題等 | | | | | |
|---|-----------------------|-----------|----------------|---------|------|---------------------------|--|---|-----------------------------|---|--|--|--|--|
| | | | 実施年月日 | 実施場所 | 参加人数 | 参加機関 | | | | | | | | |
| ●ソフト対策の主要取組 ①入会登録欄に記載の主旨内容欄に行動を示す旨 | | | | | | | | | | | | | | |
| ■平常時からの避難行動についてのリスク情報、避難場所や路線に関する情報の周知、住民の防災意識向上との取組 | | | | | | | | | | | | | | |
| 想定最大規模も含めた浸水想定区域図、浸水シミュレーション、家屋倒壊等沿岸想定区域の公表 | 平成28年度出水期まで | 1 | - | - | - | - | - | - | - | | | | | |
| 想定最大規模降雨の浸水想定区域におけるハザードマップ作成及び周辺徹底 | 平成29年度~ | 2 | - | - | - | - | 過去に作成済のハザードマップならびにHPから新たに示された浸水想定区域 HPに掲載 | ハザードマップを作成し全戸配布ならびにHPに掲載 | - | | | | | |
| 小学生にも理解できる教材を用いた、防災教育の実施 | 毎年実施 | 3 | 令和元年11月13日 | 濃南小学校 | 10 | 濃南小学校児童・教員 土岐市 | 土岐市 | 災害の対策やその工夫を理解するため に、防災倉庫の見学を実施 | 同取組の継続実施 | - | | | | |
| 住民の水害リスクの認識向上を目的としたみずから守るプログラムによる支援や水防災フォーラムの開催 | 毎年実施 | 4 | 令和元年6月16日 | 北防災センター | 101 | 土岐市民、防災士、土岐市 | 土岐市 | 自分達が暮らす地域の地図を使用し、災 害危険箇所や避難場所、また、浸漬を必 要とする方等の情報を記入し、地域で広 く共有する災害を具体的にイメージし、その 対策を考える。 | 同取組の継続実施 | - | | | | |
| 災害・避難カードによる避難行動の認識の徹底 | 引き続き実施 | 5 | 令和元年7月7日 | 土岐津公民館 | 98 | 土岐市民、防災士、土岐市 | 土岐市 | 災害図上訓練時に使用し、認識の徹底を はかる | 同取組の継続実施 | - | | | | |
| ■洪水時の河川の水位等に際する避難行動につながりリスク情報の周知 | | | | | | | | | | | | | | |
| 洪水予報文の改良 | 平成28年度 | 6 | - | - | - | - | - | - | - | | | | | |
| リアルタイムの情報提供やプッシュ型の洪水予報等の情報発信 | 平成28年度から | 7 | - | - | - | - | メール配信は、携帯電話事業者が提供す る「緊急連絡メール」のサービスを活用し、災 害情報を携帯電話ユーザーへ届け ることで、住民の早期的な避難を促進 することが可能となる。 | 同情報提供の継続 | 訓練を実施する場合、関係者の 事前周知が相当大変 | | | | | |
| CCTVカメラの情報の高度化、水位やカメラ画像等の情報の入手、活用方法の周知 | 平成28年度から | 8 | - | - | - | - | - | - | - | | | | | |
| 県と共同で行う市町村防災担当者向け「防災気象情報に関する講習会」の実施 | 引き続き実施 | 9 | - | - | - | - | - | - | - | | | | | |
| ■避難行動等の効率化避難行動につながる取組 | | | | | | | | | | | | | | |
| ハザードマップの周知徹底(再掲) | 引き続き実施 | 10 | - | - | - | - | 作成時にハザードマップを全戸配布なら びにHPに掲載 | ハザードマップを作成し全戸配布ならびに HPに掲載 | - | | | | | |
| 小学生にも理解できる教材を用いた、防災教育の実施(再掲) | 毎年実施 | 11 (3) | 令和元年11月13日 | 濃南小学校 | 10 | 濃南小学校児童・教員 土岐市 | 土岐市 | 災害の対策やその工夫を理解するため に、防災倉庫の見学を実施 | 同取組の継続実施 | - | | | | |
| 住民の水害リスクの認識向上を目的としたみずから守るプログラムによる支援や水防災フォーラムの開催(再掲) | 毎年実施 | 12 (4) | 令和元年6月16日 | 北防災センター | 101 | 土岐市民、防災士、行政の 防災担当者 | 土岐市 | 自分達が暮らす地域の地図を使用し、災 害危険箇所や避難場所、また、浸漬を必 要とする方等の情報を記入し、地域で広 く共有する災害を具体的にイメージし、その 対策を考える。 | 同取組の継続実施 | - | | | | |
| ■タイムラインの作成・実施 | | | | | | | | | | | | | | |
| 避難に着目したタイムラインの作成(未定の市町) | 平成28年度から | 13 | - | - | - | - | 策定済み | - | - | | | | | |
| タイムラインを踏まえた訓練、試行運用の実施 | 平成28年度から(策定済みの市町から順次) | 14 | - | - | - | - | 町内防災訓練、災害図上訓練等と組合 わせて実施できるか検討 | 同取組の実施 | - | | | | | |
| 内水、支川氾濫による浸水や地下空間への浸水、台風以外の豪雨による豪雨等に応じたタイムラインの改訂 | 平成28年度から | 15 | - | - | - | - | 策定済み | - | - | | | | | |
| ●ソフト対策の主要取組 ②河川氾濫による被害の軽減、避難時間の短縮のための水防活動や応急復旧活動に関する取組 | | | | | | | | | | | | | | |
| ■平常時からの具体的な実施主体による重要水防箇所の巡視、水防訓練等の実施 | | | | | | | | | | | | | | |
| 住民や関係者の理解・認識が高まる重要な重要水防箇所の巡視の実施 | 毎年実施 | 16 | 令和元年5月29日 | 県警理川河 | 約20名 | 多治見土木事務所 土岐市役所 自衛隊員 | 5月から6月初旬に県、市、自治会役員とで 県警理川河を合同巡回 | 令和2年6月1日に同取組実施 | - | | | | | |
| 水防活動の知識習得と技術力向上のため、水防訓練の実施や水防専門家を講師とした講習会を実施 | 毎年実施 | 17 | 令和元年6月16日 | 県警理川河 | 約60名 | 多治見土木事務所 土岐市 地元水防団等 | 6月頃に県、市、地元水防団等で陸閘 訓練実施 | コロナの影響により中止 | - | | | | | |
| 内水や支川氾濫による浸水も想定した水防活動の検討 | 平成28年度から | 18 | 令和元年6月16日 | 県警理川河 | 約60名 | 多治見土木事務所 土岐市 地元水防団等 | 6月頃に県、市、地元水防団等で陸閘 訓練実施 | コロナの影響により中止 | - | | | | | |
| ■水防活動や水防訓練の実施体制等の整備 | | | | | | | | | | | | | | |
| 一部の地域で「水の成り果を得ている大学生等の入団を促進する取組を行うなどの消防団(兼任水防団)の人員確保に努める。 | 引き続き実施 | 19 | - | - | - | - | 広報とき等を活用し、人員確保に努めている | 広報とき等を活用し、人員確保を継続する | 消防団のなり手が減少している | | | | | |
| 横堤への量水標の表示など水防活動時に必要な情報提供の活性化 | 平成28年度から | 20 | - | - | - | - | - | - | - | | | | | |
| 出水時に水防浮動、河川巡視、応急復旧活動に支障が出るおそれのある堤防道路の通行規制の検討 | 平成32年度まで | 21 | - | - | - | - | 危険箇所の把握ならびに基準の検討 | 同取組の継続実施 | 各箇所で状況が異なるため、統一的な基準作成が困難 | | | | | |
| 土のう堵えなどの水防活動に必要となる資材の保管や作業場所、及び災害復旧活動の拠点となる防災拠点の整備(ハサード整備) | 平成32年度まで | 22 | 令和元年6月3日 | 市内全域 | 2名 | 土岐市 | 土岐市 6月頃に水防倉庫や土のう用土砂採集池 を確認し、不足備品を補充 | 同取組の継続実施 | - | | | | | |
| 重要水防箇所に対する対応する最寄りの水防倉庫や資材保管場所、アカセ道路の管理者間での情報共有 | 平成28年度から | 23 | - | - | - | - | 防災担当課との情報共有 | 同取組の継続実施 | - | | | | | |
| ●ソフト対策の主要取組 ③一刻も早い生活再建及び社会経済活動の回復を可能とするための排水活動に関する取組 | | | | | | | | | | | | | | |
| ■排水活動の実施計画の立案 | | | | | | | | | | | | | | |
| 氾濫発生時でも稼働可能な雨水ポンプ場の確認 | 平成28年度 | 24 | 令和元年5月23日 | 市内全域 | 12名 | 土岐市 | 雨水ポンプ施設の現地確認 | 同取組の継続実施 | - | | | | | |
| 排水ポンプ車、雨水ポンプ場による滞留する氾濫流の排水計画の立案 | 平成28年度から検討実施 | 25 | - | - | - | - | 緊急時に消防車両及び消防団車両で排水を実施 | 同取組の継続実施 | 各箇所で状況が異なるため、統一的な基準作成が困難 | | | | | |

「庄内川流域の減災に係る取組方針」概ね5年で実施する取組進捗状況(ソフト対策)

【機関名】 名古屋市

様式-1

| 具体的な取組の柱 事項 | 実施期間 | 項目番号 | H28~R1までの代表的取組 | | | | | H28~R1までの取組状況 | R2の取組予定 | これまでの課題等 |
|---|-----------------------|-----------|-----------------------|------------------|---------------------------------------|----------------------------------|------------------------------|--|--|--|
| | | | 実施年月日 | 実施場所 | 参加人数 | 参加機関 | 実施主体 | | | |
| ●ソフト対策の主な取組 ①人命被害ゼロに向けて住民の自重自力を促進する取組 ■庄内川流域の避難行動に係るリスク情報、避難場所や避難前にする確認の届出、住民の防災意識向上へのための取組 | | | | | | | | | | |
| 想定最大規模を含めた浸水想定区域、浸水シミュレーション、家庭倒壊等氾濫想定区域の公表 | 平成28年度出水期まで | 1 | | | | | | | | |
| 想定最大規模降雨による浸水想定区域におけるハザードマップ作成及び周知徹底 | 平成29年度～ | 2 | 市内各所 | | | | 名古屋市 | 各区内における高水・内水ハザードマップを、区役所等の関係会所にて配布。また水防訓練等の機会をとらえて住民への普及啓発を行っている。 | | 地域住民に「洪水・内水ハザードマップ」が完全に認知されているとはいえない。 |
| 小学生にも理解できる教材を用いた、防災教育の実施 | 毎年実施 | 3 | 毎年 | 港防災センター | | | 名古屋市 | 毎年、港防災センターにおいて小学生向けの展示及びワークショップの開催。 | 新型コロナウイルスの影響により、今後のワークショップのあり方を検討中。 | |
| 住民の水害リスクの認識向上を目的としたみずから守るプログラムによる支援や水防災フォーラムの開催 | 毎年実施 | 4 | 平成30年12月15日 (味説セミ) | 名古屋市北区 (味説セミ) | 26 | 味説学区 | 愛知県 | 住民の水害リスクの認識向上を目的としたみずから守るプログラムによる大規模行動訓練や手作りハザードマップの作製の支援 | - | 新型コロナウイルスの影響により、普及啓発機会の減少が予想される。 |
| 災害・避難カードによる避難行動の認識の徹底 | 引き続き実施 | 5 | 毎年 | 市内各所 | 約10000人 | 名古屋市消防防災課 名古屋市自衛隊 愛知県警察 など | 名古屋市 | 毎年行なわれている総合水防訓練及び結合水防災訓練において避難カードの普及啓発。 | 引き続き普及啓発を行っていく。 | 新規コロナウイルスの影響により、普及啓發機会の減少が予想される。 |
| ■洪水時河川の水位等に関する避難行動につながるリスク情報の周知 | | | | | | | | | | |
| 洪水予報文の改良 | 平成28年度 | 6 | | | | | | | | |
| リアルタイムの情報提供やブッシュ型の洪水予報等の情報発信 | 平成29年度から | 7 | 平成28年から | | | | 名古屋市 | 名古屋市水防訓練にて、既存市営や民間の水位観測リモートシステム情報を提供していたが、それらの情報を名古屋市新防災アプリへ取り込むことで、より効率的に情報を収集することができる。 | 地域住民に「名古屋市防災アプリ」が完全に認知されているとはいえない。 | |
| CCTVカメラの情報の高度化、水位やカメラ画像等の情報の入手、活用方法の周知 | 平成28年度から | 8 | | | | | | | | |
| 県と共同で行う市町村防災担当者向け「防災気象情報に関する講習会」等の実施 | 引き続き実施 | 9 | | | | | | | | |
| ■訓練活動等の発芽や延長期間につながる取組 | | | | | | | | | | |
| ハザードマップの周知徹底(再掲) | 引き続き実施 | 10 | 市内各所 | | | | 名古屋市 | 各区内における高水・内水ハザードマップを、区役所等の関係会所にて配布。また水防訓練等の機会をとらえて住民への普及啓発を行っている。 | 地域住民に「洪水・内水ハザードマップ」が完全に認知されているとはいえない。 | |
| 小学生にも理解できる教材を用いた、防災教育の実施(再掲) | 毎年実施 | 11 (3) | 毎年 | 港防災センター | | | 名古屋市 | 毎年、港防災センターにおいて小学生向けの展示及びワークショップの開催。 | 新型コロナウイルスの影響により、今後のワークショップのあり方を検討しなければならない。 | |
| 住民の水害リスクの認識向上を目的としたみずから守るプログラムによる支援や水防災フォーラムの開催(再掲) | 毎年実施 | 12 (4) | 平成30年12月15日 (味説セミ) | 名古屋市北区 (味説セミ) | 26 | 味説学区 | 愛知県 | 住民の水害リスクの認識向上を目的としたみずから守るプログラムによる大規模行動訓練や手作りハザードマップの作製の支援 | - | 新型コロナウイルスの影響により、普及啓發機会の減少が予想される。 |
| ■タイムラインの作成・実践 | | | | | | | | | | |
| 避難に着目したタイムラインの作成(未策定の市町) | 平成32年度まで | 13 | | | | | | | | |
| タイムラインを踏まえた訓練、試行運用の実施 | 平成28年度から(東京済みの市町から順次) | 14 | 平成30年8月30日 | | | | 名古屋駅地区防火・防災管理協議会 庄内川河川事務所 | 地下街等への情報伝達訓練を実施し、関係者への周知及び習熟を図る。 | 地下街等への情報伝達訓練を企画し、意識の更なる向上を図る。 | 訓練の多様化ができるいない。 |
| 内水、支川氾濫による浸水や地下空間への浸水、台風以外の前兆による豪雨等に対するタイムラインへの改訂 | 平成28年度から | 15 | 平成30年2月 | | | | | | 名古屋駅地区地下空間タイムラインを作成 | 名古屋駅地区地下空間における内水タイムラインの検討。 |
| ●ソフト対策の主な取組 ②強制的避難による警戒の強化、避難時間の確保のための水防活動や応急復旧活動に関する取組 ■庄内川流域の避難行動に係るリスク情報、避難場所等の把握、水防訓練等の実施 | | | | | | | | | | |
| 住民・関係者の等の理解・認識が高まる重要な要防箇所の巡回の実施 | 毎年実施 | 16 | 毎年 | 市内各所 | 約400人 地域住民 ライフライン業者 など | | 名古屋市 | 毎年、各区分所が主体となって、関係公署や業者、地域住民とともに水防注意箇所の巡回を行っている。 | 新型コロナウイルスの影響のため、大人数での巡回は行わず、水防注意箇所を机上で巡回・把握する訓練を行って予定。 | 新型コロナウイルスの影響から巡回を中止したが、その代替措置に対する有用性の検討。 |
| 水防活動の知識習得と技術力向上のため、水防訓練の実施や水防専門家を講師とした講習会を実施 | 毎年実施 | 17 | 毎年 | 市内各所 | 約5000人 名古屋市消防団 地域住民 愛知県警察 など | | 名古屋市 | 毎年、各区分において総合水防訓練を実施し、知識の習得及び技術の向上を図る。 | 新型コロナウイルスの影響のため、総合水防訓練を中止したが、その代替措置に対する有用性の検討。 | |
| 内水・支川氾濫による浸水も想定した水防活動の検討 | 平成28年度から | 18 | 平成30年から | 市内各所 | 約300人 各区分役 | | 名古屋市 | 平成30年度に各区ごとの災害対応マニュアルを作成、各区分の実情に合わせた訓練を行った。 | 各区において、災害対応マニュアルに基づいた団上訓練を実施予定。 | マニュアルに対しての検証がまだ十分になされていない。 |
| ■水防活動や応急復旧活動の実施体制等の整備 | | | | | | | | | | |
| 一部の地域で一定の成果を得ている大学生等の入浴を促進する取組を行うなどの消防団(兼任水防団)の人員確保に努める。 | 引き続き実施 | 19 | 通常 | | | | 名古屋市 | ・消防団員資格手帳登録制度による、全市の消防団の登録登録の実施による、各消防団の開催地、学生消火活動認定制度を活用することなどにより、大学生等の入浴を促進する。 | 引き続き実施予定 | |
| 橋梁への量水標の表示などを水防活動時に必要な情報提供の強化 | 平成28年度から | 20 | | | | | | | | |
| 出水時に水防活動、河川巡視、応急復旧活動に支障が出るおそれのある防護施設の避行規制の検討 | 平成32年度まで | 21 | 令和元年 | 名古屋市 | | | 名古屋市 | ・通行規制の手法及び周辺への影響、課題等について検討 | ・継続して検討予定 | ・通行規制の実施方法や規制中の交通処理、基準や周知等 |
| 土のう堵えなどの水防活動に必要な資材の保管や作業場所、及び災害復旧活動の拠点となる防災拠点の整備(ハード整備) | 平成32年度まで | 22 | 毎年 | 名古屋市 | | | 名古屋市 | ・排水高さとなる水防壁庫において、水防活動に必要な資材等の保管状況の確認・点検、必要に応じて補充や整備を行う予定 | ・継続して実施 | |
| 重装水防箇所に対応する農地の水防構造・資材保管場所、アカセ道路の関係者間での情報共有 | 平成29年度から | 23 | 令和元年8月 | 庄内川河川事務所 | | | 名古屋市 | ・被災箇所(庄内川河川事務所)における水防構造・資材保管場所と意見交換を実施し、情報共有を図る(毎年度) | ・継続して開催予定 | ・水防作業時に支撑とならないよう庄内川の堤防道路を事前に通行止めの対応が問題 |
| ●ソフト対策の主な取組 ③「最も早い生活再建及び社会経済活動の回復を可能とするための水防活動に関する取組 ■沿岸流の堆積計画の立案 | | | | | | | | | | |
| 氾濫発生時でも稼働可能な雨水ポンプ場の確認 | 平成28年度 | 24 | | 名古屋市 | | | 名古屋市 | ・氾濫発生時でも稼働可能な雨水ポンプ場の確認 | | |
| 排水ポンプ車、雨水ポンプ場による滞留する氾濫流の排水計画の立案 | 平成28年度から検討実施 | 25 | | | | | | | | |

「庄内川流域の減災に係る取組方針」概ね5年で実施する取組進捗状況(ソフト対策)

【機関名】瀬戸市

様式-1

| 具体的な取組の柱 事項 | 実施期間 | 項目番号 | H28~R1までの代表的取組 | | | | | H28~R1までの取組状況 | R2の取組予定 | これまでの課題等 | |
|--|---|-----------|----------------|-----------|--------|----------------------|----------------------|--|--|---|--|
| | | | 実施年月日 | 実施場所 | 参加人数 | 参加機関 | 実施主体 | | | | |
| ●ソフト対策の主な取組 ①人命被害ゼロに向けて住民の自覚的な避難行動を促す取組 ■庄内川流域の避難行動にかかるリスク情報、避難場所や避難前にする確認の周知、住民の防災意識向上へのための取組 | | | | | | | | | | | |
| 想定最大規模七合目水浸水想定区域図、浸水シミュレーション、家庭倒壊等氾濫想定区域の公表 | 平成28年度出水期まで | 1 | | | | | | | | | |
| | 想定最大規模降雨による水浸水想定区域におけるハザードマップ作成及び周知徹底 | 平成29年度~ | 2 | 令和元年7月20日 | 庄内町民会館 | 10名程度 | 瀬戸市役所 危機管理課 庄内町内会 | 瀬戸市 | 見直された洪水浸水想定区域図を基にハザードマップ化するまでの間、庄内川河川事務所の洪水浸水想定区域図を作成し啓発資料を作成せ、説明会を開催。そのため避難ルートを呼び掛けた。 | 新たな洪水浸水想定区域図を基にハザードマップを作成。市町村の指導による周知、説明会等を実施予定 | 既存の洪水浸水想定区域図の見直しにより、ハザードマップ化の調整に時間を要した |
| | 小学生にも理解できる教材を用いた、防災教育の実施 | 毎年実施 | 3 | 随時実施 | - | - | - | 瀬戸市 | 命を守るために防災ハンドブック等を用いて、防災講話などを随時実施 | 引き続き実施 | - |
| | 住民の水害リスクの認識向上を目的としたみずから守るプログラムによる支援や水防災フォーラムの開催 | 毎年実施 | 4 | - | - | - | - | 瀬戸市 | ハザードマップが未作成のため実施できず。 | ハザードマップ作成後地域へ周知し、実施に向け、地域と挨拶を実施予定 | 既存の洪水浸水想定区域図の見直しにより、ハザードマップ化の調整に時間を要した |
| | 災害・避難カードによる避難行動の認識の徹底 | 引き続き実施 | 5 | - | - | - | - | 瀬戸市 | ハザードマップが未作成のため実施できず。 | ハザードマップ作成後地域へ周知し、実施に向け、地域と挨拶を実施予定 | 既存の洪水浸水想定区域図の見直しにより、ハザードマップ化の調整に時間を要した |
| ■洪水時河川の水位等に関する避難行動につながるリスク情報の周知 | | | | | | | | | | | |
| 洪水予報文の改良 | 平成28年度 | 6 | | | | | | | | | |
| リアルタイムの情報提供やブッシュ型の洪水予報等の情報発信 | 平成29年度から | 7 | 令和元年7月20日 | 庄内町民会館 | 10名程度 | 瀬戸市役所 危機管理課 庄内町内会 | 瀬戸市 | 瀬戸市安全安心情報メール等への登録を呼びかけ、避難情報を配信している。 | 引き続き実施 | 登録者等の伸び悩み | |
| CCTVカメラの情報の高度化、水位やカメラ画像等の情報の入手、活用方法の周知 | 平成28年度から | 8 | | | | | | | | | |
| 県と共同で行う市町村防災担当者向け「防災気象情報に関する講習会」等の実施 | 引き続き実施 | 9 | | | | | | | | | |
| ■訓練活動等の頻度等にかかる取組 | | | | | | | | | | | |
| ハザードマップの周知徹底(再掲) | 引き続き実施 | 10 | 令和元年7月20日 | 庄内町民会館 | 10名程度 | 瀬戸市役所 危機管理課 庄内町内会 | 瀬戸市 | 見直された洪水浸水想定区域図を基にハザードマップ化するまでの間、庄内川河川事務所の洪水浸水想定区域図を作成し啓発資料を作成せ、説明会を開催。そのため避難ルートを呼び掛けた。 | 新たな洪水浸水想定区域図を基にハザードマップを作成。市町村の指導による周知、説明会等を実施予定 | 既存の洪水浸水想定区域図の見直しにより、ハザードマップ化の調整に時間を要した | |
| 小学生にも理解できる教材を用いた、防災教育の実施(再掲) | 毎年実施 | 11 (3) | 随時実施 | - | - | - | 瀬戸市 | 命を守るために防災ハンドブック等を用いて、防災講話などを随時実施 | 引き続き実施 | - | |
| 住民の水害リスクの認識向上を目的としたみずから守るプログラムによる支援や水防災フォーラムの開催(再掲) | 毎年実施 | 12 (4) | - | - | - | - | 瀬戸市 | ハザードマップが未作成のため実施できず。 | ハザードマップ作成後地域へ周知し、実施に向け、地域と挨拶を実施予定 | 既存の洪水浸水想定区域図の見直しにより、ハザードマップ化の調整に時間を要した | |
| ■タイムラインの作成・実践 | | | | | | | | | | | |
| 避難に着目したタイムラインの作成(未策定の市町) | 平成32年度まで | 13 | 平成29年2月作成 | - | - | - | 瀬戸市 | 平成29年2月に作成し、随時見直しを実施。 | 随時見直しを実施 | - | |
| タイムラインを踏まえた訓練、試行運用の実施 | 平成28年度から(東京済みの市町から順次) | 14 | 随時実施 | - | - | - | 瀬戸市 | 災害時にタイムラインを使用し検討、見直しを実施。 | 随時見直しを実施 | - | |
| 内水、支川氾濫による浸水や地下空間への浸水、台風以外の前兆による豪雨等に対応したタイムラインへの改訂 | 平成28年度から | 15 | - | - | - | - | 瀬戸市 | 改訂できていない。 | 改訂等含め検討予定 | 内水や支川氾濫等の想定が難しい | |
| ●ソフト対策の主な取組 ②豪雨対策による警戒の強化、避難時間の短縮のための水防活動や応急復旧活動に関する取組 ■平時からの訓練や消防団等の住民や消防隊等の訓練、水防訓練の実施 | | | | | | | | | | | |
| 住民や関係者の理解・認識が高まる重要な水防箇所の巡回の実施 | 毎年実施 | 16 | - | - | - | - | 瀬戸市 | ハザードマップが未作成のため実施せず。 | ハザードマップ作成後地域へ周知し、実施に向け、地域と挨拶を実施予定 | 既存の洪水浸水想定区域図の見直しにより、ハザードマップ化の調整に時間を要した | |
| 水防活動の知識習得と技術力向上のため、水防訓練の実施や水防専門家を講師とした講習会を実施 | 毎年実施 | 17 | 毎年出水期前に実施 | - | - | - | 瀬戸市消防本部 | 毎年出水期前に消防団員が水防訓練を実施。 | 引き続き実施 | - | |
| 内水、支川氾濫による浸水も想定した水防活動の検討 | 平成28年度から | 18 | - | - | - | - | 瀬戸市 瀬戸市消防本部 | 内水や支川氾濫による浸水を想定した水防活動の検討は現状できていない。 | 黒から新たに発表された浸水予想図や浸水実績を踏み、検討予定 | 内水や支川氾濫等の想定が難しい | |
| ■水防活動や応急復旧活動の実施体制等の整備 | | | | | | | | | | | |
| 一部の地域で一定の成果を得ている大学生の入団を促進する取組を行うなどの消防団(兼任水防団)の人員確保に努める。 | 引き続き実施 | 19 | 随時実施 | - | - | - | 瀬戸市消防本部 | 随時、消防団員の加入促進や毎年消防団観閲式を行つ。 | 消防団観閲式の開催 | 若い世代の消防団員確保 | |
| 構造への量水標の表示など水防活動時に必要な情報提供の強化 | 平成28年度から | 20 | | | | | | | | | |
| 出水時に水防活動、河川巡査、応急復旧活動に支障がかかるための堤防崩壊の避行規制の検討 | 平成32年度まで | 21 | - | - | - | - | 瀬戸市 | 該当する市管理堤防道路が無い。 | - | - | |
| 土のう構えなどの水防活動に必要な資材の保管や作業場所、及び災害復旧活動の拠点となる防災拠点の整備(ハード整備) | 平成32年度まで | 22 | 随時実施 | - | - | - | 瀬戸市 瀬戸市消防本部 | 水防活動に必要な資機材の純化や整備、土のう、トラック、木杭、オイルマット等を常備している倉庫が斤金に併設されている。 | 必要資機材の購入や維持管理 | 維持管理費 | |
| 重要水防箇所に対応する農地の水防庫や資材保管場所、アセス道路の関係者間での情報共有 | 平成29年度から | 23 | 随時実施 | - | - | - | 瀬戸市 瀬戸市消防本部 | 水防庫、資機材庫について市、消防団で情報共有を実施。 | 引き続き実施 | - | |
| ●ソフト対策の主な取組 ③「新しい生活再建及び社会経済活動の回復を可能とするための水防活動に関する取組 ■沿水流の排水計画の立案 | | | | | | | | | | | |
| 氾濫発生時でも稼働可能な雨水ポンプ場の確認 | 平成28年度 | 24 | - | - | - | - | 瀬戸市 | 瀬戸市に雨水ポンプ場が無い。 | - | - | |
| 排水ポンプ車、雨水ポンプ場による滞留する氾濫流の排水計画の立案 | 平成28年度から検討実施 | 25 | - | - | - | - | 瀬戸市 | 排水ポンプ車、雨水ポンプ場が無いため未策定。 | - | - | |

「庄内川流域の減災に係る取組方針」概ね5年で実施する取組進捗状況(ソフト対策)

【機関名】 春日井市

様式-1

| 具体的な取組の柱 事項 | 実施期間 | 項目番号 | H28～R1までの代表的取組 | | | | | H28～R1までの取組状況 | R2の取組予定 | これまでの課題等 |
|---|---|--|---|----------------------------------|---|---|---------------------------|--|--|------------------------------|
| | | | 実施年月日 | 実施場所 | 参加人数 | 参加機関 | 実施主体 | | | |
| ●ソフト対策の主な取組 ①人命被害ゼロに向けて住民の自覚的防災行動を促す取組 ■庄内川流域からの避難行動にかかるリスク情報、避難場所や避難前にする確認の届出、住民の防災意識向上へのための取組 | | | | | | | | | | |
| 想定最大規模を含めた浸水想定区域図、浸水シミュレーション、家庭倒壊等氾濫想定区域の公表 | 平成28年度出水期まで | 1 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | 想定最大規模降雨によるハザードマップ作成及び周知徹底 | 平成29年度～ | 2 | | | | | | | ハザードマップの作成 |
| | 小学生にも理解できる教材を用いた、防災教育の実施 | 毎年実施 | 3 H28.5 H29.6.4 H30.6.3 R1.6.9 | 施原小学校 小野小学校 不二小学校 鷺川小学校 | 599人 493人 659人 485人 | 庄内川河川事務所、目衛隊、愛知県警、消防本部、春日井建設協会、中電、東邦瓦斯、NTT、春日井市赤十字会 | 春日井市 | 水防訓練において防災関係の体験コーナーを開いている。 | 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止。 | |
| | 住民の水害リスクの認識向上を目的としたみずから守るプログラムによる支援や水防災フォーラムの開催 | 毎年実施 | 4 | | | | | | R2.3に愛知県主催の防災カフェを開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止。 | 新型コロナウイルス関連の動向を見て、再度開催を検討する。 |
| | 災害・避難カードによる避難行動の認識の徹底 | 引き続き実施 | 5 H30 | | | | | みずから守るプログラムをPRするため、地元の防災リーダーにパンフレットを配布した。 | パンフレットにてPRしていく。 | |
| ■洪水時における避難行動につながるリスク情報の周知 | | | | | | | | | | |
| 洪水予報文の改良 | 平成28年度 | 6 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| リアルタイムの情報提供やブッシュ型の洪水予報等の情報発信 | 平成29年度から | 7 | | | | | 春日井市 | 登録者に気象情報をリアルタイムでメール配信している。エリックメールを携帯電話各社と契約。 | | |
| CCTVカメラの情報の高度化、水位やカメラ画像等の情報の入手、活用方法の周知 | 平成28年度から | 8 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 県と共同で行う市町村防災担当者向け「防災気象情報に関する講習会」等の実施 | 引き続き実施 | 9 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| ■訓練活動等の発芽が避難行動につながる取組 | | | | | | | | | | |
| ハザードマップの周知徹底(再掲) | 引き続き実施 | 10 | 項目番号2に同じ | 項目番号2に同じ | 項目番号2に同じ | 項目番号2に同じ | 項目番号2に同じ | 項目番号2に同じ | 項目番号2に同じ | 項目番号2に同じ |
| 小学生にも理解できる教材を用いた、防災教育の実施(再掲) | 毎年実施 | 11 (3) | 項目番号3に同じ | 項目番号3に同じ | 項目番号3に同じ | 項目番号3に同じ | 項目番号3に同じ | 項目番号3に同じ | 項目番号3に同じ | 項目番号3に同じ |
| 住民の水害リスクの認識向上を目的としたみずから守るプログラムによる支援や水防災フォーラムの開催(再掲) | 毎年実施 | 12 (4) | 項目番号4に同じ | 項目番号4に同じ | 項目番号4に同じ | 項目番号4に同じ | 項目番号4に同じ | 項目番号4に同じ | 項目番号4に同じ | 項目番号4に同じ |
| ■タイムラインの作成・実践 | | | | | | | | | | |
| 避難に着目したタイムラインの作成(未策定の市町) | 平成32年度まで | 13 H29 | | | | | 春日井市 | 策定済み | | |
| タイムラインを踏まえた訓練、試行運用の実施 | 平成28年度から(東京済みの市町から順次) | 14 | | | | | | | | 水防訓練への組み込みを検討。 |
| 内水、支川氾濫による浸水や地下空間への浸水、台風以外の前兆による豪雨等に対するタイムラインへの改訂 | 平成28年度から | 15 | | | | | | | | 内水ハザードマップの作成 |
| ●ソフト対策の主な取組 ②漏水対策による避難の確保、避難時間のための水防活動や水害復旧活動に関する取組 ■庄内川流域からの避難や消防等による避難水防災活動等の実施 | | | | | | | | | | |
| 住民・関係者の理解・認識が高まる重要な水防箇所の巡回の実施 | 毎年実施 | 16 H28.22 H29.7.12 H30.6.22 R1.6.21 | 春日井市内 | | | 庄内川河川事務所、春日井市 | 春日井市 | 市長が巡回に参加 区画整理組合事務が巡回に参加 | | |
| 水防活動の知識習得と技術力向上のため、水防訓練の実施や水防専門家を講師とした講習会を実施 | 毎年実施 | 17 H28.02 H29.7.12 H30.6.22 R1.6.21 | 施原小学校 小野小学校 不二小学校 鷺川小学校 | 599人 493人 659人 485人 | 庄内川河川事務所、目衛隊、愛知県警、消防本部、春日井建設協会、中電、東邦瓦斯、NTT、春日井市赤十字会 | 春日井市 | 毎年出水期前に水防工法の確認を行う水防訓練を実施。 | | | |
| 内水・支川氾濫による浸水も想定した水防活動の検討 | 平成28年度から | 18 R1 | | | | | 春日井市 | 中部電力、津浦用水組合と協定を締結。 中部電力のスマートメーターを活用し、マンホール水位計のデーターの無線送信の実証実験を行っている。 | 津浦用水の水門操作訓練を合同で実施。 | |
| ■水防活動や応急復旧活動の実施体制等の整備 | | | | | | | | | | |
| 一部の地域で一定の成果を得ている大学生の入浴を促進する取組を行うなどの消防団(兼任水防団)の人員確保に努める。 | 引き続き実施 | 19 | | | | | 春日井市 | | 同様の取り組みを続けていく。 | |
| 横瀬への量水標の表示など水防活動時に必要な情報提供の強化 | 平成28年度から | 20 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 出水時に水防活動、河川巡視、応急復旧活動に支障が出るおそれのある堤防沿線の巡回規制の検討 | 平成32年度まで | 21 | | | | | | 通行に危険のある場合は実際に通行規制している。 | 出水時の想定訓練を実施。 | |
| 土のう桿などの水防活動に必要な資材の保管や作業場所、及び災害復旧活動の拠点となる防災拠点の整備(ハーベ整備) | 平成32年度まで | 22 H29.3 | | | | | 春日井市 | 防災倉庫を新設した。 | 防災倉庫の新設等について予算措置を検討。 | |
| 重委水防箇所に対応する農地の水防倉庫や資材保管場所、アセス道路の関係者間での情報共有 | 平成29年度から | 23 | | | | | | | | |
| ●ソフト対策の主な取組 ③「新しい生活再建及び社会経済活動の回復を可能とするための水防活動に関する取組 ■沿水流の排水計画の立案 | | | | | | | | | | |
| 氾濫発生時でも稼働可能な雨水ポンプ場の確認 | 平成28年度 | 24 | | | | | 春日井市 | | 庄内川の外水氾濫による浸水想定高さについては各ポンプ場とも電源の停止による浸水が予想され、対応できていない。 | |
| 排水ポンプ車、雨水ポンプ場による滞留する氾濫流の排水計画の立案 | 平成28年度から検討実施 | 25 R1 | | | | | 春日井市 | 排水ポンプ車の導入を検討。矢作川防災ステーションへ搬入を行った。 | 引き続き検討。 | |

「庄内川流域の減災に係る取組方針」概ね5年で実施する取組進捗状況(ソフト対策)

【機関名】 小牧市 市民生活部防災危機管理課

様式-1

| 具体的な取組の柱 事項 | 実施期間 | 項目番号 | H28~R1までの代表的取組 | | | | | H28~R1までの取組状況 | R2の取組予定 | これまでの課題等 |
|---|--|-----------------------|----------------|------------------|-------------------------|-------|------------|---------------|--|--|
| | | | 実施年月日 | 実施場所 | 参加人数 | 参加機関 | 実施主体 | | | |
| ●ソフト対策の主な取組 ①入浴被着ゼロに向けた住民の自主的な避難行動向上を促す取組 ■庄内川流域からの避難行動にかかるリスク情報、避難場所や避難前にかかる費用の周知、住民の防災意識向上へのための取組 | | | | | | | | | | |
| 想定最大規模を含めた浸水確定区域図、浸水シミュレーション、家庭倒壊等氾濫想定区域の公表 | 平成28年度出水期まで | 1 | 平成28年3月発行 | - | - | - | - | 小牧市 | 小牧市防災ガイドブックが平成27年度改定し、平成28年4月に合戸配布を実施。ガイドブックの中に、想定の隣での内水氾濫等の情報を公開している。 | 今後は、認知度においては想定の庄内川想定堤防等が公表されるので、ガイドブックの改訂を行ったための業務委託を行い、来年度に改訂版を印刷発注、全戸配布を計画中。 |
| | 想定最大規模降雨による浸水確定区域におけるハザードマップ作成及び周知徹底 | 平成29年度~ | 2 | 〃 | - | - | - | 〃 | 〃 | 〃 |
| | 小学生にも理解できる教材を用いた、防災教育の実施 | 毎年実施 | 3 | - | - | - | - | - | - | - |
| | 住民の水害リスクの認識向上を目的としたみずから守るプログラムによる支援や水防災フォーラムの開催 | 毎年実施 | 4 | - | - | - | - | - | - | - |
| | 災害・避難カードによる避難行動の認識の徹底 | 引き続き実施 | 5 | 令和元年 | - | - | - | 小牧市 | 避難等を行った外因人に対して状況等を視覚的に伝えるためのカードを作成し、各避難所運営を行う上でどの補助ツールとして防災備蓄庫に記載。 | - |
| ■洪水時における河川の水位等に関する避難行動につながるリスク情報の周知 | | | | | | | | | | |
| 洪水予報文の改良 | 平成28年度 | 6 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | リアルタイムの情報提供やブッシュ型の洪水予報等の情報発信 | 平成29年度から | 7 | 令和元年 | - | - | - | 小牧市 | 既存のレアリティシステム及び警報メールに加え、電話・FAX配信サービス(スマホ等の扱いが苦手な高齢者等がターゲット) | 単身練習メールのシステムと電話・FAX配信のシステムを結合予定。 |
| | CCTVカメラの情報の高度化、水位やカメラ画像等の情報の入手、活用方法の周知 | 平成28年度から | 8 | - | - | - | - | - | - | - |
| | 県と共同で行う市町村防災担当者向け「防災気象情報に関する講習会」等の実施 | 引き続き実施 | 9 | - | - | - | - | - | - | - |
| ■訓練教習所の発芽が避難行動につながる取組 | | | | | | | | | | |
| ハザードマップの周知徹底(再掲) | 引き続き実施 | 10 | - | - | - | - | - | - | - | 防災訓練等で防災ガイドブックの周知を図るなどの追加が必要と考えている。しかし、新型コロナウイルスの影響で防災訓練等の実施が控まっている。 |
| | 小学生にも理解できる教材を用いた、防災教育の実施（再掲） | 毎年実施 | 11 (3) | - | - | - | - | - | - | - |
| | 住民の水害リスクの認識向上を目的としたみずから守るプログラムによる支援や水防災フォーラムの開催(再掲) | 毎年実施 | 12 (4) | - | - | - | - | - | - | - |
| ■タイムラインの作成・実践 | | | | | | | | | | |
| 避難に着目したタイムラインの作成(未策定の市町) | 平成32年度まで | 13 | 令和元年7月 | - | - | - | - | 小牧市 | 令和元年7月に職員初動体制マニュアル内の「台風の接近に伴う事前防災行動計画(タイムライン)」を修正、閲覧した。 | - |
| | タイムラインを踏まえた訓練、試行運用の実施 | 平成28年度から(東京済みの市町から順次) | 14 | - | - | - | - | - | - | 令和2年4月に東水害海上訓練(大西洋型)を実施した際に、項目番号13で記載したタイムラインを一部活用した訓練を実施した。 |
| | 内水、支川氾濫による浸水や地下空間への浸水、台風以外の前兆による豪雨等に対するタイムラインへの改訂 | 平成28年度から | 15 | - | - | - | - | - | - | 今後、項目番号13で記載したタイムラインをベースにケースごとに作成する必要があると考えている。(作成時期未定) |
| ●ソフト対策の主な取組 ②漏水対策による浸水の確保、避難時間のための水防活動や応急復旧活動に関する取組 ■庄内川流域からの自衛隊や消防出動隊(住民による直接水防災専門部隊等)による漏水対策の実施 | | | | | | | | | | |
| 住民・関係者の理辯・認識が高まる重要な水防災所の巡回の実施 | 毎年実施 | 16 | | | | | | | | |
| | 水防活動の知識習得と技術力向上のため、水防訓練の実施や水専門家を講師とした講習会実施 | 毎年実施 | 17 | 令和3年5月 水防訓練実施 | 各小学校、頃見橋付近 (ヨーロッパンC) | 約500人 | 市、消防等関係各部署 | 小牧市 | - | 新型コロナウイルス感染症の発生で水防訓練中止 |
| | 内水・支川氾濫による浸水も想定した水防活動の検討 | 平成28年度から | 18 | - | - | - | - | - | - | - |
| ■水防活動や応急復旧活動の実施体制等の整備 | | | | | | | | | | |
| 一部の地域で一定の成果を得ている大学生等の入浴を促進する取組を行うなどの消防団(兼任水防団)の人員確保に努める。 | 引き続き実施 | 19 | 継続実施 | - | - | - | - | 小牧市消防本部 | 事業所等に消防団員募集等のバスターを掲示などを依頼し、新規消防団員確保に努めている。 | - |
| | 横波への量水標の表示など水防活動時に必要な情報提供の強化 | 平成28年度から | 20 | - | - | - | - | - | - | - |
| | 出水時に水防活動、河川巡査、応急復旧活動に支障が出るおそれのある堤防沿線の避行規制の検討 | 平成32年度まで | 21 | - | - | - | - | - | - | - |
| | 土のう桿などの水防活動に必要な資材の保管や作業場所、及び災害復旧活動の拠点となる防災拠点の整備(ハーツ整備) | 平成32年度まで | 22 | - | - | - | - | - | - | - |
| | 重姦水防専門に対応する農業用水の水防庫や資材保管場所、アカセ道路の関係者間での情報共有 | 平成29年度から | 23 | - | - | - | - | - | - | - |
| ●ソフト対策の主な取組 ③「新しい生活再建及び社会経済活動の回復を可能とするための水防活動に関する取組 ■庄内川流域の排水計画の立案 | | | | | | | | | | |
| 氾濫発生時でも稼働可能な雨水ポンプ場の確認 | 平成28年度 | 24 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | 排水ポンプ車、雨水ポンプ場による滞留する氾濫流の排水計画の立案 | 平成28年度から検討実施 | 25 | - | - | - | - | - | - | - |

「庄内川流域の減災に係る取組方針」概ね5年で実施する取組進捗状況(ソフト対策)

【機関名】 稲沢市

様式-1

| 具体的な取組の柱 事項 | 実施期間 | 項目番号 | H28~R1までの代表的取組 | | | | | H28~R1までの取組状況 | R2の取組予定 | これまでの課題等 | |
|---|-----------------------|-----------|----------------|-----------|------|---------------------------------------|--------------------|------------------------|--|------------------------|------|
| | | | 実施年月日 | 実施場所 | 参加人数 | 参加機関 | 実施主体 | | | | |
| ●ソフト対策の主な取組 ①入浴被着ゼロに向かって住民の自主的な避難行動を促す取組 ■庄内川流域の避難行動に係るリスク情報、避難場所や避難前にする行動の周知、住民の防災意識向上のための取組 | | | | | | | | | | | |
| 想定最大規模を含めた浸水想定区域図、浸水シミュレーション、家庭倒壊等氾濫想定区域の公表 | 平成28年度出水期まで | 1 | - | - | - | - | - | - | - | 想定最大規模を含めたハザードマップを作成予定 | - |
| 想定最大規模降雨の浸水想定区域におけるハザードマップ作成及び周知徹底 | 平成29年度~ | 2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 小学生にも理解できる教材を用いた、防災教育の実施 | 毎年実施 | 3 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 住民の水害リスクの認識向上を目的としたみずから守るプログラムによる支援や水防災フォーラムの開催 | 毎年実施 | 4 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 災害・避難カードによる避難行動の認識の徹底 | 引き続き実施 | 5 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| ■洪水時河川の水位等に関する避難行動につながるリスク情報の周知 | | | | | | | | | | | |
| 洪水予報文の改良 | 平成28年度 | 6 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| リアルタイムの情報提供やブッシュ型の洪水予報等の情報発信 | 平成29年度から | 7 | 随時 | - | - | - | - | 稲沢市 | 携帯電話事業者が提供する「緊急速報メール」のメールアドレスを用いて、庄内川流域住民へ周知する。住民の主体的な避難を促進することが可能 | 継続して実施 | 特になし |
| CCTVカメラの情報の高度化、水位やカメラ画像等の情報の入手、活用方法の周知 | 平成28年度から | 8 | - | - | - | - | - | - | - | 水位カメラを中電柱10か所に設置予定 | - |
| 県と共同で行う市町村防災担当者向け「防災気象情報に関する講習会」等の実施 | 引き続き実施 | 9 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| ■訓練啓発等の発芽が避難行動につながる取組 | | | | | | | | | | | |
| ハザードマップの周知徹底(再掲) | 引き続き実施 | 10 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 小学生にも理解できる教材を用いた、防災教育の実施（再掲） | 毎年実施 | 11 (3) | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 住民の水害リスクの認識向上を目的としたみずから守るプログラムによる支援や水防災フォーラムの開催(再掲) | 毎年実施 | 12 (4) | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| ■タイムラインの作成・実践 | | | | | | | | | | | |
| 避難に着目したタイムラインの作成(未策定の市町) | 平成32年度まで | 13 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| タイムラインを踏まえた訓練、試行運用の実施 | 平成28年度から(東京済みの市町から順次) | 14 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 内水、支川氾濫による浸水や地下空間への浸水、台風以外の前兆による豪雨等に対するタイムラインへの改訂 | 平成28年度から | 15 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| ●ソフト対策の主な取組 ②漏水対策による浸水の軽減、避難時間の短縮のための水防活動や応急復旧活動に関する取組 ■庄内川流域の漏水による浸水の軽減、避難時間の短縮のための水防活動や応急復旧活動に関する取組 | | | | | | | | | | | |
| 住民・関係者の理屈・認識が高まる重要な水防箇所の巡回の実施 | 毎年実施 | 16 | 毎年5月ごろ | 木曽川 | 約10人 | 木曾川上流河川事務所木曾川第二出張所、稲沢市、稲沢市消防本部、稲沢市消防団 | 木曾川上流河川事務所木曾川第二出張所 | 木曾川上流河川事務所木曾川第二出張所 | 木曾川の堤防周辺の巡回 | 継続して実施予定 | 特になし |
| 水防活動の知識習得と技術力向上のため、水防訓練の実施や水防専門家を講師とした講習会を実施 | 毎年実施 | 17 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 内水・支川氾濫による浸水も想定した水防活動の検討 | 平成28年度から | 18 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| ■水防活動や応急復旧活動の実施体制等の整備 | | | | | | | | | | | |
| 一部の地域で一定の成果を得ている大学生等の入浴を促進する取組を行うなどの水防団(兼任水防団)の人員確保に努める。 | 引き続き実施 | 19 | 1月20日 | 愛知県内 | - | 愛知県、稲沢市消防本部ほか | 愛知県 | あいち消防団の日(駅での啓発等) | 継続して実施 | 特になし | |
| 横瀬への量水標の表示など水防活動時に必要な情報提供の強化 | 平成28年度から | 20 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 出水時に水防活動、河川巡回、応急復旧活動に支障が出るおそれのある堤防巡査の週別規制の検討 | 平成32年度まで | 21 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 土のう擣えなどの水防活動に必要な資材の保管や作業場所、及び災害復旧活動の拠点となる防災拠点の整備(ハザード整備) | 平成32年度まで | 22 | 令和元年7月 | 稲沢市内10か所 | - | - | 稲沢市 | 土のうステーション(緊急用簡易土のう置き場) | 稲沢市内5か所に追加予定 | 今後順次整備していく | |
| 重要水防箇所に対応する農地の水防施設の整備 | 平成29年度から | 23 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| ●ソフト対策の主な取組 ③「新しい生活再建及び社会経済活動の回復を可能とするための水防活動に関する取組 ■沿岸流の堆積計画の立案 | | | | | | | | | | | |
| 氾濫発生時でも稼働可能な雨水ポンプ場の確認 | 平成28年度 | 24 | 随時 | 稲沢市内の排水施設 | 数名 | - | 稲沢市 | 排水機場の確認等 | 継続して実施 | 特になし | |
| 排水ポンプ車、雨水ポンプ場による滞留する氾濫流の排水計画の立案 | 平成28年度から検討実施 | 25 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |

「庄内川流域の減災に係る取組方針」概ね5年で実施する取組進捗状況(ソフト対策)

【機関名】 清須市

様式-1

| 具体的な取組の柱 事項 | 実施期間 | 項目番号 | H28~R1までの代表的取組 | | | | | H28~R1までの取組状況 | R2の取組予定 | これまでの課題等 |
|--|---|-----------------------|----------------|-----------|--------|------------|-------------------------|--|--|---|
| | | | 実施年月日 | 実施場所 | 参加人数 | 参加機関 | 実施主体 | | | |
| ●ソフト対策の主な取組 ①人命被害ゼロに向けて住民の自覚的な避難行動を促す取組 ■庄内川流域の避難行動にかかるリスク情報、避難場所や避難前にかかる情報の周知、住民の防災意識向上へのための取組 | | | | | | | | | | |
| 想定最大規模七合水による浸水想定区域図、浸水シミュレーション、家庭倒壊等氾濫想定区域の公示 | 平成28年度出水期まで | 1 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| | 想定最大規模降雨によるハザードマップ作成及び周知徹底 | 平成29年度～ | 2 | 令和2年3月18日 | 清須市 | | | 清須市 | ・令和元年度、想定し得る最大規模の降雨に対応したハザードマップ(清須市水害対応ガイドブック)に改訂を行った。 | ・5月1日に市広報誌に併せ、全戸配布を実施。 |
| | 小学生にも理解できる教材を用いた、防災教育の実施 | 毎年実施 | 3 | | | | | 清須市 | ・未実施 | ・東海豪雨20年を踏まえた小学校への防災教室の実施。 ・コロナ対応により開催時期不確定。 |
| | 住民の水害リスクの認識向上を目的としたみずから守るプログラムによる支援や水防災フォーラムの開催 | 毎年実施 | 4 | 令和元年9月2日 | 桜宮家地区 | 15名 | 桜宮家地区自治会、清須市 | 愛知県 | ・愛知県、清須市、桜宮家地区の三者協定に基づき、手づくりハザードマップの作成及び大雨行動訓練を実施。 | ・実施予定地区なし ・実施を希望する地区がない。 |
| | 災害・避難カードによる避難行動の認識の徹底 | 引き続き実施 | 5 | | | | | | ・未実施 | ・未定 |
| ■洪水時における河川の水位等に関する避難行動につながるリスク情報の周知 | | | | | | | | | | |
| 洪水予報文の改良 | 平成28年度 | 6 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| | リアルタイムの情報提供やブッシュ型の洪水予報等の情報発信 | 平成29年度から | 7 | | | | | 清須市 | ・登録制メール、ホームページ、防災行政無線、広報車、自治会への電話連絡など多様な手段による情報伝達。 | ・登録制メールの登録者が少ない。 |
| | CCTVカメラの情報の高度化、水位やカメラ画像等の情報の入手、活用方法の周知 | 平成28年度から | 8 | — | — | — | — | — | — | — |
| | 県と共同で行う市町村防災担当者向け「防災気象情報に関する講習会」等の実施 | 引き続き実施 | 9 | — | — | — | — | — | — | — |
| ■消防防災者の筋力が避難行動につながる取組 | | | | | | | | | | |
| ハザードマップの周知徹底(再掲) | 引き続き実施 | 10 | 令和2年3月18日 | 清須市 | | | 清須市 | ・令和元年度、想定し得る最大規模の降雨に対応したハザードマップ(清須市水害対応ガイドブック)に改訂を行った。 | ・5月1日に市広報誌に併せ、全戸配布を実施。 ・ハザードマップについての認知度が低い。 | — |
| | 小学生にも理解できる教材を用いた、防災教育の実施(再掲) | 毎年実施 | 11 (3) | | | | 清須市 | ・未実施 | ・東海豪雨20年を踏まえた小学校への防災教室の実施。 ・コロナ対応により開催時期不確定。 | — |
| | 住民の水害リスクの認識向上を目的としたみずから守るプログラムによる支援や水防災フォーラムの開催(再掲) | 毎年実施 | 12 (4) | 令和元年9月2日 | 桜宮家地区 | 15名 | 桜宮家地区自治会、清須市 | 愛知県 | ・愛知県、清須市、桜宮家地区の三者協定に基づき、手づくりハザードマップの作成及び大雨行動訓練を実施。 | ・実施予定地区なし ・実施を希望する地区がない。 |
| ■タイムラインの作成・実践 | | | | | | | | | | |
| 避難に着目したタイムラインの作成(未策定の市町) | 平成32年度まで | 13 | | | | | | | ・未策定 | ・未定 |
| | タイムラインを踏まえた訓練、試行運用の実施 | 平成28年度から(東京済みの市町から順次) | 14 | | | | | | ・未実施 | ・未定 |
| | 内水、支川氾濫による浸水や地下空間への浸水、台風以外の前兆による豪雨等に対するタイムラインへの改訂 | 平成28年度から | 15 | | | | | | ・未策定 | ・未定 |
| ●ソフト対策の主な取組 ②豪雨氾濫による警戒の強化、避難時間の確保のための水防活動や応急復旧活動に関する取組 ■庄内川流域の自家持続性や消防隊等の警戒、避難時間の確保による豪雨対応のための水防活動や応急復旧活動の実施 | | | | | | | | | | |
| 住民や関係者の理解・認識が高まる重要な水防箇所の巡回の実施 | 毎年実施 | 16 | 令和元年6月20日 | 庄内川下流部 | 2名 | 流域市町の防災担当者 | 庄内川河川事務所 | ・住民や関係者等の理解・認識が高まる重要な水防箇所の巡回への参加。 | ・巡回への参加。 | ・コロナ対応のため、巡回方法について検討。 |
| | 水防活動の知識習得と技術力向上のため、水防訓練の実施や水防専門家を講師とした講習会を実施 | 毎年実施 | 17 | 令和元年6月16日 | 庄内川河川敷 | 320名 | 庄内川河川事務所、西春日井広域事務組合消防本部 | 清須市 | ・水防訓練において、土のう造り、積木工、月の輪工を実践。 ・コロナ対応のため中止。 | — |
| | 内水・支川氾濫による浸水も想定した水防活動の検討 | 平成28年度から | 18 | | | | | | ・未実施 | ・未定 |
| ■水防活動や応急復旧活動の実施体制等の整備 | | | | | | | | | | |
| 一部の地域で一定の成果を得ている大学生等の入浴を促進する取組を行うなどの消防団(兼任水防団)の人員確保に努める。 構造への量水標の表示など水防活動時に必要な情報提供の強化 | 引き続き実施 | 19 | 令和元年12月8日 | にしご創造センター | 60名 | 古城ブロック | 古城ブロック自主防災会 | ・地域の自主防災訓練において、消防団への加入促進を目的とした誓約活動を実施。 | ・本市で初めて女性消防団員を採用。 ・団員数が減少している。 | — |
| | 出水時に水防活動、河川巡視、応急復旧活動に支障が出るおそれのある消防組織の避行規制の検討 | 平成32年度まで | 21 | — | — | — | — | — | — | — |
| | 土のう積みなどの水防活動に必要な資材の保管や作業場所、及び災害復旧活動の拠点となる防災拠点の整備(ハーベ整備) | 平成32年度まで | 22 | | | | | | ・未実施 | ・未定 |
| | 重委水防箇所に対応する農地の水防施設や資材保管場所、アセス道路の関係者間での情報共有 | 平成29年度から | 23 | | | | | | ・未実施 | ・未定 |
| | ■ソフト対策の主な取組 ③「新しい生活再建及び社会経済活動の回復を可能とするための水防活動に関する取組 ■沿岸流の堆積計画の立案 | | | | | | | | ・未実施 | ・未定 |
| 氾濫発生時でも稼働可能な雨水ポンプ場の確認 | 平成28年度 | 24 | | | | | | | ・未実施 | ・未定 |
| | 排水ポンプ車、雨水ポンプ場による滞留する氾濫流の排水計画の立案 | 平成28年度から検討実施 | 25 | | | | | | ・未実施 | ・未定 |

「庄内川流域の減災に係る取組方針」概ね5年で実施する取組進捗状況(ソフト対策)

【機関名】 北名古屋市

様式-1

| 具体的な取組の柱 事 項 | 実施期間 | 項目番号 | H28~R1までの代表的取組 | | | | | H28~R1までの取組状況 | R2の取組予定 | これまでの課題等 | | | | | |
|--|-----------------------|-----------|----------------|---------|-------|---|----------|--------------------------------|-----------------------------|----------|--|--|--|--|--|
| | | | 実施年月日 | 実施場所 | 参加人数 | 参加機関 | 実施主体 | | | | | | | | |
| ●ソフト対策の主要取組 ①命を救う柱に向けた住民の自主的な防災行動を促す取組 | | | | | | | | | | | | | | | |
| ■平常時からの避難行動につながるリスク情報、避難場所や路線に関する情報の周知、住民の防災意識向上への取組 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 想定最大規模も含めた浸水想定区域図、浸水シミュレーション、家屋倒壊等の豪雨想定区域の公表 | 平成28年度出水期まで | 1 | — | — | — | — | — | — | — | — | | | | | |
| 想定最大規模降雨の浸水想定区域におけるハザードマップ作成及び周知徹底 | 平成29年度～ | 2 | 未実施 | | | | | 未実施 | R3年度でのハザードマップ作成を検討中。 | 財源の確保。 | | | | | |
| 小学生にも理解できる教材を用いた、防災教育の実施 | 毎年実施 | 3 | 令和元年8月24日 | 師勝小学校 | 100人 | 師勝小学校PTA及び児童 | 師勝小学校PTA | | 未定 | | | | | | |
| 住民の水害リスクの認識向上を目的としたみずから守るプログラムによる支援や水防災フォーラムの開催 | 毎年実施 | 4 | 未実施 | | | | | 未実施 | 実施予定なし。 | | | | | | |
| 災害・避難カードによる避難行動の認識の徹底 | 引き続き実施 | 5 | 未実施 | | | | | 未実施 | 実施予定なし。 | | | | | | |
| ■洪水時の川の水位警報に対する避難行動につながるリスク情報を周知 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 洪水予報文の改良 | 平成28年度 | 6 | — | — | — | — | — | — | — | — | | | | | |
| リアルタイムの情報提供やプッシュ型の洪水予報等の情報発信 | 平成29年度から | 7 | | | | | | 街内5箇所に設置した河川カメラの映像をホームページに掲載。 | 引き続き実施。 | 住民への周知。 | | | | | |
| CCTVカラの情報の度合い、水位やカメラ画像等の情報の入手、活用方法の周知 | 平成28年度から | 8 | — | — | — | — | — | — | — | — | | | | | |
| 県と共同で行う町村防災担当者向け「防災気象情報に関する講習会」等の実施 | 引き続き実施 | 9 | — | — | — | — | — | — | — | — | | | | | |
| ■避難行動時の命令や避難行動につながる取組 | | | | | | | | | | | | | | | |
| ハザードマップの周知徹底(再掲) | 引き続き実施 | 10 | | | | | | ハザードマップ作成時に全戸配布。 市立公民館にて掲載。 | 引き続き実施。 | 住民への周知。 | | | | | |
| 小学生にも理解できる教材を用いた、防災教育の実施（再掲） | 毎年実施 | 11 (3) | 令和元年8月24日 | 師勝小学校 | 100人 | 師勝小学校PTA及び児童 | 師勝小学校PTA | | 未定 | | | | | | |
| 住民の水害リスクの認識向上を目的としたみずから守るプログラムによる支援や水防災フォーラムの開催(再掲) | 毎年実施 | 12 (4) | 未実施 | | | | | 未実施 | 実施予定なし。 | | | | | | |
| ■タイムラインの作成・実践 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 避難に着目したタイムラインの作成(未定の市町) | 平成32年度まで | 13 | | | | | | 作成済み | 継続的な実施。 | | | | | | |
| タイムラインを踏まえた訓練、該行運用の実施 | 平成28年度から(既定済みの市町から順次) | 14 | 未実施 | | | | | 未実施 | | | | | | | |
| 内水、支川氾濫による浸水や地下空間への浸水、台風以外の前線による豪雨等に対応したタイムラインへの改訂 | 平成28年度から | 15 | 未実施 | | | | | 未実施 | 実施予定なし。 | | | | | | |
| ●ソフト対策の主要取組 ②水害対応による被害の軽減、避難行動の確実化のための水防活動や応急復旧活動に関する取組 | | | | | | | | | | | | | | | |
| ■平常時からの自体防災や周辺住民に向けた豪雨・水害対応の実施 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 住民や関係者の理解・認識が高まる重要な水防箇所の巡視の実施 | 毎年実施 | 16 | 令和元年7月7日 | 中江川排水機場 | 約400名 | 愛知県、愛知県警察各署把島警察署、愛知県消防本部、名古屋市消防局、名古屋市消防防災課、名古屋市社会福祉部、北名古屋市社会福祉協議会、北名古屋市消防団、自生防災会など | 北名古屋市 | 水防訓練の中で、自主防災金による排水機場見学を実施。 | 未定 | | | | | | |
| 水防活動の知識習得と技術力向上のため、水防訓練の実施や水防専門家を講師とした講習会の実施 | 毎年実施 | 17 | 令和元年7月7日 | 中江川排水機場 | 約400名 | 愛知県、愛知県警察各署把島警察署、愛知県消防本部、名古屋市消防防災課、名古屋市社会福祉部、日井広域事務組合消防本部、北名古屋市社会福祉協議会、北名古屋市消防団、自生防災会など | 北名古屋市 | 毎年出水期に併せて、東海豪雨を教訓とした水防訓練を実施。 | 日程・内容について検討中。 | | | | | | |
| 内水や支川氾濫による浸水も想定した水防活動の検討 | 平成28年度から | 18 | 検討中 | | | | | 検討中 | 検討中 | | | | | | |
| ■水防活動や応急復旧活動の実施体制の整備 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 一部の地域で一定の成果を得ている大学生等の入団を促進する取組を行うなどの消防団(兼任水防団)の人員確保に努める。 | 引き続き実施 | 19 | 未実施 | | | | | 未実施 | 沿岸の大学生を対象とした機能別消防団を本年度より設置。 | 対象者への周知。 | | | | | |
| 被災への量水標の表示など水防活動に必要な情報提供の強化 | 平成28年度から | 20 | — | — | — | — | — | — | — | — | | | | | |
| 出水時における活動、河川巡視、応急復旧活動に支障が出るおそれのある防護道路の通行規制の検討 | 平成32年度まで | 21 | 未実施 | | | | | 未実施 | | 検討中 | | | | | |
| 土のう堵えなどの水防活動に必要な資材の保管や作業場所、及び災害復旧活動の箇所となる防災拠点の整備(ハート整備) | 平成32年度まで | 22 | 実施済 | | | | | 水防訓練などに、土のうの補充を実施。 | 未実施 | | | | | | |
| 重要水防箇所に対する敷設の水防庫や水防柵の設置、アカネス池の周囲等での作業と共に資材保管場所 | 平成29年度から | 23 | 未実施 | | | | | 未実施 | | 検討中 | | | | | |
| ●ソフト対策の主要取組 ③一層も早い生活再建及び社会経済活動の回復を可能とするための排水活動に関する取組 | | | | | | | | | | | | | | | |
| ■沿岸の排水計画の立案 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 氾濫発生時でも稼働可能な雨水ポンプ場の確認 | 平成28年度 | 24 | 実施済 | | | | | 毎年、非常配備の担当職員に対する説明会を実施。 | 非常配備の担当職員に対する説明会を実施。 | | | | | | |
| 雨水ポンプ車、雨水ポンプ場による滞留する氾濫水の排水計画の立案 | 平成28年度から検討実施 | 25 | 未実施 | | | | | 未実施 | 未定 | | | | | | |

「庄内川流域の減災に係る取組方針」概ね5年で実施する取組進捗状況(ソフト対策)

【機関名】あま市

様式-1

| 具体的な取組の柱 事項 | 実施期間 | 項目番号 | H28~R1までの代表的取組 | | | | H28~R1までの取組状況 | R2の取組予定 | これまでの課題等 | | | | | |
|--|----------------------|-----------|-------------------|------------------------|-----------|---|-------------------------|--|---|--------------|--|--|--|--|
| | | | 実施年月日 | 実施場所 | 参加人数 | 参加機関 | | | | | | | | |
| ●ソフト対策の主な取組 ①人災避難計画に向けた住民の自主的な行動を促す取組 ■平成28年からの避難行動に備えながらリスク低減、避難場所や路線に関する情報の周知・住民の防災意識向上へのための取組 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | |
| 想定最大規模と合わせた浸水想定区域図、浸水シミュレーション、家庭側面等氾濫想定区域の公表 | 平成28年度出水期まで | 1 | | | | | | | | | | | | |
| 想定最大規模降雨の浸水想定区域におけるハザードマップ作成及び周知徹底 | 平成29年度~ | 2 | 一 | 一 | 一 | 一 | 市 | 河川によっては想定最大規模降雨の浸水想定区域におけるハザードマップ作成及び周知徹底 | 河川によっては想定最大規模降雨の浸水区域が示されていない | | | | | |
| 小学生にも理解できる教材を用いた、防災教育の実施 | 毎年実施 | 3 | 毎年7月、2月ごろ | 市内各小学校 | 一ヶ所約60名 | 市内小学校12校 | 市 | 地震体験車をより活用し、小学生に地震体験をしていただき、地震の恐らしさを学び、日ごろからの地震対策への意識付 | 雨天中止のため、休業できない児童がいる。 | | | | | |
| 住民の水害リスクの認識向上を目的としたみずから守るプログラムによる支援や水防災フォーラムの開催 | 毎年実施 | 4 | 毎年11月の第1もしくは第2土曜日 | あま市美和文化会館 | 400名 | 交通安全・防犯・防災活動団体 消防団 海部東部消防組合 消防防災委員会 自主防災会 海部東部消防組合 あま市消防団 | 市 | 火防災に特化したフォーラムは実施していないが、安心心地をよりよくするための主的な地域活動を推進するための安全大会を開催する。その中で、消防署による防災訓練や、消防署による自主防災会が行う地区の自主防災訓練において、防災意識の啓発として避難所登録者者を配りだし、避難時待機所等で常時勤めを確認する機会を設けてある。 | 10年間実施したこと、当初目的である各団体間の連携、市民の意識向上はある程度達成されたため、他事業の活性化を図るために、一例年と同様、地区の自主防災訓練にて啓発予定。 | | | | | |
| 災害・避難カードによる避難行動の認識の徹底 | 引き続き実施 | 5 | 毎年秋頃 | 市内各地区 | 一ヶ所約50名 | 自主防災会 あま市 | 自衛隊 | 自衛隊訓練を実施していない地区への周知があまりできていないので、自治会長に説明し、周知の機会を作っていく。 | | | | | | |
| ●洪水計画の水位警報に備える防災行動についてのリスク情報の周知 | | | | | | | | | | | | | | |
| 洪水予報文の改良 | 平成28年度 | 6 | | | | | | | | | | | | |
| リアルタイムの情報提供やブッシュ型の洪水予報等の情報発信 | 平成29年度から | 7 | 平成29年~ | 市内全域 | 登録者約4000人 | 市民 市職員 | 市 | あま市防災情報メールにて、災害発生時のリアルタイムの情報提供を行っている。 | メール登録をしない方への情報提供手段が必要。 | | | | | |
| CCTVカメラの情報の高度化、水位やカメラ画像等の情報の入手、活用方法の周知 | 平成28年度から | 8 | | | | | | | | | | | | |
| 県と共に実行市町村防災担当者向け「防災気象情報に関する講習会」等の実施 | 引き続き実施 | 9 | | | | | | | | | | | | |
| ●被災復旧作業の命令が渡される際につながる取組 | | | | | | | | | | | | | | |
| ハザードマップの周知徹底(再掲) | 引き続き実施 | 10 | 一 | 一 | 一 | 一 | 市 | 既存の計画規範によるハザードマップ公開 | 河川によっては想定最大規模降雨の浸水区域が示されていないため、最大規模降雨対応のハザードマップの作成を課題。 | | | | | |
| 小学生にも理解できる教材を用いた、防災教育の実施（再掲） | 毎年実施 | 11 (3) | 毎年7月、2月ごろ | 市内各小学校 | 一ヶ所約60名 | 市内小学校12校 | 市 | 地震体験車をより活用し、小学生に地震体験をしていただき、地震の恐らしさを学び、日ごろからの地震対策への意識付けを行っている。 | 雨天中止のため、休業できない児童がいる。 | | | | | |
| 住民の水害リスクの認識向上を目的としたみずから守るプログラムによる支援や水防災フォーラムの開催（再掲） | 毎年実施 | 12 (4) | 市総合防災訓練を毎年8月に実施 | 市内グラウンド及び 中学校グラウンド等 | 500人 | 国、県の防災機関 市民病院、市内高校生民間協力団体等 | 市 | 市総合防災訓練を毎年8月に実施して、総合防災訓練として、水防災法訓練や要支援者避難誘導訓練により住民の認識向上を図る | 高齢参加者の配慮 | | | | | |
| ●タイムラインの作成・実践 | | | | | | | | | | | | | | |
| 避難に着目したタイムラインの作成(未策定の市町) | 平成32年度まで | 13 | 平成30年5月 | 一 | 一 | 一 | 市 | 河川ごとにタイムラインを作成し、避難のタイミングを分かれやすいように表した。 | 河川ごとに作成しているため、周知の方法を検討しなければならない。 | | | | | |
| タイムラインを踏まえた訓練、試行運用の実施 | 平成28年度から(策定済みの市町から次) | 14 | 未実施 | 一 | 一 | 一 | 市 | 地域住民により、自主的なハザードマップの作製などに協力した。 | 防災訓練に水害も取り入れられるよう検討する。 | | | | | |
| 内水、支川氾濫による浸水や地盤空間への浸水、台風以外の前線による豪雨等に対するタイムラインへの応じ | 平成28年度から | 15 | 未実施 | 一 | 一 | 一 | 検討中 | 内水、外水に限らず浸水を想定した水防活動を検討 | 時間と専門知識を持つ人員不足 | | | | | |
| ●ソフト対策の主な取組 ②洪氾氾濫による避難の観察、避難時間の確保のための水防活動や応急復旧活動に関する取組 ■平成28年からの自衛隊による重要な水防活動所の派遣、水防活動の実績の発表 | | | | | | | | | | | | | | |
| 住民や関係者の等の理解、認諾がある重要な水防活動所の派遣の実施 | 毎年実施 | 16 | 未実施 | 一 | 一 | 消防団(兼任水防団) | 市 | 消防団(兼任水防団)と巡回実施を検討している | 消防団(兼任水防団)と巡回実施を検討 時間と専門知識を持つ人員不足 | | | | | |
| 水防活動の知識習得と技術力向上のため、水防訓練の実施や水防専門家を講師とした講習会を実施 | 毎年実施 | 17 | 毎年 | 日光川等 | 50名 | 海部地区市町村防災部局 | 海部地区水防事務組合 | 海部地区水防事務組合、近隣市町村と毎年1回水防訓練を実施 | 市単独で訓練を行うには、専門知識を有する者が不足している | | | | | |
| 内水や支川氾濫による浸水も想定した水防活動の検討 | 平成28年度から | 18 | 適宜 | 一 | 一 | 市 | 内水、外水に限らず浸水を想定した水防活動を検討 | 内水、外水に限らず浸水を想定した水防活動を検討 | — | | | | | |
| ●水防活動による急復旧活動の実施状況等の発表 | | | | | | | | | | | | | | |
| 一部の地域にて一定の成果を得ている大学生等の入団を促進する取組を行うなどの消防団(兼任水防団)の人員確保に努める。 | 引き続き実施 | 19 | 毎年市主催成人式開催の日 | 成人式会場 | 30名 | 成人 | 市 | 消防団団員による募集啓発活動 | 例年通り実施予定 | — | | | | |
| 橋梁への量水標の表示など水防活動時に必要な情報提供の強化 | 平成28年度から | 20 | | | | | | | | | | | | |
| 出水時に水防活動、河川巡視、応急復旧活動に支障が出るおそれのある堤防道路の通行規制の検討 | 平成32年度まで | 21 | 平成28年度~ | あま市内 | 数名 | 市関係部局 | 市 | 通行規制区間の検討 | 通行規制区間の検討 | 通行規制区間の決定が困難 | | | | |
| 土のう持えなどの水防活動に必要となる資材の保管や作業場所、及び応急復旧活動の拠点となる防災拠点の整備(ハード整備) | 平成32年度まで | 22 | 一 | 市内水防倉庫 | 一 | 一 | 海部地区水防事務組合 | 市内水防倉庫に備品を蓄積している | 点検を行う予定 | — | | | | |
| 重要な防災箇所に対応する最寄りの水防倉庫や資材保管場所、アカセ道路の関係者間での情報共有 | 平成29年度から | 23 | 適宜 | 一 | 数名 | 海部地区水防事務組合 | 市 | 海部地区水防組合と連携して適切な情報共有を行った | 情報共有を行う予定 | — | | | | |
| ●ソフト対策の主な取組 ③一刻も早い生活再建及び社会経済活動の回復を実現するための排水活動に関する取組 ■平成28年の排水計画の立案 | | | | | | | | | | | | | | |
| 氾濫発生時でも稼働可能な雨水ポンプ場の確認 | 平成28年度 | 24 | 平成28年度~令和元年度 | あま市内 | 一 | 委託業者 | 市 | 排水ポンプについて、毎年度、荷役を業者に委託し稼働状況の確認を実施している。 | 例年通り実施予定 | 点検に関する知識の習得 | | | | |
| 排水ポンプ車、雨水ポンプ場による滞留する氾濫水の排水計画の立案 | 平成28年度から検討実施 | 25 | 平成28年度~ | あま市内 | 数名 | 市関係部局 | 市 | 排水ポンプ車、雨水ポンプ場による滞留する氾濫水の排水計画の立案 | 排水ポンプ車の導入の検討 | 予算確保が困難 | | | | |

「庄内川流域の減災に係る取組方針」概ね5年で実施する取組進捗状況(ソフト対策)

【機関名】 豊山町

様式-1

| 具体的な取組の柱 事 項 | 実施期間 | 項目番号 | H28～R1までの代表的取組 | | | | | H28～R1までの取組状況 | R2の取組予定 | これまでの課題等 |
|--|-----------------------|-----------|----------------|-------------------------|------|-----------------------------|--------|--|---|-------------------------|
| | | | 実施年月日 | 実施場所 | 参加人数 | 参加機関 | 実施主体 | | | |
| ●ソフト対策の主な取組 ①人命救助に向けた住民の自主防災行動等を促す取組 ■平成28年からの避難行動につながるリスク把握、避難場所や路線に関する情報の周知、住民の防災意識向上へのための取組 | | | | | | | | | | |
| 想定最大規模も含めた浸水想定区域図、浸水シミュレーション、家庭側堤等氾濫想定区域の公表 | 平成28年度出水期まで | 1 | － | － | － | － | － | － | － | － |
| 想定最大規模降雨の浸水想定区域におけるハザードマップ作成及び周知徹底 | 平成29年度～ | 2 | － | － | － | － | － | － | － | － |
| 小学生にも理解できる教材を用いた、防災教育の実施 | 毎年実施 | 3 | 毎年6月頃 | 町内小学校 | 100人 | 町民、小学校区自主防災会、豊山町消防団、赤十字奉仕団等 | 豊山町 | 平成29年より、町内小学校で豊山町防災チャレンジキャンプを開催し、プログラムの一環として、児童向けの防災クイズ等を実施。 | 新型コロナウィルス感染症の影響により、防災チャレンジキャンプが中止となつたため、未定。 | － |
| 住民の水害リスクの認識向上を目的としたみずから守るプログラムによる支援や水防災フォーラムの開催 | 毎年実施 | 4 | － | － | － | － | － | － | － | － |
| 災害・避難カードによる避難行動の認識の徹底 | 引き続き実施 | 5 | － | － | － | － | － | － | － | － |
| ■別水系の庄内川の水位等に対する避難行動につながるリスク情報の周知 | | | | | | | | | | |
| 洪水予報文の改良 | 平成28年度 | 6 | － | － | － | － | － | － | － | － |
| リアルタイムの情報提供やブッシュ型の洪水予報等の情報発信 | 平成29年度から | 7 | － | － | － | － | － | － | － | － |
| CCTVカメラの情報の高度化、水位やカメラ画像等の情報の入手、活用方法の周知 | 平成28年度から | 8 | － | － | － | － | － | － | － | － |
| 県と共同で打ち立てる町村防災担当者向け「防災気象情報に関する講習会」等の実施 | 引き続き実施 | 9 | － | － | － | － | － | － | － | － |
| ■避難告白の発令が避難行動につながる取組 | | | | | | | | | | |
| ハザードマップの周知徹底(再掲) | 引き続き実施 | 10 | 随時 | 豊山町役場 | － | － | 豊山町 | HPへの掲載及び窓口での配布 | 継続して実施 | － |
| 小学生にも理解できる教材を用いた、防災教育の実施（再掲） | 毎年実施 | 11 (3) | 毎年6月頃 | 町内小学校 | 100人 | 町民、小学校区自主防災会、豊山町消防団、赤十字奉仕団等 | 豊山町 | 平成29年より、町内小学校で豊山町防災チャレンジキャンプを開催し、プログラムの一環として、児童向けの防災クイズ等を実施。 | 新型コロナウィルス感染症の影響により、防災チャレンジキャンプが中止となつたため、未定。 | － |
| 住民の水害リスクの認識向上を目的としたみずから守るプログラムによる支援や水防災フォーラムの開催(再掲) | 毎年実施 | 12 (4) | － | － | － | － | － | － | － | － |
| ■タイムラインの作成・実践 | | | | | | | | | | |
| 避難に着目したタイムラインの作成(未策定の市町) | 平成32年度まで | 13 | － | － | － | － | － | － | － | － |
| タイムラインを踏まえた訓練、試行運用の実施 | 平成28年度から(策定済みの市町から順次) | 14 | － | － | － | － | － | － | － | － |
| 内水、支川氾濫による浸水や地下空間への浸水、台風以外の削除による豪雨に対するタイムラインへの検討 | 平成28年度から | 15 | － | － | － | － | － | － | － | － |
| ●ソフト対策の主な取組 ②豪雨氾濫による被災の概要、避難時間の確保のための水防活動等の実施状況等に応急復旧活動に向けた取組 ■平成28年からの自治体や消防団等による豪雨水防活動等の把握、水防訓練の実施 | | | | | | | | | | |
| 住民や関係者等の理解・認識が高まる豪雨水防活動の把握の実施 | 毎年実施 | 16 | － | － | － | － | － | － | － | － |
| 水防活動の知識習得と技術力向上のため、水防訓練の実施や水防専門家を講師とした講習会を実施 | 毎年実施 | 17 | 毎年9月 | 豊山中学校 | 500人 | 町民、消防署、陸上自衛隊、警察署、豊山町消防団、企業等 | 豊山町 | 毎年9月に行われる豊山町総合防災訓練の一環として、堤防補強訓練を実施 | 新型コロナウィルス感染症の影響により、総合防災訓練が規模縮小となつたため、未定。 | － |
| 内水や支川氾濫による浸水も想定した水防活動の検討 | 平成28年度から | 18 | － | － | － | － | － | － | － | － |
| ■豪雨活動や水防活動等の実施等の検証 | | | | | | | | | | |
| 一部の地域で一定の成果を得ている大学生等の人材を促進する取組を行うなどの消防団(兼連水防団)の人員確保に努める。 | 引き続き実施 | 19 | 毎年1月 | エアポートウォーク名古屋・ピタゴラ名古屋空港店 | 100人 | 町民 | 豊山町消防団 | 消防団加入促進のため、加入募集のチラシ・啓発品の配布や車両展示等の啓発活動を実施。 | 継続して実施 | － |
| 豪雨への量水標の表示など水防活動時に必要な情報提供の活性化 | 平成28年度から | 20 | － | － | － | － | － | － | － | － |
| 出水時の水防活動、河川巡視、応急復旧活動に支障が出るおそれのある堤防道路の通行規制の検討 | 平成32年度まで | 21 | － | － | － | － | － | － | － | － |
| 土のう構えなどの水防活動に必要となる資材の保管や作業場所、及び災害復旧活動の拠点となる防災拠点の整備(ハイヤー整備) | 平成32年度まで | 22 | － | － | － | － | － | － | － | － |
| 豪雨水防箇所に対応する寄りの水防倉庫や資材保管場所、アクセス道路の関係者間での情報共有 | 平成29年度から | 23 | － | － | － | － | － | － | － | － |
| ●ソフト対策の主な取組 ③一帯も早い生活機能及び社会経済活動の回復を可能とするための排水活動に関する取組 ■排水ポンプ車の設置計画の立案 | | | | | | | | | | |
| 氾濫発生時でも稼働可能な雨水ポンプ場の確認 | 平成28年度 | 24 | 毎年 | 排水機場 | － | － | 豊山町 | 排水機場管理者とともに施設の確認 | 継続して実施 | 町議員の排水機場施設の理解を深める必要がある。 |
| 排水ポンプ車、雨水ポンプ場による滞留する氾濫流の排水計画の立案 | 平成28年度から検討実施 | 25 | － | － | － | － | － | － | － | － |

「庄内川流域の減災に係る取組方針」概ね5年で実施する取組進捗状況(ソフト対策)

【機関名】大治町

様式-1

| 具体的な取組の柱 事項 | 実施期間 | 項目番号 | H28~R1までの代表的取組 | | | | | H28~R1までの取組状況 | R2の取組予定 | これまでの課題等 |
|---|---|-----------------------|----------------|-------------------------------|-----------------|-------|---------------------------------|---------------|---|---------------------------------------|
| | | | 実施年月日 | 実施場所 | 参加人数 | 参加機関 | 実施主体 | | | |
| ●ソフト対策の主な取組 ①入浴被着ゼロに関する住民の自主的な避難行動を促す取組 ■庄内川流域の避難行動にかかるリスク情報、避難場所や避難前にする準備の周知、住民の防災意識向上への取組 | | | | | | | | | | |
| 想定最大規模を含めた浸水想定区域図、浸水シミュレーション、家庭倒壊等氾濫想定区域図の公表 | 平成28年度出水期まで | 1 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | 想定最大規模降雨によるハザードマップ作成及び周知徹底 | 平成29年度~ | 2 | 令和2年3月 | | | 大治町 | 大治町 | ・ハザードマップを刷新し、想定最大規模浸水想定区域図を含むものを令和元年度に作成した。 | ・作成了ハザードマップを活用し、防災訓練・地区集会等で啓発 |
| | 小学生にも理解できる教材を用いた、防災教育の実施 | 毎年実施 | 3 | 未実施 | | | | | ・未実施 | ・無し |
| | 住民の水害リスクの認識向上を目的としたみずから守るプログラムによる支援や水防災フォーラムの開催 | 毎年実施 | 4 | 令和元年7月13日 令和元年8月10日 | 大治町内 (花常集会場) | 43人 | NPO法人防災津島の会 | 花常地区自主防災会 | ・既述のとおり | ・未定 |
| | 災害・避難カードによる避難行動の認識の徹底 | 引き続き実施 | 5 | 令和2年3月 | | | 大治町 | 大治町 | ・新規のハザードマップを活用してのロードマップを作成したほか、連絡先・避難場所・マイタイムラインを記入できるページを設けた。 | ・作成了ハザードマップを活用し、防災訓練・地区集会等で啓発 |
| ■洪水時における河川の水位等に関する避難行動につながるリスク情報の周知 | | | | | | | | | | |
| 洪水予報文の改良 | 平成28年度 | 6 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | リアルタイムの情報提供やブッシュ型の洪水予報等の情報発信 | 平成29年度から | 7 | | 登録者約2,000人 | | 大治町 | 大治町 | ・ハザードマップへ記載するための災害情報の項目に、指定河川洪水予報を設け、JRアーバンサービスへの登録を、防災訓練・地区集会等で啓発する。 | ・各河川洪水予報にて庄内川流域のブッシュ型配信方法の検討が必要 |
| | CCTVカメラの情報の高度化、水位やカメラ画像等の情報の入手、活用方法の周知 | 平成28年度から | 8 | - | - | - | - | - | - | - |
| | 県と共同で行う市町村防災担当者向け「防災気象情報に関する講習会」等の実施 | 引き続き実施 | 9 | - | - | - | - | - | - | - |
| ■防災活動等の進め方についての取組 | | | | | | | | | | |
| ハザードマップの周知徹底(再掲) | 引き続き実施 | 10 | 令和2年3月 | | | | 大治町 | 大治町 | ・ハザードマップを刷新し、想定最大規模浸水想定区域図を含むものを令和元年度に作成した。 | ・作成了ハザードマップを活用し、防災訓練・地区集会等で啓発 |
| | 小学生にも理解できる教材を用いた、防災教育の実施(再掲) | 毎年実施 | 11 (3) | 未実施 | | | | | ・未実施 | ・無し |
| | 住民の水害リスクの認識向上を目的としたみずから守るプログラムによる支援や水防災フォーラムの開催(再掲) | 毎年実施 | 12 (4) | 令和元年7月13日 令和元年8月10日 | 大治町内 (花常集会場) | 43人 | NPO法人防災津島の会 | 花常地区自主防災会 | ・既述のとおり | ・未定 |
| ■タイムラインの作成・実践 | | | | | | | | | | |
| 避難に着目したタイムラインの作成(未策定の市町) | 平成32年度まで | 13 | 平成30年5月 | | | | 大治町 | 大治町 | ・平成30年5月作成 | ・実態に即した見直し |
| | タイムラインを踏まえた訓練、試行運用の実施 | 平成28年度から(東京済みの市町から順次) | 14 | 令和元年1月台風0 令和元年10月台風 15号 | 大治町内 | | 大治町 | 大治町 | ・台風等接近前にタイムライン運用 | ・経験運用 |
| | 内水、川辺氾濫による浸水や地下空間への浸水、台風以外の前兆による豪雨等に対するタイムラインへの改訂 | 平成28年度から | 15 | | | | 大治町 | 大治町 | ・台風タイムラインを豪雨時にも活用した。・豪雨等に対応したタイムライン作成の検討 | ・事前対応が困難なゲリラ豪雨への対応 |
| ●ソフト対策の主な取組 ②漏水対策による浸水の把握、避難時間の確保のための水防活動や応急復旧活動に関する取組 ■庄内川流域の漏水対策による浸水把握や漏水箇所等の把握、水防訓練の実施 | | | | | | | | | | |
| 住民・関係者の理解・認識が高まる重要な水防箇所の巡回の実施 | 毎年実施 | 16 | 未実施 | | | | | | ・未実施 | ・未定 |
| | 水防活動の知識習得と技術力向上のため、水防訓練の実施や水専門家等による講師による講習会実施 | 毎年実施 | 17 | 令和元年8月18日 | 大治町内 (大治中学校) | 約200人 | 大治町、住民、町議会議員、町消防団、陸上自衛隊第35普通科連隊 | 大治町 | ・総合防災訓練のほか、出水期前に町職員に対する工のうえ訓練を実施 | ・総合防災訓練における水防訓練の実施 ・主な防災組織主催訓練での指導 |
| | 内水・支川氾濫による浸水も想定した水防活動の検討 | 平成28年度から | 18 | 未実施 | | | | | ・未実施 | ・浸水実験等から浸水頻発地域の把握 ・具体的な水防活動が不明 |
| ■水防活動や応急復旧活動の実施体制等の整備 | | | | | | | | | | |
| 一部の地域で一定の成果を得ている大学生等の入団を促進する取組を行うなどの消防団(兼任水防団)の人員確保に努める。 構造への量水標の表示など水防活動時に必要な情報提供の強化 | 引き続き実施 | 19 | 令和2年1月12日 | 大治町内 (町スポーツセンター) | | | 町消防団 | 町消防団 | ・成人式で啓発を実施した。 | ・新型コロナウイルス感染症防止のため不明 |
| | 出水時に水防活動、河川巡視、応急復旧活動に支障が出るおそれのある保防組織の巡回規制の検討 | 平成32年度まで | 21 | 未実施 | | | | | ・未実施 | ・未定 |
| | 土のう桿などの水防活動に必要な資材の保管や作業場所、及び災害復旧活動の拠点となる防災拠点の整備(ハザード整備) | 平成32年度まで | 22 | 未実施 | | | | | ・未実施 | ・無し |
| | 重慶水防箇所に対応する農地の水防構造や資材保管場所、アカシズ道路の関係者間での情報共有 | 平成29年度から | 23 | 未実施 | | | | | ・未実施 | ・未定 |
| | 河川沿いの排水計画の立案 | | | | | | | | ・河川の位置をハザードマップで周知済み | |
| ●ソフト対策の主な取組 ③「新たな生活再建及び社会経済活動の回復を可能とするための水防活動に関する取組 ■河川流の排水計画の立案 | | | | | | | | | | |
| 氾濫発生時でも稼働可能な雨水ポンプ場の確認 | 平成28年度 | 24 | 未実施 | | | | | | ・未実施 | ・未定 |
| | 排水ポンプ車、雨水ポンプ場による滞留する氾濫流の排水計画の立案 | 平成28年度から検討実施 | 25 | 未実施 | | | | | ・未実施 | ・未定 |

「庄内川流域の減災に係る取組方針」概ね5年で実施する取組進捗状況(ソフト対策)

【機関名】 蟹江町

様式-1

| 具体的な取組の柱 事項 | 実施期間 | 項目番号 | H28～R1までの代表的取組 | | | | | H28～R1までの取組状況 | R2の取組予定 | これまでの課題等 |
|--|--|-----------------------|----------------|----------------------|-------|---|--|---|------------------------------------|----------|
| | | | 実施年月日 | 実施場所 | 参加人数 | 参加機関 | 実施主体 | | | |
| ●ソフト対策の主な取組 ①人命被害ゼロに向むけた住民の自主的な避難行動を促す取組 ■平成時からの避難行動につながるリスク情報、実施場所や頻度に関する情報の周知、住民の防災意識向上へのための取組 | | | | | | | | | | |
| 想定最大規模も含めた浸水想定区域図、浸水シミュレーション、家庭倒壊等氾濫想定区域の公表 | 平成28年度出水期まで | 1 | | | | | | | | |
| | 想定最大規模降雨におけるハザードマップ作成及び周知徹底 | 平成29年度～ | 2 | 令和2年3月 蟹江町 | 全町民 | 町内全世帯 | 蟹江町 | 蟹江町に影響する庄内川の想定の更新がなされたため、令和元年度にハザードマップを更新し、全世界に配布した。 | 引き続き防災学習会等を通じて周知徹底を図る。 | |
| | 小学生にも理解できる教材を用いた、防災教育の実施 | 毎年実施 | 3 | 令和元年10月25日 蟹江町立舟入小学校 | 26名 | 舟入小5、6年生 | かにえ防災減災の会 | 舟入小学校5、6年生に対して毎年実施 | 舟入小学校5、6年生に対して実施予定 | |
| | 住民の水害リスクの認識向上を目的としたみずから守るプログラムによる支援や水防災フォーラムの開催 | 毎年実施 | 4 | 令和元年11月24日 蟹江町公民館分館 | 約200名 | 町内会役員を主体とした一般住民 | かにえ防災減災の会 | かにえ防災減災の会 | | |
| | 災害・避難カードによる避難行動の認識の徹底 | 引き続き実施 | 5 | | | | | | | |
| ■洪水時の河川の水位等に関する避難行動につながるリスク情報の周知 | | | | | | | | | | |
| 洪水予報文の改良 | 平成28年度 | 6 | | | | | | | | |
| | リアルタイムの情報提供やブッシュ型の洪水予報等の情報発信 | 平成29年度から | 7 | 令和2年3月 蟹江町 | 全町民 | 蟹江町全世界 | 蟹江町 | 新たに更新した第3回目の庄内川のハザードマップについて、第一回を統一して、防災情報アプリ、各種啓発のQRコードを複数、積極的に情報取得を推進している。 | 引き続き防災学習会等を通じて周知徹底を図る。 | |
| | CCTV(カメラ)の情報の高度化、水位やカメラ画像等の情報の入手、活用方法の周知 | 平成28年度から | 8 | | | | | | | |
| | 県と共同で行う市町村防災担当者向け「防災気象情報に関する講習会」等の実施 | 引き続き実施 | 9 | | | | | | | |
| ■避難行動の発令が避難行動につながる取組 | | | | | | | | | | |
| ハザードマップの周知徹底(再掲) | 引き続き実施 | 10 | 令和2年3月 蟹江町 | 全町民 | 町内全世帯 | 蟹江町 | 蟹江町に影響する庄内川の想定の更新がなされたため、令和元年度にハザードマップを更新し、全世界に配布した。 | 引き続き防災学習会等を通じて周知徹底を図る。 | | |
| | 小学生にも理解できる教材を用いた、防災教育の実施(再掲) | 毎年実施 | 11(3) | 令和元年10月25日 蟹江町立舟入小学校 | 26名 | 舟入小5、6年生 | かにえ防災減災の会 | 舟入小学校5、6年生に対して毎年実施 | 舟入小学校5、6年生に対して実施予定 | |
| | 住民の水害リスクの認識向上を目的としたみずから守るプログラムによる支援や水防災フォーラムの開催(再掲) | 毎年実施 | 12(4) | 令和元年11月24日 蟹江町公民館分館 | 約200名 | 町内会役員を主体とした一般住民 | かにえ防災減災の会 | かにえ防災減災の会 | | |
| ■タイムラインの作成・実践 | | | | | | | | | | |
| 避難に着目したタイムラインの作成(未策定の市町) | 平成32年度まで | 13 | | | | | | | | |
| | タイムラインを踏まえた訓練、試行運用の実施 | 平成28年度から(策定済みの市町から順次) | 14 | 毎年必要な修正を検討・実施 | | | 蟹江町 | タイムラインを含む「避難動作等の判断・伝達マニュアル」の見直しを実施 | タイムラインを含む「避難動作等の判断・伝達マニュアル」の見直しを実施 | |
| | 内水、支川氾濫による浸水や地下空間への浸水、台風以外の前兆による豪雨等に対するタイムラインへの改訂 | 平成28年度から | 15 | 毎年必要な修正を検討・実施 | | | 蟹江町 | タイムラインを含む「避難動作等の判断・伝達マニュアル」の見直しを実施 | タイムラインを含む「避難動作等の判断・伝達マニュアル」の見直しを実施 | |
| ●ソフト対策の主な取組 ②水害復旧による資源の確保、避難時間のための水害通報や豪雨復旧活動に関する取組 ■平成時からの自治体や消防団等関係者による重点水防災箇所等の把握、水防災訓練の実施 | | | | | | | | | | |
| 住民・関係者等の理解・認識が高まる重要な水防災箇所の巡回の実施 | 毎年実施 | 16 | | | | | | | | |
| | 水防災活動の知識獲得と技術力向上のため、水防訓練の実施や水防専門家を講師とした講習会を実施 | 毎年実施 | 17 | 令和元年6月9日 木曾三川公園東海広場 | 約800名 | 愛知県、愛知県警察、海部地区7市町村、消防本部・消防署、消防団、自衛隊、その他 | 海部地方防災連絡会議 | 毎年出水期前に実施 | 新コロナウイルス感染症の影響により取り止め | |
| | 内水・支川氾濫による浸水も想定した水防活動の検討 | 平成28年度から | 18 | | | | | | | |
| ■水防活動や応急復旧活動の実施体制等の整備 | | | | | | | | | | |
| 一部の地域で一定の成果を得ている大学生等の入浴を促進する取組を行うなどの消防団(兼任水防団)の人員確保に努める。 | 引き続き実施 | 19 | | | | | | 団体体験参加大学生に対して紹介・勧誘を実施 | 団体体験参加大学生に対して紹介・勧誘を実施 | |
| | 横堀への量水標の表示など水防活動時に必要な情報提供の強化 | 平成28年度から | 20 | | | | | | | |
| | 出水時に水防活動、河川巡視、応急復旧活動に支障が出るおそれのある堤防道路の通行規制の検討 | 平成32年度まで | 21 | | | | | | | |
| | 土のう棒などの水防活動に必要な資材の保管や作業場所、及び災害復旧活動の拠点となる防災拠点の整備(ハート整備) | 平成32年度まで | 22 | 毎年度 蟹江町防災倉庫 | | | 海部地区水防事務組合 | 資機材整備 | 資機材整備 新たな資機材の購入 | |
| | 重要水防箇所に対応する最寄りの水防倉庫や資材保管場所、アセキ道筋の関係者間での情報共有 | 平成29年度から | 23 | | | | | | | |
| ●ソフト対策の主な取組 ③「安心・安全な生活環境及び社会経済活動の回復を可能とするための排水活動に関する取組 ■沿岸流の堆積計画の立案 | | | | | | | | | | |
| 氾濫発生時でも稼働可能な雨水ポンプ場の確認 | 平成28年度 | 24 | | | | | | | | |
| | 排水ポンプ車、雨水ポンプ場による滞留する氾濫流の排水計画の立案 | 平成28年度から検討実施 | 25 | | | | | | | |

「庄内川流域の減災に係る取組方針」概ね5年で実施する取組進捗状況(ソフト対策)

【機関名】 岐阜県県土整備部河川課

様式-1

| 具体的な取組の柱 事 項 | 実施期間 | 項目 番号 | H28~R1までの代表的取組 | | | | | H28~R1までの取組状況 | R2の取組予定 | これまでの課題等 |
|---|-----------------------|-----------|----------------|------------|---------|--------------------------|-------------------|---|---------|--------------|
| | | | 実施年月日 | 実施場所 | 参加人数 | 参加機関 | 実施主体 | | | |
| ●ソフト対策の柱① (ひらく)ゼビオ(ほほえむ) (ひらく) (ひらく) | | | | | | | | | | |
| ■常時からの避難行動計画についてリスク情報を、避難場所や経路に関する情報の周知、住民の防災意識向上上のための取組 | | | | | | | | | | |
| 想定最大規模を含むに渡る想定図、浸水シミュレーション、家庭防災等氾濫警戒指定区域の公表 | 平成28年度出水期まで | 1 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 想定最大規模路線の浸水想定区域におけるハザードマップ作成及び周知徹底 | 平成29年度~ | 2 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 小学生にも理解できる教材を用いた、防災教育の実施 | 毎年実施 | 3 | 令和元年5月17日 | 多治見市立蒲原小学校 | 2年生104人 | 多治見市土岐川觀察館 (多治見土木事務所) | 岐阜県 (多治見土木事務所) | ・多治見市、土岐市、瑞浪市、恵那市内の小学生を対象に過去の洪水写真等を使用し、水害の危険性や堤防の役割を説明。 ・バーチャルで使用した川の水質検査とカワカラオナンギングを通して、川の水質を総合的に評価。 | 継続して実施 | 特になし |
| 住民の水害リスクの認識向上を目的としたみずから守るプログラムによる支援や水防災フォーラムの開催 | 毎年実施 | 4 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 災害・避難カードによる避難行動の認識の徹底 | 引き続き実施 | 5 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| ■洪水時の河川の水位等に関する避難行動計画についてのリスク降低の実施 | | | | | | | | | | |
| 洪水予報文の収集 | 平成28年度 | 6 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| リアルタイムの情報提供やプッシュ型の洪水予報等の情報発信 | 平成29年度から | 7 | | | | | | ・メール登録者に対して、「ざら川」と他のアラームメールによる防災情報等一斉配信。 ・『岐阜県川の防災情報』にて雨量、河川水位、水温等の監視情報を発信。 ・平成30年度に『岐阜県川の防災情報』のリニューアルを行い、画面の現況表示や操作性が向上。 | 継続して実施 | メール未登録者の登録促進 |
| CCTVカメラの情報の高度化、水位やカメラ画像等の情報の入手、活用方法の周知 | 平成28年度から | 8 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 県と共同で行う市町村防災担当者向け「防災気象情報に関する講習会」の実施 | 引き続き実施 | 9 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| ■避難行動計画の充実が避難行動計画につながる取組 | | | | | | | | | | |
| ハザードマップの周知徹底(再掲) | 引き続き実施 | 10 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 小学生にも理解できる教材を用いた、防災教育の実施(再掲) | 毎年実施 | 11 (3) | 令和元年5月17日 | 多治見市立蒲原小学校 | 2年生104人 | 多治見市土岐川觀察館 (多治見土木事務所) | 岐阜県 (多治見土木事務所) | ・多治見市、土岐市、瑞浪市、恵那市内の小学生を対象に過去の洪水写真等を使用し、水害の危険性や堤防の役割を説明。 ・バーチャルで使用した川の水質検査とカワカラオナンギングを通して、川の水質を総合的に評価。 | 継続して実施 | 特になし |
| (住民の水害リスクの認識向上を目的としたみずから守るプログラムによる支援や水防災フォーラムの開催(再掲)) | 毎年実施 | 12 (4) | - | - | - | - | - | - | - | - |
| ■タイムラインの作成・実施 | | | | | | | | | | |
| 福澤に着目したタイムラインの作成(木賀瀬市(市町)) | 平成22年度まで | 13 | | | | | | | | |
| タイムラインを踏まえた訓練、試し運用の実施 | 平成28年度から(認定済みの市町から順次) | 14 | | | | | | | | |
| 内水、支川氾濫による渋水や地下空間への渋水、台風以外の前兆による渋水等に対するタイムラインの作成 | 平成28年度から | 15 | | | | | | | | |
| ●ソフト対策の柱② 洪水対応による避難の実施、避難面の充実のため水防災活動や豪雨警戒面に係る取組 | | | | | | | | | | |
| ■常時からの管理体制や防災訓練等の実施 | | | | | | | | | | |
| 住民や関係者の等の管理体制や防災訓練等の実施 | 毎年実施 | 16 | 令和元年5月24日 | 土岐川(瑞浪市内) | 5人 | 瑞浪消防団 | 岐阜県 (多治見土木事務所) | ・水防管理団体との合同避難訓練を実施し、出水期前までに合同宿泊を実施。 | 継続して実施 | 特になし |
| 水防活動の秘訣得得と技術力向上のため、水防訓練の実施や水防専門家を講師とした講習会を実施 | 毎年実施 | 17 | 令和元年6月7日 | | | | 岐阜県 | ・出水期前に豪雨災害時の情報伝達訓練を実施。 | 継続して実施 | 特になし |
| 内水や支川氾濫による渋水も想定した水防活動の検討 | 平成28年度から | 18 | | | | | | | | |
| ■水防活動や豪雨対応活動の実施体制等の整備 | | | | | | | | | | |
| 一部の地域で一定の効果を有する大学生等の入団を促進するための活動(兼用水防団)の人員確保に努める。 | 引き続き実施 | 19 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 横渡への量水標の表示などを水防活動時に必要な情報提供の強化 | 平成28年度から | 20 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 出水時における水防活動、河川清掃、沿岸堆積活動に支障が出るおそれのある健保道路の通行規制の検討 | 平成32年度まで | 21 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 土砂堆積などの水防活動に必要な資材の保管や作業場所、土砂堆積活動の発点となる防災拠点の整備(ハイジ盤面) | 平成32年度まで | 22 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 豪雨要水防災所に対応する養蓄りの水防適度や資材保管場所、アクセス路の開拓や荷物の搬入搬出 | 平成29年度から | 23 | | | | | | | | |
| ●ソフト対策の柱③ 一層高い生活機能及び社会経済活動の復旧を可能とするための排水ポンプ等に関する取組 | | | | | | | | | | |
| ■豪雨の排水計画の立案 | | | | | | | | | | |
| 沿岸生息でも稼働可能な雨水ポンプの確認 | 平成28年度 | 24 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 排水ポンプ・雨水ポンプ場による滞留する沿岸流の排水計画の立案 | 平成28年度から後藤実施 | 25 | - | - | - | - | - | - | - | - |

「庄内川流域の減災に係る取組方針」概ね5年で実施する取組進捗

【機関名】

岐阜県危機管理部防災課

様式-1

| 具体的な取組の柱 事項 | 実施期間 | 項目番号 | H28~R1までの代表的取組 | | | | | H28~R1までの取組状況 | R2の取組予定 | これまでの課題等 |
|--|--|-------------------------|----------------|--------|--------|---------|-------------------------|---------------|--------------------------------|--------------------------|
| | | | 実施年月日 | 実施場所 | 参加人数 | 参加機関 | 実施主体 | | | |
| ●ソフト対策の主な取組 ①人命被害ゼロに向けて住民の自立的・積極的・協働的活動による減災取組 ■庄内川流域からの避難行動に係るリスク情報、避難場所や避難前に該当する音源の周知、住民の防災意識向上へのための取組 | | | | | | | | | | |
| 想定最大規模を含めた浸水想定区域図、浸水シミュレーション、家庭倒壊等氾濫想定区域の公表 | 平成28年度出水期まで | 1 | | | | | | | | |
| | 想定最大規模降雨の浸水想定区域におけるハザードマップ作成及び周知徹底 | 平成29年度~ | 2 | | | | | | | |
| | 小学生にも理解できる教材を用いた、防災教育の実施 | 毎年実施 | 3 | 毎年4月配布 | 県内各小学校 | 約17000人 | 岐阜県内国立・公立・私立の新小1年生 | 岐阜県危機管理部防災課 | 大垣共立銀行制作(岐阜県防災課協力)の防災小冊子で啓発を実施 | 継続して啓発予定 |
| | 住民の水害リスクの認識向上を目的としたみずから守るプログラムによる支援や水防災フォーラムの開催 | 毎年実施 | 4 | | | | | | | |
| | 災害・避難カードによる避難行動の認識の徹底 | 引き続き実施 | 5 | | | | | | | |
| ■洪水時河川の水位等に関する避難行動につながるリスク情報の周知 | | | | | | | | | | |
| 洪水予報文の改良 | 平成28年度 | 6 | | | | | | | | |
| | リアルタイムの情報提供やブッシュ型の洪水予報等の情報発信 | 平成29年度から | 7 | | | | | | | |
| | CCTVカメラの情報の高度化、水位やカメラ画像等の情報の入手、活用方法の周知 | 平成28年度から | 8 | | | | | | | |
| | 県と共同で行う市町村防災担当者向け「防災気象情報に関する講習会」等の実施 | 引き続き実施 | 9 | | | | | | | |
| ■訓練活動等の筋書きが既往行動につながる取組 | | | | | | | | | | |
| ハザードマップの周知徹底(再掲) | 引き続き実施 | 10 | | | | | | | | |
| | 小学生にも理解できる教材を用いた、防災教育の実施(再掲) | 毎年実施 | 11 (3) | 毎年4月配布 | 県内各小学校 | 約17000人 | 岐阜県内国立・公立・私立の新小1年生 | 岐阜県危機管理部防災課 | 大垣共立銀行制作(岐阜県防災課協力)の防災小冊子で啓発を実施 | 継続して啓発予定 |
| | 住民の水害リスクの認識向上を目的としたみずから守るプログラムによる支援や水防災フォーラムの開催(再掲) | 毎年実施 | 12 (4) | | | | | | | |
| ■タイムラインの作成・実践 | | | | | | | | | | |
| 避難に着目したタイムラインの作成(未策定の市町) | 平成32年度まで | 13 | | | | | | | | |
| | タイムラインを踏まえた訓練、試行運用の実施 | 平成28年度から(東京渋谷のみの市町から順次) | 14 | 毎年6月初旬 | 岐阜県庁ほか | 約300人 | 岐阜県内の農山村、河川事務所、電力事業者は多段 | 岐阜県危機管理部防災課 | 毎年6月初旬に関係機関と連携し、豪雨災害時の対応手順を訓練 | 情報連絡員の役割について、参加者間で相談があった |
| | 内水、支川氾濫による浸水や地下空間への浸水、台風以外の前兆による豪雨等に対応したタイムラインへの改訂 | 平成28年度から | 15 | | | | | | | |
| ●ソフト対策の主な取組 ②漏水対策による浸水の把握、避難時間のための水防活動や水害復旧活動に関する取組 ■庄内川流域からの自らはや消防同僚等住民による漏水防災隊等の把握、水防訓練の実施 | | | | | | | | | | |
| 住民ご関係者の理解・認識が高まる重要な水防箇所の巡回の実施 | 毎年実施 | 16 | | | | | | | | |
| | 水防活動の知識習得と技術力向上のため、水防訓練の実施や水防専門家を講師とした講習会を実施 | 毎年実施 | 17 | | | | | | | |
| | 内水・支川氾濫による浸水も想定した水防活動の検討 | 平成28年度から | 18 | | | | | | | |
| ■水防活動や急難復旧活動の実施体制等の整備 | | | | | | | | | | |
| 一部の地域で一定の成果を得ている大学生等の入団を促進する取組を行うなどの消防団(兼任水防団)の人員確保に努める。 | 引き続き実施 | 19 | | | | | | | | |
| | 構造への量水標の表示など水防活動時に必要な情報提供の強化 | 平成28年度から | 20 | | | | | | | |
| | 出水時に水防活動、河川巡視、応急復旧活動に支障が出るおそれのある堤防沿線の適行規制の検討 | 平成32年度まで | 21 | | | | | | | |
| | 土のう桿立てなどの水防活動に必要な資材の保管や作業場所、及び災害復旧活動の拠点となる防災拠点の整備(ハーダ整備) | 平成32年度まで | 22 | | | | | | | |
| | 重委水防箇所に対応する農地の水防倉庫や資材保管場所、アセス道路の関係者間での情報共有 | 平成29年度から | 23 | | | | | | | |
| ●ソフト対策の主な取組 ③「新しい生活再建及び社会復興活動の面接を可能とするための排水活動に関する取組 ■沿岸流の排水計画の立案 | | | | | | | | | | |
| 氾濫発生時でも稼働可能な雨水ポンプ場の確認 | 平成28年度 | 24 | | | | | | | | |
| | 排水ポンプ車、雨水ポンプ場による滞留する氾濫流の排水計画の立案 | 平成28年度から検討実施 | 25 | | | | | | | |

「庄内川流域の減災に係る取組方針」概ね5年で実施する取組進捗状況(ソフト対策)

【機関名】愛知県建設局河川課

様式-1

| 事項 | 取組内容 | 実施期間 | 項目番号 | H28～R1までの代表的取組 | | | | | H28～R1までの取組状況 | R2の取組予定 | これまでの課題等 | |
|--|---|-----------------------|-------|----------------|------------|------|--------------------------|------------------|--|--------------------|---|--|
| | | | | 実施年月日 | 実施場所 | 参加人数 | 参加機関 | 実施主体 | | | | |
| ●ソフト対策の主な取組：①八木被災者受け入れ市民の首領的な避難行動を促す取組 | | | | | | | | | | | | |
| | ■常時からの避難行動について(スクール避難場所や飲食店の開設情報の周知、住民の防災意識向上)のための取組 | | | | | | | | | | | |
| | 想定最大規模も含めた浸水想定区域図、浸水シミュレーション、家庭倒壊等危険区域の公表 | 平成28年度出水期まで | 1 | | | | | | | | | |
| | 想定最大規模降雨の浸水想定区域におけるハザードマップ作成及び周知徹底 | 平成29年度～ | 2 | | | | | | | | | |
| | 小学生にも理解できる教材を用いて、防災教育の実施 | 毎年実施 | 3 | 令和元年7月3日 | 名古屋市立陽明小学校 | 118名 | 名古屋市立陽明小学校5年生 | 愛知県建設局河川課 | ・名古屋市内の小学5年生を対象に過去の水害や洪水ハザードマップの学習を実施。 | ・今年度も引き続き実施見込(7月頃) | | |
| | 住民の水害リスクの認識向上を目的としたみずから守るプログラムによる支援や水防災フォーラムの開催 | 毎年実施 | 4 | 令和元年12月8日ほか | 清須市桃栄ほか | 約80名 | 新川第4ブロック自主防災会 および地域住民 | 清須市新川第4ブロック自主防災会 | ・災害避難カードを作成し、作成したカードを用いて避難判断ミニレーションを行う(大雨行動訓練(避難判断編)を実施。) | ・今年度も複数の地区で実施予定 | ・地域住民主体の取組のため、地域間で温度差がある。 ・新型コロナウイルス感染拡大のため。 | |
| | 災害・避難カードによる避難行動の認識の徹底 | 引き続き実施 | 5 | | | | | | | | | |
| ■洪水時の河川の水位等に関する避難行動につながるリスク情報の周知 | | | | | | | | | | | | |
| | 洪水予報文の改良 | 平成28年度 | 6 | | | | | | | | | |
| | リアルタイムの情報提供やブッシュ型の洪水予報等の情報発信 | 平成29年度から | 7 | | | | | | ・ツクニエメールサービスにより、登録ユーザーへ気象情報や河川水位情報を配信(平成24年度～) | | | |
| | CCTVカメラの情報の高度化、水位やカメラ画像等の情報の入手、活用方法の周知 | 平成28年度から | 8 | | | | | | | | | |
| | 県と共同で行う市町村防災担当者向け防災気象情報に関する講習会等の実施 | 引き続き実施 | 9 | | | | | | | | | |
| ■避難行動等の周知が避難行動につながる取組 | | | | | | | | | | | | |
| | ハザードマップの周知徹底(再掲) | 引き続き実施 | 10 | | | | | | | | | |
| | 小学生にも理解できる教材を用いて、防災教育の実施(再掲) | 毎年実施 | 11(3) | 令和元年7月3日 | 名古屋市立陽明小学校 | 118名 | 名古屋市立陽明小学校5年生 | 愛知県建設局河川課 | ・名古屋市内の小学5年生を対象に過去の水害や洪水ハザードマップの学習を実施。 | ・今年度も引き続き実施見込(7月頃) | | |
| | 住民の水害リスクの認識向上を目的としたみずから守るプログラムによる支援や水防災フォーラムの開催(再掲) | 毎年実施 | 12(4) | 令和元年12月8日ほか | 清須市桃栄ほか | 約80名 | 新川第4ブロック自主防災会 および地域住民 | 清須市新川第4ブロック自主防災会 | ・災害避難カードを作成し、作成したカードを用いて避難判断ミニレーションを行う(大雨行動訓練(避難判断編)を実施。) | ・今年度も複数の地区で実施予定 | ・地域住民主体の取組のため、地域間で温度差がある。 ・新型コロナウイルス感染拡大のため。 | |
| ■タイムラインの作成・実践 | | | | | | | | | | | | |
| | 避難に着目したタイムラインの作成(未実定の市町) | 平成32年度まで | 13 | 平成30年6月1日～ | | | | | ・県が管理する洪水予報河川(5河川)、水位照合河川(23河川)について、タイムラインを作成し、平成30年の出水期から連続を開始。 | | | |
| | タイムラインを踏まえた訓練、試行運用の実施 | 平成28年度から(策定済みの市町から該入) | 14 | | | | | | | | | |
| | 内水、支川氾濫による浸水や地下空間への浸水、台風以外の原因による豪雨等に対応したタイムラインへの改訂 | 平成28年度から | 15 | | | | | | | | | |
| ●ソフト対策の主な取組：②洪水危機による被害の軽減、避難時間の確保のための水防活動や必要な復旧活動に関する取組 | | | | | | | | | | | | |
| | ■平常時からの水防活動や消防防災訓練による重要水防箇所の把握、水防訓練の実施 | | | | | | | | | | | |
| | 住民や関係者等の理解・認識が高まる重要な水防箇所の巡視の実施 | 毎年実施 | 16 | | | | | | | | | |
| | 水防活動の知識習得と技術力向上のため、水防訓練の実施や水防等会議を構成員とした講習会を実施 | 毎年実施 | 17 | | | | | | | | | |
| | 内水や支川氾濫による浸水も想定した水防活動の検討 | 平成28年度から | 18 | | | | | | | | | |
| ■水防活動や応急復旧活動の実施体制等の整備 | | | | | | | | | | | | |
| | 一部の地域で一定の成果を得ている大学生等の入団を促進する取組を行うなどの消防団(兼任水防団)の人員確保に努める。 | 引き続き実施 | 19 | | | | | | | | | |
| | 橋梁への量水標の表示など水防活動時に必要な情報提供の強化 | 平成28年度から | 20 | | | | | | | | | |
| | 出水時に水防活動、河川巡視、応急復旧活動に支障が出るおそれのある堤防・道路の通行規制の検討 | 平成32年度まで | 21 | | | | | | | | | |
| | 土のう等えなどの水防活動に必要となる資材の保管や作業場所、及び災害復旧活動の拠点となる防災拠点の整備(ハート整備) | 平成32年度まで | 22 | | | | | | | | | |
| | 重要水防箇所に対応する農務りの水防倉庫や資材保管場所、アクセス道路の関係者間での情報共有 | 平成29年度から | 23 | | | | | | | | | |
| ●ソフト対策の主な取組：③調査・生活再建及び社会経済活動の復旧を可能とするための排水活用に関する取組 | | | | | | | | | | | | |
| | ■河川底流の浚渫計画の立案 | | | | | | | | | | | |
| | 氾濫発生時でも移動可能な雨水ポンプ場の確認 | 平成28年度 | 24 | | | | | | | | | |
| | 排水ポンプ車、雨水ポンプ場による滞留する氾濫流の排水計画の立案 | 平成28年度から検討実施 | 25 | | | | | | | | | |

「庄内川流域の減災に係る取組方針」概ね5年で実施する取組進捗状況(ソフト対策)

【機関名】 愛知県防災安全局防災部災害対策課

様式-1

| 事項 | 取組内容 | 実施期間 | 項目番号 | H28～R1までの代表的取組 | | | | | H28～R1までの取組状況 | R2の取組予定 | これまでの課題等 |
|--|--|-----------------------|-----------|----------------|-----------------------|------|------|------|---------------|---------|----------|
| | | | | 実施年月日 | 実施場所 | 参加人数 | 参加機関 | 実施主体 | | | |
| ●ソフト対策の主な取組 ①「庄内川流域における庄内川の自主的な避難行動を促す取組 | | | | | | | | | | | |
| ■平素時からの避難行動につながるリスク情報、避難場所や路線に関する情報の周知、住民の防災意識向上のための取組 | 想定最大規模も含めた浸水想定区域図、浸水シミュレーション、家庭倒壊等氾濫想定区域の公表 | 平成28年度出水期まで | 1 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| | 想定最大規模降雨の浸水想定区域におけるハザードマップ作成及び周知徹底 | 平成29年度～ | 2 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| | 小学生にも理解できる教材を用いた、防災教育の実施 | 毎年実施 | 3 | | 実施主体となる取り組みは実施できておりませ | | | | | | |
| | 住民の水害リスクの認識向上を目的としたみずから守るプログラムによる支援や水防災フォーラムの開催 | 毎年実施 | 4 | | | | | | | | |
| | 災害・避難カードによる避難行動の認識の徹底 | 引き続き実施 | 5 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| ■洪水時の河川の水位等に関する避難行動につながるリスク情報の周知 | | | | | | | | | | | |
| ■河川水位等の発信等の周知徹底(再掲) | 洪水予報文の改良 | 平成28年度 | 6 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| | リアルタイムの情報提供やブッシュ型の洪水予報等の情報発信 | 平成29年度から | 7 | | | | | | | | |
| | CCTVカメラの情報の高度化、水位やカメラ画像等の情報の入手、活用方法の周知 | 平成28年度から | 8 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| | 県と共同で行う市町村防災担当者向け「防災気象情報に関する講習会」等の実施 | 引き続き実施 | 9 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| ■消防署等の発令が避難行動につながる取組 | | | | | | | | | | | |
| ■ハザードマップの周知徹底(再掲) | ハザードマップの周知徹底(再掲) | 引き続き実施 | 10 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| | 小学生にも理解できる教材を用いた、防災教育の実施(再掲) | 毎年実施 | 11 (3) | | | | | | | | |
| | 住民の水害リスクの認識向上を目的としたみずから守るプログラムによる支援や水防災フォーラムの開催(再掲) | 毎年実施 | 12 (4) | | | | | | | | |
| ■タイムラインの作成・実践 | | | | | | | | | | | |
| ■河川氾濫による浸水や地下空間への浸水、台風以外の前兆による豪雨等に対応したタイムラインへの改訂 | 避難に着目したタイムラインの作成(未策定の市町) | 平成32年度まで | 13 | | | | | | | | |
| | タイムラインを踏まえた訓練、試行運用の実施 | 平成28年度から(未定済みの市町から順次) | 14 | | | | | | | | |
| | 内水、支川氾濫による浸水や地下空間への浸水、台風以外の前兆による豪雨等に対応したタイムラインへの改訂 | 平成28年度から | 15 | | | | | | | | |
| ●ソフト対策の主な取組 ②「庄内川流域における水防活動や災害復旧活動に関する取組 | | | | | | | | | | | |
| ■常時からの自衛体や消防団等による重要水防箇所の巡回の実施 | 住民・関係者等の理解・認識が高まる重要な重要水防箇所の巡回の実施 | 毎年実施 | 16 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| | 水防活動の知識習得と技術力向上のため、水防訓練の実施や水防専門家を講師とした演習会を実施 | 毎年実施 | 17 | | | | | | | | |
| | 内水・支川氾濫による浸水も想定した水防活動の検討 | 平成28年度から | 18 | | | | | | | | |
| ■水防活動や応急復旧活動の実施体制等の整備 | | | | | | | | | | | |
| ■河川氾濫による避難行動の立派 | 一部の地域で一定の成果を得ている大学生等の入浴を促進する取組を行うなどの消防団(兼任水防団)の人員確保に努める。 | 引き続き実施 | 19 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| | 積雪への量水標の表示など水防活動時に必要な情報提供の強化 | 平成28年度から | 20 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| | 出水時に水防活動、河川巡視、応急復旧活動に支障が出るおそれのある堤防沿線の避行規制の検討 | 平成32年度まで | 21 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| | 土のう棒などの水防活動に必要な資材の保管や作業場所、及び災害復旧活動の拠点となる防災拠点の整備(ハード整備) | 平成32年度まで | 22 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| | 重要水防箇所に対応する農地の水防倉庫や資材保管場所、アセス道路の関係者間での情報共有 | 平成29年度から | 23 | | | | | | | | |
| ●ソフト対策の主な取組 ③「現地で生活機能及び社会機能の回復を可能とするための排水活動に関する取組 | | | | | | | | | | | |
| ■氾濫流の排水計画の立案 | 氾濫発生時でも稼働可能な雨水ポンプ場の確認 | 平成28年度 | 24 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| | 雨水ポンプ車、雨水ポンプ場による滞留する氾濫流の排水計画の立案 | 平成28年度から検討実施 | 25 | — | — | — | — | — | — | — | — |

「庄内川流域の減災に係る取組方針」概ね5年で実施する取組進捗状況(ソフト対策)

名古屋地方気象台

様式-1

| 具体的な取組の柱 事項 | 実施期間 | 項目番号 | H28～R1までの代表的取組 | | | | | H28～R1までの取組状況 | R2の取組予定 | これまでの課題等 |
|--|-----------------------|-----------|-----------------------------------|------------------------------------|-----------|-------------------|--|--|--|----------|
| | | | 実施年月日 | 実施場所 | 参加人数 | 参加機関 | 実施主体 | | | |
| ●ソフト対策の主な取組 ①人命被害ゼロに向けて住民の自立的な避難行動を促す取組 ■庄内川流域の避難行動に係るリスク評価、避難場所や避難前に係る情報の周知、住民の防災意識向上のための取組 | | | | | | | | | | |
| 想定最大規模七合ため浸水想定区域図、浸水シミュレーション、家庭倒壊等氾濫想定区域の公表 | 平成28年度出水期まで | 1 | | | | | | | | |
| 想定最大規模降雨による浸水想定区域におけるハザードマップ作成及び周知徹底 | 平成29年度～ | 2 | | | | | | | | |
| 小学生にも理解できる教材を用いた、防災教育の実施 | 毎年実施 | 3 | | | | | | 土愛知県支部・名古屋市愛知県支部と協力して小学校高学年から中学生向けの防災学習資料を作成 | 学校防災教育を支援するため日本赤十字社愛知県支部と連携し、学校防災支援教材への資料提供などを行う | |
| 住民の水害リスクの認識向上を目的としたみずから守るプログラムによる支援や水防災フォーラムの開催 | 毎年実施 | 4 | | | | | | | | |
| 災害・避難カードによる避難行動の認識の徹底 | 引き続き実施 | 5 | | | | | | | | |
| ■洪水時河川の水位等に関する避難行動につながるリスク情報の周知 | | | | | | | | | | |
| 洪水予報文の改良 | 平成28年度 | 6 | 2019/5/28 | | | | | 庄内川河川事務所・名古屋地方気象台 | 指定河川洪水予報の見出しと本文に該当する「警戒レベル相当情報を記述するよう実現 | |
| リアルタイムの情報提供やブッシュ型の洪水予報等の情報発信 | 平成29年度から | 7 | 2019/7/10 | | | | | 庄内川河川事務所・名古屋地方気象台(気象庁・三河総合防災センター)にて、危険度が高くなる場合にメールやスマホアプリで通知するサービスを民間事業者を通じて実施 | | |
| CCTVカメラの情報の高度化、水位やカメラ画像等の情報の入手、活用方法の周知 | 平成28年度から | 8 | | | | | | | | |
| 県と共同で行う市町村防災担当者向け「防災気象情報に関する講習会」等の実施 | 引き続き実施 | 9 | 2019/6/25 2019/10/31,2019/11/7 | 名古屋市天守滅災館・愛知県三河総合防災センター・KIRIホール名古屋 | 各30～40名程度 | 市町村防災・水防担当者 | 県・名古屋地方気象台研修(6/25)・愛知県水防研修会(10/7)・愛知県からの依頼等に応じて例年同様に協力 | | | |
| ■訓練啓発等の発芽が避難行動につながる取組 | | | | | | | | | | |
| ハザードマップの周知徹底(再掲) | 引き続き実施 | 10 | | | | | | | | |
| 小学生にも理解できる教材を用いた、防災教育の実施(再掲) | 毎年実施 | 11 (3) | | | | | | 土愛知県支部・名古屋市愛知県支部と協力して小学校高学年から中学生向けの防災学習資料を作成 | 学校防災教育を支援するため日本赤十字社愛知県支部と連携し、学校防災支援教材への資料提供などを行う | |
| 住民の水害リスクの認識向上を目的としたみずから守るプログラムによる支援や水防災フォーラムの開催(再掲) | 毎年実施 | 12 (4) | | | | | | | | |
| ■タイムラインの作成・実践 | | | | | | | | | | |
| 避難に着目したタイムラインの作成(未策定の市町) | 平成32年度まで | 13 | | | | | | | 各体からの要望に応じてタイムライン作成に協力 | |
| タイムラインを踏まえた訓練、試行運用の実施 | 平成28年度から(東京済みの市町から順次) | 14 | | | | | | | 自治体からの要望に応じて訓練等に協力 | |
| 内水、支川氾濫による浸水や地下空間への浸水、台風以外の前兆による豪雨等に対するタイムラインへの改訂 | 平成28年度から | 15 | 2019/7/16, 2019/12/1 | 自治センター、名古屋市 | 各50名程度 | 事務所・名古屋地方気象台・名古屋市 | 豪雨を想定した名古屋駅地区の避難タイムラインやワークショップを通じた避難タイムラインの | | | |
| ●ソフト対策の主な取組 ②洪水氾濫による被災の把握、避難時間のための水防活動や被災復旧活動に関する取組 ■庄内川流域の自らほけや消防防災関係者による重点水防活動場所等の把握、水防訓練の実施 | | | | | | | | | | |
| 住民・関係者の理解・認識が高まる重点水防箇所の巡回の実施 | 毎年実施 | 16 | | | | | | | | |
| 水防活動の知識習得と技術力向上のため、水防訓練の実施や水防専門家を講師とした講習会を実施 | 毎年実施 | 17 | | | | | | | | |
| 内水・支川氾濫による浸水も想定した水防活動の検討 | 平成28年度から | 18 | | | | | | | | |
| ■水防活動や応急復旧活動の実施体制等の整備 | | | | | | | | | | |
| 一部の地域で一定の成果を得ている大学生等の入浴を促進する取組を行うなどの消防団(兼任水防団)の人員確保に努める。 | 引き続き実施 | 19 | | | | | | | | |
| 横瀬への量水標の表示など水防活動時に必要な情報提供の強化 | 平成28年度から | 20 | | | | | | | | |
| 出水時に水防活動、河川巡視、応急復旧活動に支障が出るおそれのある堤防沿線の避行規制の検討 | 平成32年度まで | 21 | | | | | | | | |
| 土のう桿などの水防活動に必要な資材の保管や作業場所、及び災害復旧活動の拠点となる防災拠点の整備(ハザード整備) | 平成32年度まで | 22 | | | | | | | | |
| 重姫水防箇所に対応する農地の水防倉庫や資材保管場所、アセチセ道路の関係者間での情報共有 | 平成29年度から | 23 | | | | | | | | |
| ●ソフト対策の主な取組 ③「新しい生活再建及び社会復興活動の面接を可能とするための排水活動に関する取組 ■沿岸流の排水計画の立案 | | | | | | | | | | |
| 氾濫発生時でも稼働可能な雨水ポンプ場の確認 | 平成28年度 | 24 | | | | | | | | |
| 排水ポンプ車、雨水ポンプ場による滞留する氾濫流の排水計画の立案 | 平成28年度から検討実施 | 25 | | | | | | | | |

「庄内川流域の減災に係る取組方針」概ね5年で実施する取組進捗状況(ソフト対策)

【機関名】 国土交通省 庄内川河川事務所

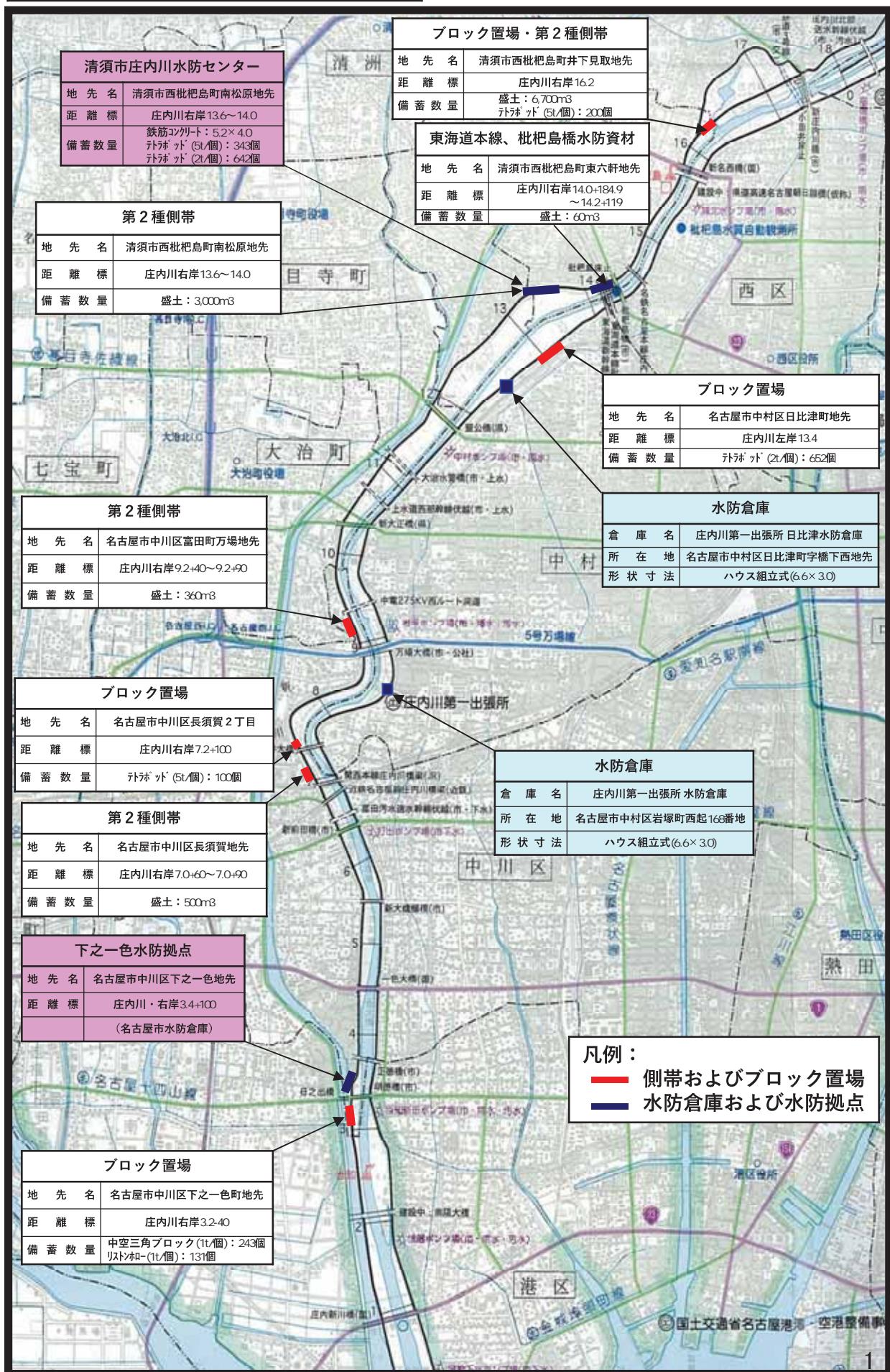
様式-1

| 具体的な取組の柱 事 項 | 実施期間 | 項目番号 | H28~R1までの代表的取組 | | | | | H28~R1までの取組状況 | R2の取組予定 | これまでの課題等 | | | | | |
|---|-------------|-------|----------------|------------------------|-------------|------------------------------|---|--|---|---|--------------------------|--|--|--|--|
| | | | 実施年月日 | 実施場所 | 参加人数 | 参加機関 | 実施主体 | | | | | | | | |
| ●ソフト対策の主な取組 ①人命被害ゼロに向けた住民の自主的な避難行動を促す取組 | | | | | | | | | | | | | | | |
| ■平常時からの避難行動につながるリスク情報、避難場所や経路に関する情報の周知、住民の防災意識向上のための取組 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 想定最大規模も含めた浸水想定区域図、浸水シミュレーション、家屋倒壊等氾濫想定区域の公表 | 平成28年度出水期まで | 1 | 平成28年12月15日告示 | | | | | 庄内川河川事務所 | ・想定最大規模も含めた浸水想定区域図、浸水シミュレーション、家屋倒壊等氾濫想定区域の公表 | ・市町における想定最大規模降雨の浸水想定区域におけるハザードマップ作成支援 | | | | | |
| | 平成29年度～ | 2 | — | — | — | — | — | — | — | — | | | | | |
| | 毎年実施 | 3 | 平成30年11月19日 | 多治見市精華小学校 多治見市昭和小学校 | 123名 54名 | 多治見市精華小学校6年生 多治見市昭和小学校6年生 | 庄内川河川事務所 | ・多治見市内の小学6年生を対象に災害対策車両の操作体験を実施 ・防災への関心をより高めていただきため、平成23年9月台風15号による浸水被害をうけた多治見市において実施。 | ・東海豪雨20年を踏まえた防災教育及び小学校への災害対策車操作体験 | ・教育委員会等へのPR | | | | | |
| | 毎年実施 | 4 | 平成28年11月29日 | 多治見市産業文化センター | 約180名 | 多治見市民、企業、行政の防災担当者など | 庄内川河川事務所 | ・住民の水害リスクの認識向上を目的としたみずから守るプログラムによる支援や水防災フォーラムの開催 ・パネルディスカッションでは、三重県結び町を例にした地域のタイムラインについて映像を交えて紹介され、行政主体のタイムラインだけではなく、地域住民で計画するコュニティ・タイムラインも大切であることが確認された | ・TG20フォーラム予定(9/11) ・TG20パネル展示 | ・コロナ対応により開催時期不確定 | | | | | |
| | 引き続き実施 | 5 | — | — | — | — | — | — | — | — | | | | | |
| ■洪水時の河川の水位等に関する避難行動につながるリスク情報の周知 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 洪水予報文の改良 | 平成28年度 | 6 | 令和元年5月28日 | | | | 木曽川上流河川事務所、木曽川下流河川事務所、庄内川河川事務所、豊橋河川事務所、愛知県、名古屋地方気象台 | 木曽川上流河川事務所、木曽川下流河川事務所、庄内川河川事務所、豊橋河川事務所、愛知県、名古屋地方気象台 | ・洪水予報文の改良 ・5段階の警戒レベルにより提供することで、住民等が情報の意味を直感的に理解可能となることが期待される | ・今年度、洪水予報文を庄内川と矢田川と分割してそれぞれで発表に分けて発表できるよう改良予定 | ・職員のシステム操作の習熟(短時間で発表のため) | | | | |
| | 平成29年度から | 7 | 平成30年4月3日 | | | | 庄内川河川事務所 | ・リアルタイムの情報提供やブッシュ型の洪水予報等の情報発信 ・メール配信は、携帯電話事業者が提供する緊急速報メールのサービスを活用して洪水情報を携帯電話ユーザーへ周知することで、住民の主体的な避難を促進することができる | ・今年度は、R2.6.14に多治見市水防訓練の中で「緊急速報メール」(ブッシュ型)にて訓練を実施予定 | ・訓練を実施するのにあたり、関係者への事前周知が相当大変 | | | | | |
| | 平成28年度から | 8 | | 庄内川沿川 | | | 庄内川河川事務所 | ・CCTVカメラの情報の高度化、水位やカメラ画像等の情報の入手、活用方法の周知 ・危機管理型水位計は、洪水時のみの水位観測に特化した低コストな機器で、従来は設置することが困難であった「洪水に対するリスクが高い箇所」などにも増設が可能となるなど、水位観測網を充実させることができ、避難行動につながるリスク情報をきめ細かく提供することが可能となる | ・今年度は、危機管理水位計を1箇所(鹿島橋:瀬戸市)にて設置予定 | ・危機管理水位計について、各自治体と運用水位等について確認する(合同巡回等で現地確認) | | | | | |
| | 引き続き実施 | 9 | — | — | — | — | — | — | — | — | | | | | |
| ■避難勧告等の発令が避難行動につながる取組 | | | | | | | | | | | | | | | |
| ハザードマップの周知徹底(再掲) | 引き続き実施 | 10 | — | — | — | — | — | — | — | — | | | | | |
| | 毎年実施 | 11(3) | 平成30年11月19日 | 多治見市精華小学校 多治見市昭和小学校 | 123名 54名 | 多治見市精華小学校6年生 多治見市昭和小学校6年生 | 庄内川河川事務所 | ・多治見市内の小学6年生を対象に災害対策車両の操作体験を実施 ・防災への関心をより高めていただきため、平成23年9月台風15号による浸水被害をうけた多治見市において実施。 | ・東海豪雨20年を踏まえた防災教育及び小学校への災害対策車操作体験 | ・教育委員会等へのPR | | | | | |

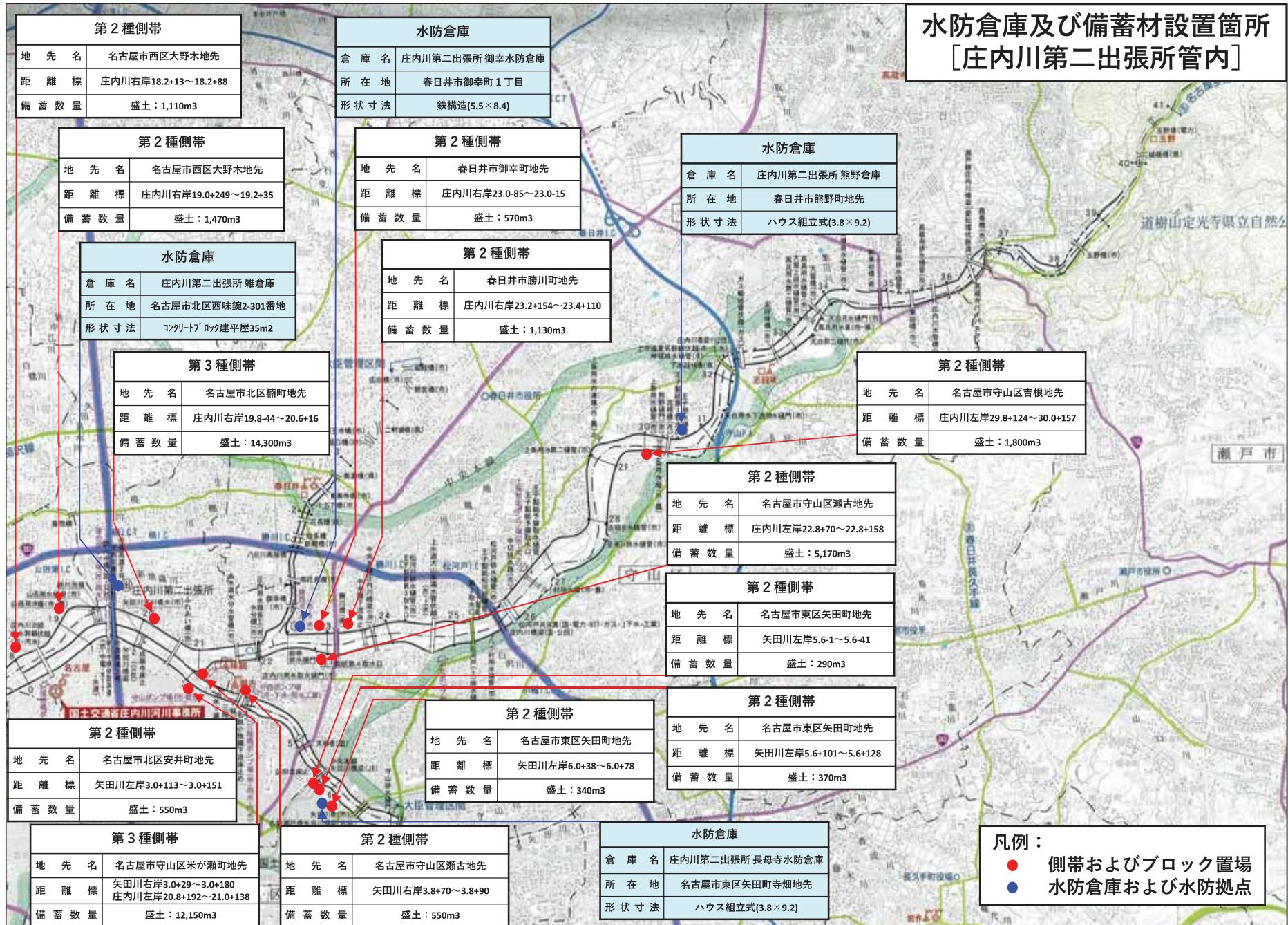
| | | | | | | | | | | | |
|--|---|-----------------------|-----------|------------------|---------------------------|-------|--------------------------|------------------|--|---|--------------------------------------|
| | 住民の水害リスクの認識向上を目的としたみずから守るプログラムによる支援や水防災フォーラムの開催(再掲) | 毎年実施 | 12 (4) | 平成28年11月29日 | 多治見市産業文化センター | 約180名 | 多治見市民、企業、行政の防災担当者など | 庄内川河川事務所 | ・住民の水害リスクの認識向上を目的としたみずから守るプログラムによる支援や水防災フォーラムの開催 ・パネルディスカッションでは、三重県紀宝町を例にどった地域のタイムラインについて映像を交えて紹介され、行政主体のタイムラインだけではなく、地域住民で計画するコミュニティタイムラインも大切であることが確認された | TG20フォーラム予定(9/11) TG20パネル展示 | ・コロナ対応により開催時期不確定 |
| ■タイムラインの作成・実践 | | | | | | | | | | | |
| ●ソフト対策の主な取組 ②洪水氾濫による被害の経済、避難時間の確保のための水防活動や応急復旧活動に関する取組 | 避難に着目したタイムラインの作成(未策定の市町) | 平成32年度まで | 13 | — | — | — | — | — | — | — | |
| | タイムラインを踏まえた訓練、試行運用の実施 | 平成28年度から(策定済みの市町から順次) | 14 | — | — | — | — | — | — | — | |
| | 内水、支川氾濫による浸水や地下空間への浸水、台風以外の前線による豪雨等に対応したタイムラインへの改訂 | 平成28年度から | 15 | — | — | — | — | — | — | — | |
| ■平常時からの自治体や消防団等関係者による重要水防箇所等の把握、水防訓練の実施 | | | | | | | | | | | |
| ●ソフト対策の主な取組 ③一刻も早い生活再建及び社会経済活動の回復を可能とするための排水活動に関する取組 | 住民や関係者等の理解・認識が高まる重要な重要水防箇所の巡視の実施 | 毎年実施 | 16 | 平成28年6月 | 庄内川、土岐川沿川市町 | | 岐阜県・愛知県と庄内川沿川市町の消防・防災担当者 | 庄内川河川事務所 | ・住民や関係者等の理解・認識が高まる重要な重要水防箇所の巡視の実施 ・合同巡視は、地域に住んでいる水防団等の皆さんを中心となって実施する水防活動などによって、洪水被害を未然に防止することを目標 | ・合同巡視を6月上旬に実施予定 | ・コロナ対応のため巡回方法について要検討 |
| | 水防活動の知識習得と技術力向上のため、水防訓練の実施や水防専門家を講師とした講習会を実施 | 毎年実施 | 17 | 平成30年7月 | 中部技術事務所 | | （社）庄内川灾害対策協力会 | 庄内川河川事務所 | ・庄内川河川事務所では、庄内川沿川における浸水などの災害に備え、災害対策車両を配備している。災害時における支援に関する協定を締結している一般社団法人庄内川灾害対策協力会の会員を対象に排水ポンプ車、照明車の操作訓練を実施 | ・今年度も災害対策車の操作訓練を実施予定 | ・災害対策車の操作の習熟 ・コロナ対応のため訓練方法について要検討 |
| | 内水や支川氾濫による浸水も想定した水防活動の検討 | 平成28年度から | 18 | — | — | — | — | — | — | — | |
| ■水防活動や応急復旧活動の実施体制等の整備 | | | | | | | | | | | |
| ●ソフト対策の主な取組 ③一刻も早い生活再建及び社会経済活動の回復を可能とするための排水活動に関する取組 | 一部の地域で一定の成果を得ている大学生等の入団を促進する取組を行うなどの消防団(兼任水防団)の人員確保に努める。 | 引き続き実施 | 19 | — | — | — | — | — | — | — | |
| | 橋梁への量水標の表示など水防活動時に必要な情報提供の強化 | 平成28年度から | 20 | H28年度 | 矢田川橋(6.4km) 宮前橋(7.0km) | | | 庄内川河川事務所 | ・河川の増水時等に沿川住民が水害の危機感を的確に把握し、確實に避難することが重要であるため、河川にかかる橋梁にカラー塗装し危機感を一目でわかるよう表示 ・主な水位観測所(5箇所)近くの橋梁(10箇所)にカラー塗装を実施(H28年度に2箇所追加) | ・橋梁への量水標表示は実施済み | |
| | 出水時に水防活動、河川巡視、応急復旧活動に支障が出るおそれのある堤防道路の通行規制の検討 | 平成32年度まで | 21 | — | — | — | — | — | — | — | |
| | 土のう堵えなどの水防活動に必要となる資材の保管や作業場所、及び災害復旧活動の拠点となる防災拠点の整備(ハード整備) | 平成32年度まで | 22 | 平成30年～ | 土岐川左岸 (多治見市) | | | 庄内川河川事務所 | ・水防活動に必要となる資材の保管や作業場所、災害復旧の拠点となる防災拠点の整備 ・躉之島防災拠点を整備中 | ・今後順次整備していく | |
| | 重要水防箇所に対応する最寄りの水防倉庫や資材保管場所、アクセス道路の関係者間での情報共有 | 平成29年度から | 23 | 令和元年8月 | 庄内川河川事務所 | | 名古屋市 | 庄内川河川事務所 名古屋市 | ・提言書(庄内川堤防道路検討会)平成20年3月に基づき名古屋市と意見交換を実施し、情報共有を図る(毎年度) ・継続して開催予定 | ・水防作業時に支障とならないよう庄内川の堤防道路を事前に通行止めの対処が課題 | |
| ■氾濫流の排除計画の立案 | | | | | | | | | | | |
| ●ソフト対策の主な取組 ③一刻も早い生活再建及び社会経済活動の回復を可能とするための排水活動に関する取組 | 氾濫発生時でも稼働可能な雨水ポンプ場の確認 | 平成28年度 | 24 | 平成30年3月～平成30年10月 | 庄内川下流域 | | | 庄内川河川事務所 | ・氾濫発生時でも稼働可能な雨水ポンプ場の確認 ・排水施設の管理者との協議等 | ・主要排水施設への燃料補給によって、浸水継続時間は大幅に低減できるため、排水施設の管理者との協議により、排水施設を継続運転するための取組を進める必要がある | |
| | 排水ポンプ車、雨水ポンプ場による滞留する氾濫流の排水計画の立案 | 平成28年度から検討実施 | 25 | 平成30年3月～平成30年10月 | 庄内川下流域 | | | 庄内川河川事務所 | ・排水ポンプ車、雨水ポンプ場による滞留する氾濫流の排水計画の立案 ・今年度は上流域を対象に排水ポンプ車、雨水ポンプ場による浸水被害軽減最小化の検討を行う予定 | ・排水シミュレーションが誰でも使えるよう訓練等が必要 | |

水防倉庫及び備蓄材設置箇所 [庄内川第一出張所管内]

資料3一別紙2



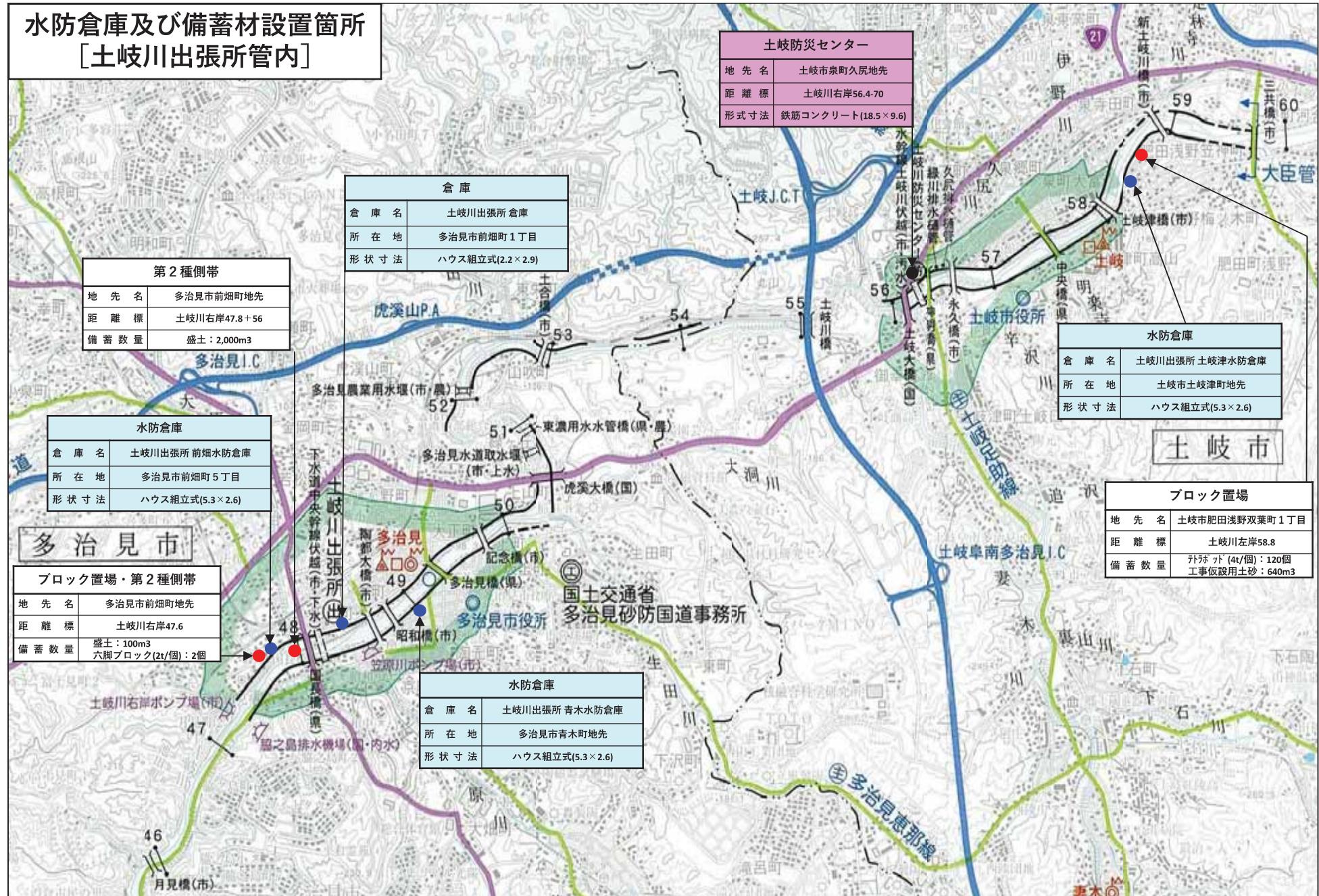
水防倉庫及び備蓄材設置箇所 [庄内川第二出張所管内]



凡例：

- 側帯およびブロック置場
- 水防倉庫および水防拠点

水防倉庫及び備蓄材設置箇所 [土岐川出張所管内]



庄内川水防連絡会構成機関備蓄資材等一覧表(2)ー1

2020年4月1日 現在

| 品名 | 規格 | 名称 | 単位 | 水防倉庫 | | | | | | | 別数 | | | | 備考 | | |
|-----------------|---------------------|--------------------|----|----------|--------|--------|----------|-------|-------|-------|----------|-------|-------|-------|----------|--------|-------|
| | | | | 庄内川第一出張所 | | | 庄内川第二出張所 | | | | 土岐川出張所 | | | | | | |
| | | | | 第一出張所倉庫 | 日比津倉庫 | 水防センター | 第二出張所倉庫 | 長母寺倉庫 | 御幸倉庫 | 熊野倉庫 | 土岐川出張所倉庫 | 土岐津倉庫 | 前畠倉庫 | 青木倉庫 | 土岐防災センター | | |
| 【水防資材】 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 土のう袋 | 48×62cm | - | 袋 | 1,000 | 31,000 | 2,000 | 6,400 | 2,300 | 2,100 | 4,200 | - | 8,000 | 8,000 | 2,100 | 1,900 | 69,000 | |
| 大型土のう袋 | 1m×3型 | - | 袋 | - | - | 25 | - | - | - | - | - | - | - | - | 500 | 525 | |
| 耐候性大型土のう袋 | 1m×3型(2t) | - | 袋 | 200 | - | 185 | 50 | 100 | 100 | 50 | - | - | - | - | 295 | 980 | |
| 吸水性簡易土のう | 20枚入 | - | 枚 | 500 | - | - | 100 | - | - | 10 | - | - | - | 400 | 100 | 1,110 | |
| ロープ | 50m巻、12mmトローブ | - | 巻 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| ロープ | 100m巻、12mmトローブ | - | 巻 | - | - | 40 | - | - | - | - | - | 3 | 5 | 4 | 10 | 62 | |
| ロープ | 10m巻、16mmトローブ | - | 巻 | - | - | - | - | - | 1 | - | - | - | - | - | - | 1 | |
| ロープ | 200m巻、16mmトローブ | - | 巻 | - | - | - | - | 1 | - | 1 | - | - | - | - | 6 | 8 | |
| ロープ(反射) | 10m巻、12mmトローブ | - | 巻 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| ロープ(反射) | 100m巻、12mmトローブ | - | 巻 | 2 | - | - | 1 | - | - | - | - | - | - | - | 5 | 8 | |
| 繩 | 50m巻 | - | 巻 | 21 | - | - | - | - | - | - | - | 14 | 2 | - | - | 37 | |
| 木杭 | L=0.45m、径4~8cm | 本 | 本 | - | - | 50 | - | - | - | - | - | 70 | - | 86 | 206 | | |
| 木杭 | L=0.8m、径15cm | 本 | 本 | - | 13 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 13 | |
| 木杭 | L=1.0m、径6~10cm | 本 | 本 | - | - | 50 | - | - | - | - | - | - | - | - | 50 | 100 | |
| 木杭 | L=1.2m、径10cm | 本 | 本 | - | - | - | - | - | - | - | - | 5 | - | - | - | 5 | |
| 木杭 | L=1.5m、径10~15cm | 本 | 本 | - | - | 50 | 50 | - | - | 50 | - | - | - | - | 50 | 200 | |
| 木杭 | L=1.5m、経12cm | 本 | 本 | - | 700 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 700 | |
| 木杭 | L=2.0m、径10~15cm | 本 | 本 | - | - | 50 | - | 120 | - | 73 | - | 147 | 30 | - | 50 | 470 | |
| 木杭 | L=1.5m、□4.5cm | 本 | 本 | - | - | - | 49 | - | - | - | - | - | - | - | - | 49 | |
| 木杭 | L=1.5m、□6cm | 本 | 本 | - | - | - | 3 | - | - | - | - | - | - | - | - | 3 | |
| ブラ杭 | L=0.55m、□4.5cm | 本 | 本 | - | - | - | 42 | - | - | - | - | - | - | - | - | 42 | |
| ブラ杭 | L=1.5m、¢75mm | 本 | 本 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| ブラ杭 | L=1.5m、¢75mm | プラスチック杭(赤) | 本 | - | - | - | - | - | - | - | - | 40 | - | - | - | 40 | |
| ブラ杭 | L=1.5m、¢75mm | プラスチック杭(黄) | 本 | - | - | - | - | - | - | - | - | 20 | - | - | - | 20 | |
| 角材 | L=1.5m、□4.5cm | 本 | 本 | - | - | - | 12 | - | - | - | - | - | - | - | - | 12 | |
| 釘ビン | 径15~16mm、L=1.2m | 本 | 本 | 20 | - | - | 23 | 32 | 15 | 25 | - | 103 | 213 | 100 | 200 | 731 | |
| 釘線 | なまし亜鉛、10# | kg | kg | 40 | - | - | 30 | 50 | - | 50 | - | 50 | - | - | 50 | 270 | |
| セフティーコーン | - | 個 | 個 | 30 | - | 37 | 37 | 10 | 5 | 10 | - | - | - | - | - | 129 | |
| セフティーコーン | - | 個 | 個 | - | - | - | - | - | - | - | - | 3 | - | - | - | 3 | |
| セフティーコーン | - | 個 | 個 | - | - | - | - | - | - | - | - | 2 | - | - | - | 2 | |
| セフティーコーンカウンター | - | 個 | 個 | 20 | - | 37 | 38 | 10 | - | 10 | - | - | - | - | - | 115 | |
| セーフティーバー | - | 個 | 個 | 20 | 5 | 20 | 19 | - | - | - | - | 20 | - | - | - | 84 | |
| A型バリケード | - | 個 | 個 | - | 10 | - | 23 | - | 5 | 5 | - | - | - | - | - | 58 | |
| A型バリケード用水のう | - | 個 | 個 | - | 10 | - | 20 | - | - | - | - | - | 12 | - | - | 42 | |
| ブルーシート | 3.6×5.4 | 枚 | 枚 | 60 | - | 30 | 41 | 24 | - | - | - | - | 18 | 14 | 40 | 227 | |
| ブルーシート | 5.4×7.2 #3000 | 枚 | 枚 | - | - | 3 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 3 | |
| 洗面保護シート | - | 枚 | 枚 | - | - | 40 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 40 | |
| 水防マット | T型マット | 枚 | 枚 | - | 9 | - | 19 | - | - | - | - | - | 14 | - | - | 42 | |
| 水防マット | 3×5 | 枚 | 枚 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| 越水留め水のう | 6.15×0.7m | 箱 | 箱 | 6 | - | - | 3 | - | - | 2 | - | 4 | - | - | - | 15 | |
| 土のう砂 | 0.9×5.0×9.5m | m3 | m3 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| 土のう砂 | 0.7×6.4×23.5m | m3 | m3 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| フィルターエュニット | 2t用 | 袋 | 袋 | - | - | - | - | - | 12 | - | - | - | - | - | - | 12 | |
| 【水質事故資材】 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| オイルフェンス | EP-200S (長さ20m) | 水面上20cm、水面下30cm | m | - | 100 | - | - | - | - | - | - | - | - | 40 | - | 90 | 230 |
| オイルフェンス | EP-300S (長さ20m) | 水面上30cm、水面下40cm | m | - | 60 | - | - | 60 | 30 | 60 | - | 100 | - | - | - | 310 | |
| オイルフェンス | モリオイルフェンスK-120、10m | 10m1セット | m | 50 | - | - | - | - | 50 | - | - | - | - | - | - | 100 | |
| オイルフェンス | φ300 L=20m | 本 | 本 | - | 10 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 10 | |
| オイルフェンス | φ150 L=9m | 本 | 本 | - | 10 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 10 | |
| オイルプロッター | 65×65×4 | 箱 | 箱 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| オイルマット | BL-F型 80枚/箱、万国旗型 | 10枚綴4本、20枚綴2本入三井 | 枚 | - | 400 | - | 240 | 320 | 160 | 400 | 240 | - | - | - | - | 1,760 | |
| オイルマット | BL-6500型 65*6500,1巻 | 三井化学タフネルオイルブロッター | 巻 | - | - | - | - | 5 | - | 4 | - | - | - | - | - | 9 | |
| オイルマット | BL-65型 65*65、100枚入 | 三井化学タフネルオイルブロッター | 枚 | - | 700 | - | 2 | 290 | 230 | 427 | - | - | - | - | 600 | - | 2,249 |
| オイルマット | 50*56cm マットタイプ 50枚入 | 油ゲル化マット、アルファ社 | 枚 | - | - | 250 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 300 | 550 |
| オイルマット | 50*2800cm ロングタイプ 1枚 | 油ゲル化マット、アルファ社 | 枚 | - | - | 2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 2 | |
| オイルマット | 50*50、50-YH | 東洋紡Cマット(エーシーマット) | 枚 | 300 | - | - | - | - | - | - | - | 400 | - | - | - | 700 | |
| オイル専用吸収シート | 50×50cm、110枚入 | アルファ社 MAXXセレクトJ-50 | 枚 | - | - | 1,100 | - | - | - | - | - | 440 | - | - | - | 400 | 1,940 |
| チューブ型油吸着材 | ラバライザー、φ57mm×15m,1缶 | 本 | 本 | - | 5 | - | - | - | - | - | - | 9 | - | - | - | 14 | |

庄内川水防連絡会構成機関備蓄資材等一覧表(2)-2

2020年4月1日現在

| 品名 | 規格 | 名称 | 単位 | 水防倉庫 | | | | | | 別数量 | | | | 備考 |
|------------|------------------|-------------|----|----------|-------|--------|----------|-------|------|--------|----------|-------|------|------|
| | | | | 庄内川第一出張所 | | | 庄内川第二出張所 | | | 土岐川出張所 | | | | |
| | | | | 第一出張所倉庫 | 日比津倉庫 | 水防センター | 第二出張所倉庫 | 長母寺倉庫 | 御幸倉庫 | 熊野倉庫 | 土岐川出張所倉庫 | 土岐津倉庫 | 前畠倉庫 | 青木倉庫 |
| 【器具】 | | | | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 掛矢 | 8角、135mm | - | 丁 | - | - | - | 8 | 2 | - | 1 | - | 1 | - | - |
| 掛矢 | 8角、150mm | - | 丁 | 12 | - | 9 | - | - | 6 | 1 | - | 3 | 5 | 1 |
| スコップ | 丸形 | - | 丁 | 44 | 6 | 12 | 5 | 10 | 4 | 5 | 1 | 8 | 10 | - |
| スコップ | 角形 | - | 丁 | 1 | - | - | 2 | - | 5 | - | - | - | - | 8 |
| カマ | 大 長柄付 | - | 丁 | 2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 4 |
| カマ | 小 180mm | - | 丁 | 10 | - | - | - | 5 | 5 | 3 | - | 2 | - | 25 |
| のこぎりカマ | - | - | 丁 | 2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 2 |
| ノコギリ | 替刃式 | - | 丁 | - | - | 4 | 1 | 2 | 2 | - | - | - | - | 5 |
| ノコギリ | 両刃式 | - | 丁 | 3 | - | - | - | - | 1 | - | 2 | - | - | 6 |
| 金ノコ | - | - | 丁 | - | - | - | - | - | 1 | - | - | - | - | 1 |
| チェンソー | 日立CS | - | 本 | - | - | - | - | - | - | 1 | - | - | - | 1 |
| クリッパー | 350mm | - | 丁 | - | - | - | - | - | 1 | - | - | 1 | - | 2 |
| ディスクグラインダ | 砥石寸法100mm | - | 機 | - | - | - | - | - | - | 1 | - | - | - | 1 |
| ベンチ | 絶縁175mm | - | 丁 | 4 | - | 5 | 3 | 1 | - | 2 | - | 4 | - | 5 |
| ツルハシ | 両口 | - | 丁 | 5 | 1 | 5 | 11 | 2 | 2 | 2 | 1 | 3 | 2 | - |
| シノ | - | - | 丁 | 3 | - | - | 5 | - | 5 | - | - | - | - | 8 |
| ナタ | ケース付 180mm | - | 丁 | 3 | - | - | - | 1 | - | - | - | - | - | 5 |
| たこづち | - | - | 丁 | 1 | - | - | 2 | - | - | - | 1 | 1 | - | 5 |
| ハンマー | 大 | - | 丁 | 1 | - | - | 1 | - | 4 | - | 1 | 1 | 1 | 11 |
| カナヅチ | - | - | 丁 | - | - | 1 | 3 | - | 10 | - | - | 2 | - | 5 |
| 六角バーナー | - | - | 本 | 1 | - | - | 2 | - | 6 | - | - | - | - | 9 |
| 釘抜きバーナー(小) | L=30cm | - | 本 | - | - | - | - | 2 | - | - | 1 | - | - | 3 |
| くわ | - | - | 丁 | - | - | - | 2 | - | 5 | - | - | - | 1 | - |
| 脚立 | 0.9m | - | 基 | 1 | - | - | 1 | - | - | - | - | - | - | 2 |
| 脚立 | 1.7m | - | 基 | 2 | - | - | 1 | - | 1 | - | - | - | - | 6 |
| ポータブル発電器 | - | - | 台 | 1 | - | - | 1 | - | - | - | 1 | - | - | 3 |
| コードリール | ホンダ GT-30 | - | 台 | - | - | 1 | 1 | - | - | 1 | - | - | 1 | - |
| ハロゲン投光器 | ニチゼンNH-200C | - | 機 | 2 | - | - | 3 | - | - | - | - | - | 3 | - |
| ハロゲン投光器 | 2灯三脚式 | - | 機 | - | - | 1 | - | - | - | - | - | - | - | 1 |
| 投光器 | - | - | 器 | 1 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 1 |
| 三脚スタンド | ニチゼンNS-31 | - | 台 | 1 | - | - | 2 | - | - | - | 1 | - | - | 6 |
| 三脚雲台 | ニチゼンNS-32 | - | 個 | - | - | - | 1 | - | - | - | 1 | - | - | 2 |
| 一輪車 | - | - | 台 | - | 4 | - | 2 | - | - | - | - | - | - | 6 |
| 一輪車 | フレームのみ | - | 台 | - | 5 | - | - | - | - | - | - | - | - | 5 |
| 空気入れ | DC-12V | - | 個 | 1 | - | - | - | - | - | - | - | 1 | - | 2 |
| 救命胴衣 | - | - | 着 | 11 | - | - | 8 | - | - | 3 | 4 | - | - | 28 |
| 救命ボート | ゴム製4人乗り | - | 艘 | 4 | - | - | 2 | - | - | - | - | - | - | 7 |
| ボート | - | - | 艘 | - | - | - | 1 | - | - | - | - | 1 | - | 2 |
| ボート用エンジン | - | - | 台 | 1 | - | - | 1 | - | - | - | - | - | - | 3 |
| オール | - | - | 組 | 3 | - | - | 3 | - | - | - | - | 2 | - | 9 |
| ボート用空気入れ | 足踏み式 | - | 個 | 2 | - | - | 1 | - | - | - | - | - | - | 3 |
| ボート用空気入れ | 手動式 | - | 個 | 1 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 1 |
| 救命浮標 | - | - | 個 | 1 | - | - | 1 | - | - | - | - | - | - | 3 |
| ボリタンク | 飲料用 | - | 個 | 4 | - | - | 4 | - | - | 9 | 1 | 1 | 1 | - |
| ボリタンク | 燃料用 | - | 個 | - | 14 | - | 1 | - | - | - | - | 1 | - | 16 |
| ボリタンク | 20ℓ | - | 個 | - | 11 | - | - | - | - | - | - | - | - | 11 |
| 混合オイル缶 | 20ℓ | - | 個 | - | - | - | - | - | - | 1 | - | - | - | 1 |
| 単管バリケード用馬 | - | - | 個 | - | 80 | - | - | - | - | - | - | - | - | 80 |
| バリケード用おもり | 160×150×500 | - | 個 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 鉄ボルル | L=150cm φ30mm | - | 本 | - | - | - | - | - | - | - | 20 | - | - | 20 |
| 赤白ボルル | L=2.0m | - | 本 | - | - | - | - | - | - | - | - | 12 | - | 12 |
| プラスティックボール | L=1300 φ 65 反射材付 | - | 本 | - | - | - | - | - | 28 | - | - | - | - | 28 |
| バケツ | - | - | 個 | - | - | - | - | - | - | - | - | 3 | - | 3 |
| 消火器 | - | - | 本 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 大旗(赤) | - | - | 本 | - | - | - | - | - | - | - | 1 | - | - | 1 |
| ガスボンベ | - | - | 缶 | - | - | - | - | - | - | - | - | 9 | - | 9 |
| 簡易式カセットコンロ | - | - | 台 | - | - | - | - | - | - | - | - | 1 | - | 1 |
| リングバー | L=2m | - | 本 | - | - | - | - | - | - | 10 | - | - | - | 10 |
| キングボストカバー | - | - | 個 | - | - | - | - | - | - | 16 | - | - | - | 16 |
| 境界鉢 | φ 150mm | - | 個 | - | - | - | - | - | - | 25 | - | - | - | 25 |
| グリース缶 | 20ℓ | - | 缶 | - | - | - | - | - | - | 1 | - | - | - | 1 |
| 看板(地震警戒宣言) | H1.6m W1.1m | - | 台 | - | - | - | - | - | - | 3 | - | - | - | 3 |
| コンパンネ板 | □ 300×420 t=12mm | - | 枚 | - | - | - | - | - | - | - | 60 | - | - | 60 |
| オイルマット | アブソライト | 三井化学 アブソライト | 枚 | - | - | - | - | - | - | 15 | - | - | - | 15 |

庄内川水防連絡会構成機関備蓄資材等一覧表(2)-3

2020年4月1日現在

| 品名 | 規格 | 名称 | 単位 | 水防倉庫別数量 | | | | | | | | | 備考 | | |
|---------------|-----------------|-------------|----|----------|-------|---------|----------|-------|------|--------|----------|-------|------|------|----------|
| | | | | 庄内川第一出張所 | | | 庄内川第二出張所 | | | 土岐川出張所 | | | | | |
| | | | | 第一出張所倉庫 | 日比津倉庫 | 水防水センター | 第二出張所倉庫 | 長母寺倉庫 | 御幸倉庫 | 熊野倉庫 | 土岐川出張所倉庫 | 土岐津倉庫 | 前畠倉庫 | 青木倉庫 | 土岐防災センター |
| 草寄せ | - | - | 本 | - | - | - | - | - | - | - | - | 2 | - | - | 2 |
| 簡易トイレ(目隠し板付属) | カートリッヂペル一缶20L | - | 本 | - | - | - | - | - | - | - | - | 1 | - | - | 1 |
| 非常食セット(各種) | 6缶/箱 | 賞味期限2020年まで | 個 | - | - | - | - | - | - | - | - | 6 | - | - | 6 |
| 折りたたみ式自転車 | - | - | 台 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 1 | 1 | 1 |
| ロープ(反射) | 100m巻、14mmトラロープ | - | 巻 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 6 | 6 | 6 |
| 綿ロープ | φ9×20m | - | 本 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 8 | 8 | 8 |